



2025年度
教師海外研修実践報告集
研修国：モンゴル国
Mongolia

想定と想像を超える旅

Cross Over



独立行政法人 国際協力機構
北海道センター (JICA北海道)

目次

I. 教師海外研修の概要	003
1. <u>教師海外研修とは</u>	
はじめに	
JICA 教師海外研修の目的	
JICA 北海道教師海外研修 実施体制	
研修の流れ	
アドバイザー紹介	
2. <u>参加者/現地同行者一覧</u>	
3. <u>研修国(モンゴル国)概要</u>	
II. 研修プログラムと参加者の学び	011
本誌によく出てくる言葉/主な訪問先	
研修全体の日程	
第一次事前研修【JICA 北海道(帯広)】(2025年6月21日(土) 13:00~18:10、22日(日) 9:00~12:30)	
第二次事前研修および国際理解教育セミナー(実践編)	
【北海道立道民活動センター かでの2・7】(2025年7月19日(土) 13:00~18:20)	
【JICA 北海道(札幌)】(2025年7月20日(日) 9:00~12:30)	
海外研修【東京、モンゴル国】(2025年8月2日(土)~8月10日(日)、移動を含む)	
帰国後研修【JICA 北海道(帯広)】(2025年9月13日(土) 13:00~18:30、14日(日) 9:00~12:20)	
成果報告会【JICA 北海道(札幌)/オンライン】および国際理解教育セミナー(共有編)	
(2025年11月29日(土) 13:00~17:40、30日(日) 9:00~12:00)	
III. 実践報告書(指導案集)	041
特別支援学校(北海道室蘭養護学校 山西 真理 教諭)	
小学校(幕別町立札内北小学校 小野 竜大 教諭)	
小学校(利尻富士町立鴛泊小学校 藤森 菜月 教諭)	
小学校(釧路市立鳥取小学校 本間 千尋 教諭)	
中学校(札幌市立北野中学校 菅井 誠 教諭)	
中学校(札幌市立元町中学校 山田 翔子 教諭)	
高等学校(北海道中標津高等学校 荒井 清貴 教諭)	
高等学校(旭川藤星高等学校 小野 瑞貴 教諭)	
IV. 参考資料	179

I. 教師海外研修の概要

【教師海外研修とは】

◆はじめに

教師海外研修は、昭和 40 年度(1965 年)に移住事業の理解促進のために南米を中心に高校教師向けの海外研修として始まりました。その後、小学校・中学校の教員も対象とし、現在まで約 3,700 名が参加しています。2003 年以前は、JICA が全国の教員を対象に本研修を実施しておりましたが、2004 年度のエジプト派遣より JICA 北海道単独で本研修が開始されました。以降、カンボジア・タンザニア・ネパール・セネガル・スリランカ・キルギス等に約 200 名の教員を派遣しております。新型コロナウイルス感染症による影響により、本研修は 2019 年度以後、実施を断念せざるを得ない状況に追い込まれました。その後、2 度の道内での教師国内研修を経て、2023 年度は 4 年ぶりに従来の教師海外研修として実施いたしました。また 2024 年度から、道内学校の夏休み延長を考慮して、例年冬に実施していた現地研修を夏へ変更しました。今年度は昨年に引き続き夏に実施し、水谷由美アドバイザーと D-net の東峰宏紀アドバイザーを迎え、学びを深めました。

◆JICA 教師海外研修の目的

JICA は国際協力事業を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、諸外国との関係や異文化理解等について、ますますグローバル化する教育活動に協力しています。

本研修は、国際理解教育や開発教育に関心を持つ教員を対象に、国際理解教育セミナー等の国内研修と、開発途上国への海外研修を組み合わせ実施し、開発途上国の置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深めます。その成果を学校の教育現場での授業実践等を通じて参加者に次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらふこと、また研修参加後に JICA と協力し、教育現場で国際理解教育や開発教育を推進する中核となるような人材を育てることを目的に実施するものです。

◆JICA 北海道教師海外研修 実施体制

主催：独立行政法人国際協力機構 北海道センター（JICA 北海道）

後援：外務省・文部科学省・北海道教育委員会・札幌市教育委員会

協力：北海道開発教育ネットワーク（D-net）

国内研修運営：公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA）

◆研修の流れ

海外研修の効果を高めるため、訪問国への理解を深めるための情報提供等を目的とした 2 回の国内での事前研修と、研修の成果を生かした実践的な指導案作りを目的とした事後研修を実施しています。また、これらの研修と国際理解教育セミナーとを組み合わせることで、授業づくりに必要な手法の習得や研修成果の発表の機会を提供し、他の教員とも共有することで、実践者のネットワーク作りを進めていきます。

日程	内容
(2025 年 4 月)	(オンライン説明会)
6 月	研修参加決定通知の送付
6/21・22	【第一次事前研修】 JICA 北海道(帯広) (詳細は P14~) ・ JICA 教師海外研修オリエンテーション (動画) ・ モンゴル概要、研修の流れ、参加型手法の授業体験、モンゴル人との交流、チームミーティング (ミニ授業、テーマ決め)、旅程確認など
6~7 月	【事前学習】 ・ 研修先 (モンゴル) 基礎情報収集とミニ授業作成
7/19・20	【第二次事前研修 兼 国際理解教育セミナー実践編】 (P18~) 北海道立道民活動センター かでる 2・7 / JICA 北海道(札幌) ・ 視察先について、ミニ授業発表、参加型手法の授業体験、チームミーティング (視察先、交流案) など

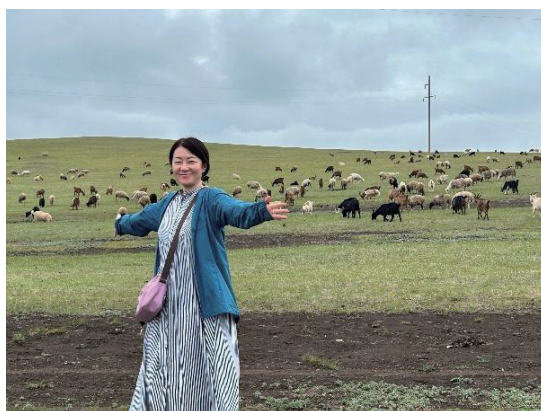
<p>8/2～8/10</p>	<p>【モンゴル海外研修】 (P24～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研修先訪問 ・研修中の情報収集活動、指導案枠組み作成に係る意見交換 ・1日のプログラム終了後の振り返り、情報共有 <div data-bbox="358 443 1339 661" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【帰国後作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報の整理と共有 ・研修日記の作成 ・アドバイザーからの助言を踏まえた指導案（第1稿）の作成 </div>
<p>9月 9/13・14</p>	<p>【事後研修】 JICA 北海道(帯広) (P33～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成に係る参加者間の意見交換、アドバイザーによる助言 <div data-bbox="358 874 849 955" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※指導案（仮完成版）を提出</p> </div>
<p>10月～</p>	<p>【各校での実践授業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー/スタッフによるモニタリング ・ホームページ等実践例を掲載 <div data-bbox="358 1196 1263 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※実践授業を基に、指導案完成版（実践報告書）を作成</p> </div>
<p>11/29・30</p>	<p>【成果報告会 兼 国際理解教育セミナー共有編】 (P36～) JICA 北海道(札幌) 対面 / オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修の概要発表 ・模擬授業体験、教材紹介セッション ・研修全体を通しての振り返り
<p>2026年 1～3月</p>	<div data-bbox="358 1735 1045 1855" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導案完成版（実践報告書）の提出】 実践報告書集の作成、ホームページに掲載</p> </div>

◆開発教育アドバイザー紹介

本研修では、国際理解教育の実践者として2人のアドバイザーの方からご指導・ご助言をいただきながら学習指導案の作成、授業実践を行いました。

アドバイザー：JICA 北海道（帯広）開発教育アドバイザー 水谷 由美 氏
清水町立御影中学校 教諭

2003年、JICA 教師海外研修でガーナに派遣され、開発教育に出会い、授業実践（自主開発教材）を積み重ねている。2006年～2008年、外国教育施設日本語指導教員派遣事業（文科省派遣）において、カナダ・アルバータ州の公立高校に派遣され、カナダ人生徒に日本語・日本文化や開発教育を指導した。2012年、ESD 日米教員交流プログラム（ユネスコ・フルブライトジャパンによる派遣）で、持続可能な開発のための教育（ESD）を共通のテーマとし、日米間で教員の相互交流、意見交換、共同研究を行った。2020年、長期社会体験研修にて JICA 北海道（帯広）道東業務課に1年間勤務し、2021年から JICA 帯広開発教育アドバイザーとして兼職。2023年度キルギス研修、2024年度ザンビア研修にて JICA 北海道教師海外研修のアドバイザーを務める。



雄大なモンゴルの自然と水谷アドバイザー

アドバイザー：北海道開発教育ネットワーク(D-net)代表 東峰 宏紀 氏
石狩市立双葉小学校 校長 / 石狩管内国際理解教育研究協議会副会長
/ 日本国際理解教育学会会員

2002年、在外教育施設派遣教員として在チェコ大使館附属プラハ日本人学校赴任。2006年には北方圏センター開発教育ファシリテーター養成事業海外研修（カンボジア・ベトナム）に参加。2007年、2010年には日本国際理解学会において研究の発表をしている。また、科学研究費助成事業（日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発）の研究にも参加している。2013年からは長期社会体験研修にて JICA 北海道市民参加協力課勤務。2015年度には教師海外研修（エチオピア）にてアドバイザーとして同行。また、北海道開発教育ネットワーク（D-net）の代表を務める傍ら、地雷問題を考える「カンボジアの子どもたち」など、自主開発教材も多数発表している。



遊牧民の住居・ゲルの前に立つ東峰アドバイザー

【研修参加者/アドバイザー/スタッフ/現地同行者一覧】

No.	氏名	所属先	教科等
1	やまにし まり 山西 真理	北海道室蘭養護学校	保健体育
2	おの りゅうた 小野 竜大	幕別町立札内北小学校	3～6 学年担当
3	ふじもり なつき 藤森 菜月	利尻富士町立鴛泊小学校	家庭科
4	ほんま ちひろ 本間 千尋	釧路市立鳥取小学校	英語
5	すがい まこと 菅井 誠	札幌市立北野中学校	社会科地理(英語)
6	やまだ しょうこ 山田 翔子	札幌市立元町中学校	国語
7	あらい きよたか 荒井 清貴	北海道中標津高等学校	英語
8	おの みずき 小野 瑞貴	旭川藤星高等学校	地理・歴史・公民
9	みずたに ゆみ 水谷 由美	清水町立御影中学校 JICA 帯広開発教育アドバイザー	アドバイザー (帯広)
10	とうみね ひろき 東峰 宏紀	石狩市立双葉小学校 D-net 代表	アドバイザー (札幌)
11	きりやま み 桐山 あす美	JICA 北海道(札幌) 市民参加協力課	-
12	のの がき まさみ 野々垣 真実	JICA 北海道(帯広) 道東業務課	-
13	ガディル そのえ 園 恵	青年海外協力協会 (JOCA)	-
14	さわい こうすけ 沢井 孝介	青年海外協力協会 (JOCA)	-
15	かなざき きょうこ 金崎 恭子	青年海外協力協会 (JOCA)	-
16	やまだ なつき 山田 夏航	十勝毎日新聞社 記者	-

所属先、担当教科等は研修当時のものです。

【研修国（モンゴル国）概要】

首都:ウランバートル

面積:156万4,100平方キロメートル(日本の約4倍)

人口:354.4万人(2024年、モンゴル国家統計局)

民族:モンゴル人(全体の95%)及びカザフ人等

言語:モンゴル(国家公用語)、カザフ語

宗教:モンゴル仏教等(社会主義時代は衰退していたが民主化(1990年前半)以降に復活。

1992年2月の新憲法は信教の自由を保障)

主要産業:鉱業、牧畜業、流通業、軽工業

通貨:トグログ(MNT) ※1米ドル=3389.98トグログ(2024年平均、モンゴル国家統計局)

※本誌ではトゥグルグと記載

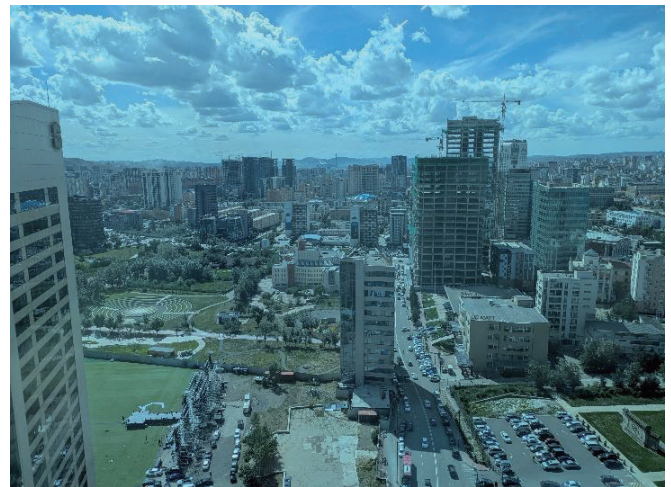
二国間関係:モンゴルの民主化・市場経済化以降、両国関係は急速に発展。2022年11月、「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」を設立。地域・国際場裡での協力を含め、幅広い分野で交流、協力が進展している。

(外務省ホームページより抜粋)

モンゴルは、日本の約4倍の面積に、約350万人が暮らす、自然豊かな内陸国です。平均年齢が29歳と若く、日本語が堪能な人も多い国です。成田空港からの直行便もあり、約5時間で到着します。石炭、銅、ウラン、レアメタル・レアアース等の豊富な地下資源に恵まれており、鉱業部門（GDPの約20%、輸出の約80%を占める）が現在のモンゴル経済を牽引している一方、鉱物資源の輸出に大きく依存した経済構造となっており、非鉱業セクターの育成による産業多角化が課題となっています。JICAは、モンゴルにおいて、以下の3つの重点分野を協力戦略として位置づけ、事業を展開します。

1. 健全なマクロ経済の運営とガバナンス強化
2. 環境と調和した均衡ある経済成長の実現
3. インクルーシブな社会の実現

(JICA ホームページより抜粋)



Ⅱ.研修プログラムと 参加者の学び

※氏名・所属は参加当時のものです。

※教員による原文を生かしておりますので、
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

また、記載内容は JICA の見解とは異なる場合があります。



本誌によく出てくる言葉

●スーテーツァイ

モンゴルで親しまれている塩味のミルクティー。

●CU

モンゴルで人気の韓国発のコンビニ。

●ゾド

寒冷による家畜の体力消耗に加え、積雪や表土凍結により地表が覆われ牧草へのアクセスができなくなり、多くの家畜の命が奪われる自然災害。

●ホーミー

モンゴルに伝わる、一人で2つの声をだす歌い方。

●デール

モンゴルの伝統衣装で、ズボンと革靴を履いてたけの長い上着を着る。馬にまたがりやすいように足を開きやすい形になっている。

●ナーダム

毎年7月11日の革命記念日にひらかれる国民的なお祭り。競馬・相撲・弓の3つを競い合うモンゴルの夏の風物詩。

●ゲル

遊牧民の移動式住居。



主な訪問先

●市場志向型農業推進プロジェクト (MON-SHEP) サイト

市場のニーズに合わせて作物を育て、収入アップをめざす「MON-SHEP」に取り組む農家で、市場調査や計画的な栽培を実践している現場。

●新モンゴル小中高一貫校

創設者が日本の学校で学んだ経験を生かして設立された私立校で、英語教育や探究的な学びに力を入れ、国際社会で活躍できる人材育成をめざす学校。

●トルゴイト地域開発センター (現地NGO)

元々遊牧生活をしていた人々が多く住むゲル地区で、生ごみ堆肥づくりや家庭学習支援、サマーキャンプなど、住民のニーズに応じた地域づくりを進め、日本とも連携しているNGO。

●玉ねぎ品種改良・フードバリューチェーン構築モデル農場

モンゴルの気候に合う玉ねぎの新品種づくりに挑み、栽培から販売までの流れを整えながら地域ブランドの創出をめざすモデル農場。

●モンゴル日本人材開発センター

ビジネス研修や日本語教育を行い、日本とモンゴルの人材・文化交流を深める人材育成センター。



研修全体の日程



	場所	日程	内容
第一次 事前研修	JICA 北海道(帯 広)	2025/6/21(土) 13:00~18:10 2025/6/22(日) 9:00~12:30	オリエンテーション、概要説明、チ ームミーティング(自己紹介)、ワークセ ッション、過年度参加者による講座 「教師海外研修での学びと流れにつ いて」 授業づくりについて、モンゴル人と交 流、チームミーティング(テーマ決め)
第二次 事前研修	北海道立道民活 動センター(か でる2・7) JICA 北海道(札 幌)	2025/7/19(土) 13:00~18:20 2025/7/20(日) 9:00~12:30	参加型手法を用いたミニ授業づくり 国際理解教育セミナー【実践編】 旅程確認、現地での活動準備
海外研修	モンゴル国	2025/8/2(土) ~8/10(日)	学校訪問、JICA プロジェクト現場視 察、草の根技術協力事業視察、NGO 活動現場視察等
事後研修	JICA 北海道(帯広)	2025/9/13(土) 13:00~18:30 2025/9/14(日) 9:00~12:20	指導案検討会 研修参加者は指導案を作成、他の研修 参加者および関係者と指導案を共有、 意見交換
成果報告会	JICA 北海道(札 幌)/オンライン	2025/11/29(土) 13:00~17:40 2025/11/30(日) 9:00~12:00	国際理解教育セミナー【共有編】 成果報告会を一般公開し、研修参加者 の研修報告および授業実践報告を行う 学びの共有、研修の振り返り
成果品の 作成		2025/3 月末	研修参加者の海外研修報告書及び実践 報告書を基に成果品として報告書を作 成し、関係者に配布(電子版および簡易 製本版)



日時：2025年6月21日（土）13：00～18：10
6月22日（日）9：00～12：30

場所：JICA 北海道（帯広）センター

参加：研修参加者8名（北海道）、開発教育アドバイザー2名

JICA 北海道スタッフ、青年海外協力協会（JOCA）スタッフ、十勝毎日新聞社記者

目的：・参加者に期待されることを理解し、参加意識を高める

・参加型授業づくりとはどのような授業かを学び、どのように実践できるか考える

・参加者同士のチームビルディングをおこなう

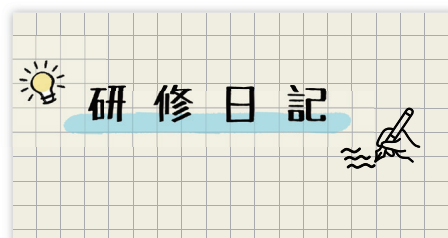
【1日目 6月21日（土）】

12:45～	受付
13:00～14:00 (60分)	JICA 教師海外研修オリエンテーション 動画視聴 ※当プログラムは、全 JICA 国内拠点で一括して実施するため、共通の動画を視聴いただき、JICA・開発教育支援事業/教師海外研修・安全対策について等、研修参加に必要な知識を深めていただきます。 (同日午前中にオンラインで実施したものを視聴します)
14:00～14:10 (10分)	ご挨拶「JICA 事業に関わる皆様に期待すること」 JICA 北海道（帯広）代表 根本 直幸 教師海外研修に係る スタッフ紹介
14:10～14:25 (15分)	【教師海外研修の概要説明①】 ・授業づくりの流れを確認（学ぶ→体験→つくる→実践→発表）
14:25～14:35 (10分)	休憩
14:35～14:45 (10分)	【チームミーティング①】 参加者自己紹介ワークショップ 4つの窓式 自己紹介 「私の名前は〇〇です、〇〇学校で〇〇を教えています。 この研修では〇〇〇を学びたいです。 私は…」 ・最近ハマっていること ・得意な事 ・感銘を受けた言葉、モットー ・モンゴルでやってみたいこと
14:45～15:15 (30分)	【教師海外研修での学びと流れについて～より良い研修するために～】 2024 年度教師海外研修（ザンビア）参加者 音更町立木野東小学校 杉村 萌 教諭
15:15～15:30 (15分)	質疑応答
15:30～17:30 (120分)	【ワークセッション】国際理解教育について ～JICA の教育的資源を活かした授業づくり～ 講師：開発教育アドバイザー 水谷 由美
17:30～17:40 (10分)	休憩
17:40～17:50 (10分)	【チームミーティング②】 役割分担（団長/副団長/会計/記録） ※参加者が主体となって学ぶ研修のため、様々な対応はチームで行うことになります。（スタッフは裏方を担います）

17:50~18:10 (20分)	JICA 北海道（帯広）センター案内 【海外と地域の繋がりを意識し、伝え方を考える】 ・道東地域と世界が繋がる結節点 ・SDGs 学習の拠点 ・世界各国の文化に触れる仕組み
----------------------	--

【2日目 6月22日（日）】

8:45~	受 付
9:00~9:40 (40分)	【参加型授業の体験と授業づくりについて】 5年生家庭科「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」 2023年度教師海外研修（キルギス）参加者 幕別町立札内北小学校 羽山 修斗 教諭
9:40~9:45 (5分)	準備
9:45~11:05 (80分)	【交流】十勝ではたらくモンゴルの方との交流 コーディネーター・通訳：小林 志歩 様 在住モンゴル人：デギーさん (技能実習生、某スーパー食肉加工に勤務) スハーさん (5人家族で在住7年目、牧場で勤務) ① 自己紹介：モンゴルの知りたい事を共有 ② モンゴル式ミルクティー体験 ③ グループ交流：十勝で働く2人の生の声に触れる（30分×2）
11:05~11:10 (5分)	休憩
11:10~12:00 (50分)	【チームミーティング③】 団長・副団長 進行 7月「モンゴルをテーマに参加型授業づくり」の準備 アドバイス：東峰 A 水谷 A <2人一組であつまる> <テーマを決める> A~D、①~④を選ぶ A.おなじとちがい ①歴史、文化（民族、言語、宗教 etc） B.つながりに気づく ②衣食住 C.社会課題 ③教育、社会システム、産業、観光 D.SDGs と私たちが出来る事 ④日本との関係、国際社会との関係 <準備活動> ※参加者が主体となって学ぶ研修のため、様々な対応はチームで行うこととなります。（スタッフは裏方を担います）
12:00~12:20 (20分)	【教師海外研修の概要説明②】 ・研修日記の分担（報告書用記録） ・各種事務手続きの流れ パスポート・渡航手続き・保険・現地スケジュール（予定）
12:20~12:30 (10分)	【諸連絡】 JICA 北海道 【閉会】・集合写真



6月21日（土）

研修名 第一次事前研修1日目

氏名 荒井 清貴

●研修内容、行ったこと

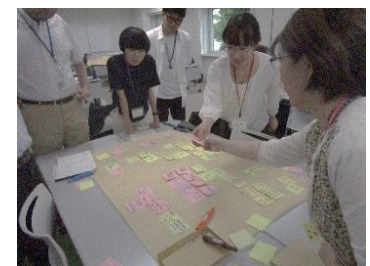
- ・教員海外研修の概要、研修の目的
- ・アドバイザー、スタッフ紹介
- ・教師海外研修での学びと流れについて：前年度参加教諭による講義
- ・ワークショップ：海外と地域の繋がりを意識し、伝え方を考える
- ・チームミーティング：自己紹介、役割分担

●研修で得た学び

全体研修の概要では、海外研修の意義や、海外での危険について改めて学ぶことができました。

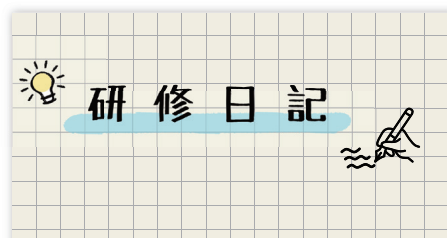
「教師海外研修での学びと流れについて」では、前年度教師海外研修参加者である杉村教諭のご発表を通して、研修には明確なねらいを持つことが重要であること、またそのねらいに沿った参加型学習を実施すること、さらに学びを「やりっぱなし」にせず、リフレクション（振り返り）を行うことの大切さを学びました。授業づくりを研修前に行うのか、それとも研修後に行うのかによって、それぞれにメリット・デメリットがあることについてもご教示いただき、研修に臨むにあたってのビジョンをより明確にすることができました。

ワークショップでは、国際理解教育についての基本的な考え方を学ぶとともに、実際に参加型学習の活動を体験しながら理解を深めました。マイクロディベートやマインドマップなどのアクティビティを通して、生徒に「何を大切にするか」という価値観を育む教育のあり方や、生徒の心を揺さぶり、「自分ごと」として考えさせる授業の重要性を実感しました。今後は、自分自身の体験から得た学びと参加型学習を組み合わせることで、生徒にとってより深く、意義のある学びにつながる授業づくりを実践していきたいと強く感じました。



●研修を受けて感じたこと

この研修を通して、授業づくりにおける考え方や視点を学ぶことができ、今後の実践にしっかりと生かしていきたいと強く感じました。マイクロディベートやマインドマップなどのアクティビティでは、さまざまな国での勤務経験を持つ JICA のスタッフの方々と意見交換をする機会もあり、教員の枠を超えた多角的なアイデアに触れることができた点も非常に有意義でした。また、モンゴルでの実地研修を通して、自分自身の価値観や教育観に新たな視点を加えたいという思いも一層強まりました。



6月22日(日) 研修名 第一次事前研修2日目 氏名 小野 竜大

●研修内容、行ったこと

はじめに2023年度教師海外研修(キルギス)参加者の糸山教諭による「参加型授業の体験と授業づくりについて」と題した、5年生家庭科の「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」をテーマにした授業を体験しました。その後、十勝で働くモンゴル人の方々との交流セッションが行われました。技能実習生のデギーさんと牧場で勤務するスヘーさんのお2人から、モンゴルについて知りたいことをモンゴルのミルクティーやお菓子と共に話すことができる貴重な機会を頂きました。お2人が日本に興味をもったきっかけやモンゴルの気候、食べ物、そして学校の様子など興味深い内容がたくさんありました。最後に集合写真を撮ったことも大切な思い出です。その後、7月に行われる「モンゴルをテーマにした参加型授業づくり」のための準備として、2人1組で授業テーマ(歴史・文化・衣食住・教育・社会システム、産業、観光・日本との関係、国際社会との関係などの①～④のカテゴリから選択)を決める活動を行いました。また、研修全体に関する事務手続きの流れについて説明を受け、研修日記の分担やパスポート、渡航手続き、保険、現地スケジュールなどについての案内がありました。



●研修で得た学び

糸山教諭の参加型授業体験では、生徒が主体的に学び、考えを深めるための実践的な教材と指導法について、具体例を通して学ぶことができました。糸山教諭考案のカードゲームを実際に行うことで、授業の中で行うアクティビティを実感していきました。特に、児童生徒の興味を引き出し、「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」「おなじとちがい」「つながり」「社会課題」「SDGs」について安全かつ円滑に進めるための準備の重要性を再認識させられ、今後の行動計画を具体化する上で役立つ情報でした。チームミーティングでは、校種によって「おなじとちがい」「つながりに気づく」「社会課題」「SDGsと私たちが出来る事」の達成のポイントを変えました。この時間で授業のアクティビティを考えることは難しかったですが、まずはやってみようという思いを大切にこれからも考え続け、7月の第二次事前研修では他のチームの授業も吸収し自分の財産にしていきたいです。



●研修を受けて感じたこと

2日間にわたる第一次事前研修を通じて、教師海外研修が単なる海外視察ではなく、「学び、体験し、つくり、実践し、発表する」という一連のプロセスの中で、参加者が主体となって学びを深めるものであることを強く感じました。特に、モンゴル人の方々との直接の交流は、貴重な経験であり、早くモンゴルで研修をしたいという気持ちをより強くさせました。いよいよ海外研修が現実のものとして目前に迫っていることを実感し、これまでの学びを活かし、残りの準備を着実に進め、モンゴルでの経験を最大限に吸収したいという気持ちが高まりました。





プログラム 第二次事前研修①

国際理解教育セミナー【実践編】

日時：2025年7月19日（土）13:00～18:20

場所：北海道立道民活動センター かでる2・7 1010会議室、1030会議室

国際理解教育セミナー定員：30名

【教師海外研修第二次事前研修】 会場：1010会議室 <目的>・国際理解教育セミナー実践編に参加し、参加型手法を学ぶ。 ・参加型手法を用いてミニ授業づくりに挑戦することで、参加型手法に慣れ親しむとともにチーム力を高める。 ・今後の指導案作成に向け、その方法や心構えを学ぶ。	
12:45～	受付（1010会議室）
13:00～13:15 (15分)	【JICA事業の紹介】 JICA北海道（札幌）所長 中川 岳春
13:15～13:55 (40分)	【モンゴルをテーマにした参加型授業 第1部】 ① 山西先生 × 藤森先生 テーマ おなじとちがい、つながりに気づく × 衣食住 ② 本間先生 × 小野（竜）先生 テーマ おなじとちがい、つながりに気づく × 歴史、文化 →国際理解教育セミナー実践編参加のため 1030会議室へ移動
【国際理解教育セミナー 実践編】 会場：1030会議室 ちがいのちがい ～これってフツー？常識を疑うことからはじめよう！～	
13:45～14:00	受付（1030会議室）
14:00～14:05 (5分)	国際理解教育セミナー開会挨拶 JICA北海道（札幌）所長 中川 岳春
14:05～14:15 (10分)	【アイスブレイク】 ちがいのBINGO！
14:15～15:15 (60分)	【ワークショップ】 ちがいのちがい 講師：D-net 堀 幸美
15:15～15:20 (5分)	休憩
15:20～15:50 (30分)	【振り返り・ワークのポイント】 開発教育アドバイザー 東峰 宏紀
15:50～16:00 (10分)	告知、アンケート、国際理解教育セミナー閉会

16:00~16:10 (10分)	休憩
16:10~16:50 (40分)	<p>【モンゴルをテーマにした参加型授業 第2部】</p> <p>③ 菅井先生 × 山田先生 テーマ 社会課題 × 教育、社会システム、産業、観光</p> <p>④ 荒井先生 × 小野(瑞)先生 テーマ SDGsと私たちが出来る事 × 日本との関係、国際社会との関係</p>
16:50~17:50 (60分)	<p>【モンゴルをテーマにした参加型授業の振り返り】</p> <p>開発教育アドバイザー 東峰 宏紀 開発教育アドバイザー 水谷 由美</p>
17:50~18:05 (15分)	<p>【指導案の書き方について】</p> <p>※指導案フォーマット・実践報告集を使用 開発教育アドバイザー 水谷 由美</p>
18:05~18:20 (15分)	業務連絡・集合写真
18:20	閉会





プログラム 第二次事前研修②

日時：2025年7月20日（日）9：00～12：30

場所：JICA 北海道（札幌）センター

【第2日目】7月20日（日）

- <目的>・渡航前最終研修のため、現地でどのようにフィールドワークを行えるのか想定する。
・授業の構想を練り、現地で必要な活動を洗い出す。
・現地交流活動の準備について、チーム内ですすめる。

8:45～

受付

9:00～11:10
(130分)

- 【視察先について学ぶ】北海道とモンゴルのつながりを知る
コンパス分析
- ① 視察先について確認（北海道とモンゴルの関わりや各事業の目的など）
 - ② コンパス分析の手法を用いて視察先を分析する
1回目：農業プロジェクト（北海道とモンゴルの繋がり）
・草の根技術協力事業「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」一般社団法人滝川国際交流協会
・技術協力「市場志向型農業推進プロジェクト（MON-SHEP）」
2回目：人材育成プロジェクト（日本の国際協力）
・モンゴル日本人材開発センター
・トルゴイト地区地域開発センター（現地 NGO）
 - ③ 質問の精査
現地で行うインタビュー項目、渡航前に調べておくべきこと

進行 JICA 北海道（帯広） 野々垣真実
A グループファシリテーター 東峰 宏紀
B グループファシリテーター 水谷 由美

11:10～11:20
(10分)

休憩

11:20～12:20
(60分)

- 【チームミーティング】交流案・交流に必要なもの・お土産案について
<現地交流予定>
- 新モンゴル学園サマースクールでの交流** 8月5日（火）9：00～12：30
対象：高校3年生（日本語中級レベル）
交流内容予定： 教員自己紹介
アイスブレイク
グループディスカッション（テーマは後日）
準備依頼：
・自己紹介 PPT⇒先生方8名の学校・担当科目がわかるもの（一人3分以内）
- NGO トルゴイト地域開発センターでの交流**
8月6日（水）11：00～15：00
対象：10歳～14歳の子ども 20名前後
- 交流内容予定：
11：00～11：30 NGO スタッフから NGO 概要紹介（通訳あり）
11：30～12：00 先生方の日本紹介（通訳あり）

	<p>12:00~13:00 日本の遊び、ダンス 13:00~14:00 昼食作り 14:00~15:00 食事、片付け、終了</p> <p>準備依頼： ・北海道紹介、日本の学校紹介 PPT ・3グループに分かれた日本の遊び紹介 ・子どもたちと一緒にダンス紹介 ・調理実習内容を決める/買い物リスト作り （※日本の海苔巻きやおにぎり、サンドイッチ程度が望ましい） ⇒スタッフもあわせると40名程度を想定 家庭農園があるので、キュウリやニンジンなどは NGO が提供 炊飯、お湯沸かし可能（買い物は道中に行く ※参加者負担）</p> <p>モンゴル・日本人材開発センター 8月8日（金）9:00~13:00 対象：高校生～社会人 20~30名 交流内容予定： 9:30-10:15 センター事業紹介 10:20-10:30 日本語課講師よりフリートーク説明 10:30-12:45 夏季日本語初級コース参加 準備依頼：フリートーク（会話練習）の際は、既存の学習項目（後日共有）を参考に、文法・語彙を使った会話をしてほしい。その内容に関わる写真（スマホ等）を見せ合いながら話せると盛り上がる。</p> <p style="text-align: right;">進行 JICA 北海道（帯広） 野々垣真実 JICA 北海道（札幌） 桐山あす美</p>
12:20~12:30 (10分)	業務連絡
12:30	終了



研修日記

7月19日(土) 研修名 第二次事前研修1日目 氏名 山田 翔子

●研修内容、行ったこと

- ・ JICA 事業の紹介 (JICA 北海道 所長 中川岳春)
- ・ モンゴルをテーマにした参加型授業 (4つの案)
- ・ ちがいのちがい

～これってフツー？常識を疑うことから始めよう！～



●研修で得た学び

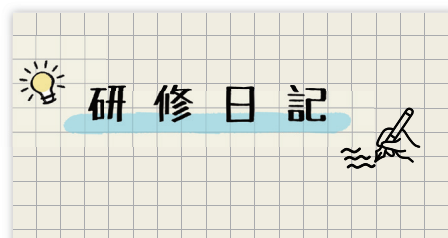
JICA 事業は、私たちの税金から成り立っており、開発途上国に対して、平たく言うと「国造り、人造り」の支援を実施している。日本は「食料を送る」などの直接的な支援だけではなく、「要請支援」を基本とし、それぞれの事業において有償資金協力・無償資金協力を行っている。チングスハーン国際空港は円借款で有償資金協力、天皇陛下が訪問されたモンゴル日本病院は無償資金協力であり、病院内で働く人材育成のサポートを実施している。

堀幸美先生が講師をしてくださった「ちがいのちがい」では、「あってはならないような2つの事例が同時に書かれているカード」を使った授業が行われた。この授業は、①ジレンマを通過した上での「共感的理解」、②多様性の尊重、③自分の中の偏見に気が付くこと、④自分は社会の中の一人だと自覚すること、⑤批判的思考の経験、5つのねらいがあることを知った。同じチームのメンバーとの対話を通して、いい意味での妥協点、つまり合意形成をしていくことの大切さも学んだ。

●研修を受けて感じたこと

4つのペアに分かれて行った参加型授業が、とても有意義な時間だった。それぞれ前回の学びを生かして、フォトランゲージ、ICT(Canva)の活用、カードゲーム、思考ツールなどを使って授業を行うことができた。今後は、細かなところを丁寧に詰めていかなければならない点が課題である。





7月20日(日)

研修名 第二次事前研修2日目

氏名 本間 千尋

●研修内容、行ったこと

①コンパス分析の手法を用いて4つの視察先について分析

～4つの視察先～

- ・一般社団法人滝川国際交流協会「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」
- ・市場志向型農業推進プロジェクト「MON-SHEP」
- ・モンゴル人材開発センター
- ・トルゴイト地区開発センター



②現地での交流、交流に必要なもの、お土産についてのチームミーティング

●研修で得た学び

今回の事前研修では、モンゴルの4つの視察先について、コンパス分析を用いて多角的に学びました。「自然・環境」「経済」「社会」「思考決定」の4つの視点から視察先について考えることで、それぞれのプロジェクトがモンゴルの社会課題や暮らしにどのように繋がっているのか、日本社会とも比較しながら考える機会となりました。中でも、「モンゴル人材開発センター」についての分析では、「将来は日本に行き働きたい」「日本で学びたい」と考えるモンゴルの若い人たちが日本語や専門的なスキルを学んでいることを知りました。現地研修では、「なぜ、日本に来たいのか。」「日本ではどのような仕事をしたいのか。」ということをより深く知ることができるようにしていきたいと思います。また、市場志向型農業推進プロジェクト(MON-SHEP)では、「作りたいものを作る」のではなく、「求められているものを作る」という考えに基づき、市場調査や研修などを行い、持続可能な農業を目指していることを知りました。コンパス分析によって浮かび上がった疑問を、現地での交流を通して直接尋ねたり、肌で感じたりしながら深めていきたいと思います。



●研修を受けて感じたこと

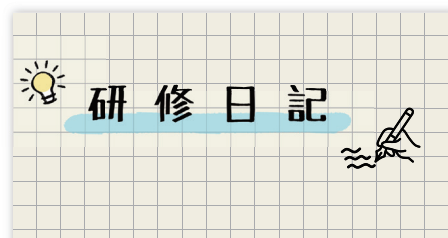
事前研修を経て、私は「支援とは何か」「モンゴルと日本とのつながり」を改めて考えるようになりました。モンゴルの人たちが、日本の言語や文化に対して関心を持っていることを知り、異なる文化や環境の中で共に学び合ったり、信頼関係を築いたりすることの大切さを感じると同時に、その難しさにも目を向ける必要があると感じました。現地交流では、事前情報だけではあまり見えてこなかったモンゴル人やモンゴルに住む日本人の願いや思いに直に触れたいです。また、この研修を通して得た気づきや問いを深め、自分なりの答えを探っていきたいと思います。その経験を通して、「子どもたちにどんな授業を届けたいか」を具体的に考え、帰国後の実践につなげていきたいです。



モンゴル現地研修の行程



日付	時間	視察・訪問先	宿泊
8/2 (土)		国内移動 各空港→成田国際空港	東横イン 成田空港新館
8/3 (日)	22:50	ウランバートル着→ホテル	Bayangol Hotel
8/4 (月)	9:00-10:30	事務所ブリーフィング（事業説明） ・挨拶（JICA モンゴル事務所宮城所長） ・事業説明（鼻戸所員、アンダ所員）	Bayangol Hotel
	10:30-	両替、昼食、移動	
	14:00-15:00	市場志向型農業推進プロジェクト（MON-SHEP）サ イト視察【技術協力事業】 ・農家圃場見学 ・帰国研修員インタビュー	
8/5 (火)	9:00-12:30	新モンゴル小中高一貫校【教育現場】 9:00-10:30 学校案内、サマースクール説明 10:40-12:10 サマースクール参加	Bayangol Hotel
		昼食、移動	
	午後	日本モンゴル教育病院	
8/6 (水)	終日	トルゴイト地域開発センターNGO【現地 NGO】 帰途でデパートに寄り教材収集	Bayangol Hotel
8/7 (木)	終日	一般社団法人滝川国際交流協会による「玉ねぎの 品種改良による新ブランドの確立とフードバリュ ーチェーンの構築」モデル農場視察【草の根技術 協力事業】	Bayangol Hotel
8/8 (金)	9:30-13:00	モンゴル日本人材開発センター ビジネス人材育 成・交流拠点機能強化プロジェクト【技術協力事 業+日本語教育】 9:30-10:15 センター事業紹介 10:20-10:30 フリートーク説明 10:30-12:45 夏季日本語初級コースフリートー ク参加	Bayangol Hotel
	13:00-	昼食、事務所報告準備	
	16:00-17:00	事務所報告（宮城所長、鼻戸所員）	
8/9 (土)	10:30- 13:20	ホテル発 羽田空港着	京急 EX イン 羽田
8/10 (日)		羽田空港→各空港	



8月3日（日） 研修名 モンゴル研修1日目 氏名 菅井 誠

●研修内容、行ったこと

13時20分、成田空港を出発し、韓国の仁川国際空港へ向かった。フライトは順調で、約2時間半の空の旅だった。仁川に到着後、3時間以上のトランジット時間を利用して、参加者全員で韓国の文化体験プログラムに参加した。伝統的な小物作りを体験したり、韓服を着て記念撮影をするなど、短時間ながらも韓国文化にどっぷり浸ることができた。自由時間には各自ショッピングを楽しみ、韓国ならではの土産を購入する人も多く見られた。

その後、空港内で翌日の市場志向型農業推進プロジェクト(MON-SHEP)に向けた質問事項について意見を出し合い、真剣な表情で討議に臨んだ。各自が自分の役割や関心をもとに、現地でのインタビューに備えた質問を練り上げる時間となった。そして、いよいよモンゴル・ウランバートルへのフライトへ。長時間の移動を経て、現地時間23時過ぎ、無事にチンギスハーン国際空港に到着した。



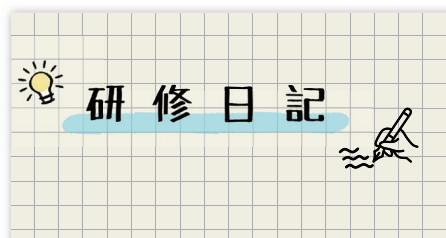
●研修で得た学び

短時間ではあったが、韓国の文化に実際に触れることができ、異文化理解への関心が一層高まった。また、研修メンバーでの事前討議を通して、個人の視点だけでなく、全体の目的意識を持って行動する重要性を感じた。

●研修を受けて感じたこと

心が刺激され、研修がいよいよ始まるという実感が湧いた。明日から始まる本格的なワールドワークに向け、最高の仲間たちと気持ちを新たに臨みたい。





8月4日(月) 研修名 モンゴル研修2日目

氏名 山西 真理

●研修内容、行ったこと

- ・ JICA モンゴル事業所訪問
- ・ 市場志向型農業推進プロジェクト(MON-SHEP)サイト視察【技術協力事業】
- ・ 農家圃場見学(萬谷専門家)
- ・ 家畜農家訪問

●研修で得た学び

JICA モンゴル事務所では、日本とモンゴルの繋がりや取り組みについて説明をしていただいた。その中で、学校教育や障がい児者の学びについて知った。都市部と地方では学校に通う場所が違い、都市部は専門的な学校がある一方で、地方は専門的な学校はなく、皆と同じ学校の中で学ぶ環境となる。学年問わず学ぶことが多く、親も一緒に同席した中で学習を行っている。障がいのある子どもたちが社会と繋がり、社会と共に生活するためのキャリア教育の課題解決に向け、社会問題(ゴミ問題など)から就労ビジョンを検討している取組があることを知った。

玉ねぎ農家では、天水、灌漑水、地下水を使用して農作物を育てており、特に地下水は豊富だということが分かった。また、農業を行うにあたって、面積と水は必要条件であることから、地下水は農業にとって、とても大きな役割を担っているのが分かった。また、家畜農家の訪問をさせていただき、昔ながらの伝統的な食文化を守りつつ、家畜や農家での自給自足で生活をしていることが分かった。また、現地の子どもと関わることができ、言葉が分からなくても、同じものを見て、感じて、一緒に笑うことで、子どもからの発信があり、交流することができ、言葉よりも大切なことを考えさせられる時間となった。



●研修を受けて感じたこと

自給自足の趣味で始めた栽培から、野菜農家になるまで、失敗を繰り返し、試行錯誤しながら取り組んだ成果を知れた。その過程の中には、野菜の必要性や未来への希望に自分たちで気付いたことが、大きな変化に繋がったのだと感じた。情報を更新し、精査していくことの大切さと、自らが考え、気付きが芽生えることで、どんな難しいことも変えられる力があるのだと感じた。残りの研修で、北海道で待っている子どもたちの心が揺れ動くための情報収集を行い、多くの気付きを得られるように人との関わりを楽しみたい。

研修日記

8月5日（火） 研修名 モンゴル研修3日目 氏名 小野 瑞貴

●研修内容、行ったこと

午前：新モンゴル小中高一貫校を視察（サマープログラムに参加）

午後：日本モンゴル病院

●研修で得た学び

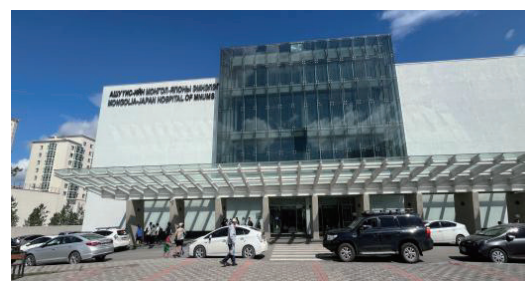
新モンゴル小中高一貫校では、サマープログラムに参加し、実際に高校生と交流する機会があった。その中で特に印象的だったのは、モンゴルの高校生が社会課題に対して示した真剣な姿勢である。社会課題を他人ごとではなく「自分ごと」として捉え、未来を見据えて考える姿は、学校の方針である「子ども一人ひとりの学びたい！という動機を支援する」理念と深く結びついていると感じた。自発的な学びを支える環境づくりの重要性について、改めて考えさせられた。

日本モンゴル教育病院では、院内を見学し、日本の支援を受けながらも、モンゴル初の大学病院として現地の医療人材育成や医療制度の改善に向けた取り組みが進められていることを知り、教育と医療の両輪で国の発展を支えている様子を学ぶことができた。



●研修を受けて感じたこと

今回の研修を通して、教育と医療という二つの異なる分野からモンゴルの国民性を感じることができた。特に教育現場では、子どもたちが社会課題に真剣に向き合う姿勢が見られた。私が授業を教えている生徒にも、モンゴルの高校生のように社会課題を自分ごととして考えられる力を育ててもらいたいと感じた。そのために残りの研修期間も多くのことを吸収し、日本での授業実践に活かせるよう全力で学んでいきたい。



研修日記

8月6日（水） 研修名 モンゴル研修4日目 氏名 藤森 菜月

●研修内容、行ったこと

- ・ NGO トルゴイト地区地域開発センターの施設の取り組みを視察
- ・ センターに通う子どもたちとの交流
- ・ 日本や北海道、日本の遊び等の紹介
- ・ 昼食（おにぎり）作り



●研修で得た学び

限られた環境の中でも、スタッフが協力しながら子どもたちの成長を支えている姿に、環境づくりの大切さを感じました。センターに通う子どもたちとの交流では、日本や北海道の紹介をしたり、日本の遊びを楽しんだり、昼食におにぎり作りをしたりしました。日本について知っている子や関心がある子も多く、日本とモンゴルとのつながりを見つけることができました。

モンゴルでは、日本は身近な外国かもしれないけれど、日本にとってモンゴルはすごく身近とはいえないかも、と思い、外国のことを知る意義について考えました。

●研修を受けて感じたこと

国は違っても、子どもたちの「知りたい」「学びたい」という気持ちは同じで、その思いを全身で表しながら生き生きと活動する姿がとても印象的でした。子どもたちが学ぶことに前向きである様子は、今回の研修で多くを吸収しようとする私たちの姿にも重なり、学ぶ意欲の大切さを改めて感じました。大人になるにつれ、知りたい！と思う気持ちを忘れがちですが、その純粋な探求心を大切にしていきたいです。言葉は通じなくても、表情やジェスチャーを通して気持ちがしっかりと伝わることも実感し、大切なのは心の通い合いなのだと感じました。





研修日記



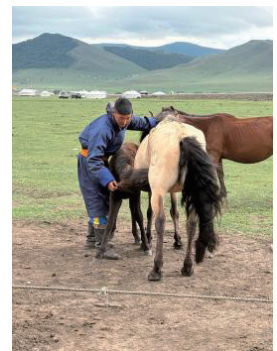
8月7日（木） 研修名 モンゴル研修5日目 氏名 小野 竜大

●研修内容、行ったこと

午前→「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立と
フードバリューチェーンの構築」モデル農園視察、ゲル体験
午後→酪農体験

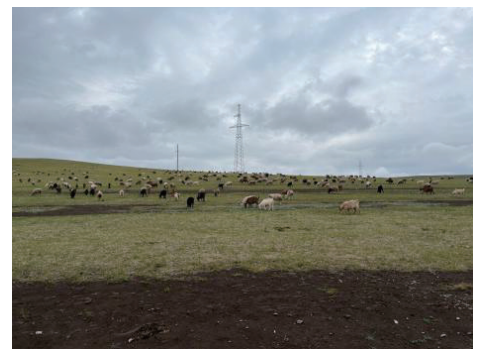
●研修で得た学び

午前中は、滝川市が主体となり行っている草の根技術協力事業「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」のモデル農園を視察しました。モンゴルでは野菜の自給率向上が大きな課題です。なかなか雨が降らないモンゴルでは水の確保も課題ですが、この農場では地下水を活用していました。その後のゲル体験では、伝統的な暮らしの知恵に触れました。モンゴルと言ったら「ゲル」というくらいモンゴルを象徴している存在に気持ちが高ぶりました。そこでは、スーテーツァイ（ミルクティー）、馬乳酒、ウルム（クリーム状の乳製品）などモンゴルらしい飲食物を堪能させていただきました。午後は、車で移動し、別の場所へ行き、どこまでも広がる草原の下で馬がいる風景は、北海道の風景とはまた違う圧倒的なスケール感がありました。



●研修を受けて感じたこと

今回の視察を通じ、日本（特に北海道）の技術がモンゴルの食卓を支えようとしている現場を目の当たりにしました。モンゴルの人々が日本を身近に感じている背景には、こうした長年の草の根活動の積み重ねがあるのかもしれないと実感しました。子どもたちの純粋な探究心も、農業の発展に挑む大人たちの熱意も、根底にある「より良く学び、成長したい」という願いは共通しています。モンゴルで見出した日本との繋がりや、お互いの文化を尊重し合う姿勢を忘れず、これからも異なる環境や価値観を持つ人々と真摯に向き合う視点を持ち続け、自分自身の成長に繋がっていきたいと思います。



研修日記

8月8日（金） 研修名 モンゴル研修6日目 氏名 荒井 清貴

●研修内容、行ったこと

モンゴル日本人開発センターを見学し、スタッフの方から事業紹介を受けた後、私たちが抱いた疑問について質疑応答を行いました。その後、日本語初級クラスの生徒たちとフリートークを行いました。



午後は、JICA モンゴル事務所にて、この教師海外研修全体の振り返りを KJ 法を用いて行いました。

●研修で得た学び

開発センターでの質疑応答を通して、日本式経営講座では、日本の仕事のあり方などを学べることから現地のビジネスパーソンに人気があること、モンゴルの人々が外国語習得に強い意欲を持ち、それが言語能力の向上につながっていること、日本以外の留学先の選択肢など、多くのことを学びました。



最後の振り返りでは、これまでの研修で印象に残ったこと、気づき、展望、願いをそれぞれが書き出し、グループごとに KJ 法でまとめて発表しました。

●研修を受けて感じたこと

日本語初級クラスでのフリートークでは、生徒たちが今使える日本語を懸命に話そうとする姿に感銘を受け、私たち教員グループも彼らのためになる話を心がけました。また、どの生徒もナルト・ワンピース・K-POP が好きで、日本の高校生とよく似た趣味を持っていることに親近感を覚えました。



研修日記

8月9日(土)

研修名 モンゴル研修7日目

氏名 山田 翔子

●研修内容、行ったこと

・チンギス・ハーン国際空港(モンゴル) →

韓国(仁川空港) → 日本(羽田空港)



●研修で得た学び

チンギスハーン国際空港 13時20分発の飛行機に乗るため、11時過ぎには空港に到着。しかし、どこのカウンターも長蛇の列で驚きだった。特に、私たちのように韓国(仁川国際空港)へ行く人(主に韓国人)が多く、航空会社もアジアナ・JeJU・t'way・JINAIR(後半3つはLCC)など、韓国系の航空会社の多さが目立った。また、1つのカウンターには日本人の高校生らしき集団がおり、その航空機の行き先が富士山静岡空港だったのでその関係について調べてみた。静岡県とモンゴル国ドルノゴビ県が平成23年7月～友好協定を締結したことから、毎年静岡の高校生20名がモンゴル・ドルノゴビ県に訪問し現地の高校生と交流・異文化体験を行っていることが分かった。

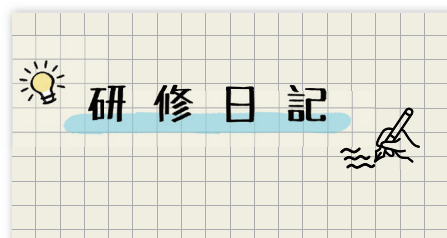


チンギスハーン国際空港は、日本の円借款を活用して建設されており、日本と共通する雰囲気や運営スタイルが見られた。似たような雰囲気だった。トイレがTOTOだったり、保安検査がとても厳重だったり随所に日本を感じられる場所だった。

●研修を受けて感じたこと

モンゴルから韓国に入国した時、一気に日本が近くなったように感じた。モンゴルは、韓国系のお店(CU・GS25などのコンビニ)や若年女性は韓国系のメイク・ファッションが多く、見た目には日本を感じることは少なかった。しかし、仁川国際空港にはスタバがあり、航空ラウンジには箸、餅(トッポギ)、鶏肉(ヤンニョムチキン)、サツマイモの天ぷらがあり、少しずつ日本に近付いていることを実感した。おそらく「文化」というものは、こうしてグラデーションで繋がっており、近ければ近いほど似たものが多い…という当たり前のことを体感した。





8月10日(日) 研修名 モンゴル研修8日目 氏名 本間 千尋

●研修内容、行ったこと

羽田空港からそれぞれの家路につく

●研修で得た学び

今回のモンゴル海外研修を通して、モンゴルの伝統的な生活と都市部での生活、現地の若者や子どもたちとの触れ合いから多くの気づきを得ました。また、広大な草原での伝統的な遊牧生活をする人たちは自然と共に暮らしている一方で、異常気象などの影響で遊牧生活を続けられなくなり、都市部へ移り住む人たちも増えている現状を知りました。都市部、特にウランバートルでは交通渋滞や大気汚染などの深刻な社会問題が見られます。しかしその中でも、新モンゴル学園では、社会問題を「自分事」として捉え、積極的に話し合う若者たちの姿がありました。彼らは日本語を学び、将来日本に留学したいという夢を持ち、意欲にあふれていました。また、ウランバートルのゲル地区に住む子どもたちとは、おにぎりを一緒に作ったり、日本の遊びを楽しんだりしながら、夢や好きなことを直接聞くことができました。子どもたちの笑顔はとても輝いており、困難な状況でも夢を持つことで前向きに努力する力になることを改めて実感しました。



●研修を受けて感じたこと

私がこのモンゴル教員研修に参加したのは、過去に研修に参加した先生方がその国のことを心から好きになり、自分の価値観が変わるきっかけとなったという話を聞いたからです。実際にモンゴルを訪れてみて、私自身も現地の文化や人々の温かさに触れ、深く感動し、心からモンゴルのことが大好きになりました。広大な自然や伝統的な生活、そして都市部が抱えるさまざまな課題に触れたことで、自分の考え方や視野が大きく広がったと感じています。

この貴重な経験を、単なる思い出で終わらせるのではなく、今後の授業づくりに活かしていきます。日本の子どもたちがモンゴルのことを学ぶことで、自分の身近な世界にも愛着を持ち、多様な価値観を理解し、視野を広げるきっかけになるような授業を作っていきたいです。これからの授業づくりに全力で取り組み、子どもたちの心と視野を豊かに育てていきたいと思います。



日時：2025年9月13日(土)13:00~18:30 14日(日)9:00~12:20

場所：JICA 北海道（帯広）センター

目的：①モンゴルでの研修を通して収集した情報整理・共有を行う。

②各自が作成した指導案の共有・検討作業を通して改善点を明確にし、教材化を行う。

9/13 (土)【プログラム 1日目】

時間	内容
13:00~13:05	開会、事後研修プログラム確認
13:05~14:00	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ① 釧路市立鳥取小学校 本間先生
14:00~14:10	休憩 (10分)
14:10~15:05	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ② 幕別町立札内北小学校 小野(竜)先生
15:05~15:15	休憩 (10分)
15:15~16:10	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ③ 旭川藤星高等学校 小野(瑞)先生
16:10~16:20	休憩 (10分)
16:20~17:15	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ④ 北海道中標津高等学校 荒井先生
17:15~17:25	休憩 (10分)
17:25~18:20	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ⑤ 札幌市立元町中学校 山田先生
18:20~18:30	事務連絡
18:30	1日目終了

9/14 (日)【プログラム 2日目】

時間	内容
9:00~9:55	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ⑥ 北海道室蘭養護学校 山西先生
9:55~10:05	休憩 (10分)
10:05~11:00	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ⑦ 利尻富士町立鷺泊小学校 藤森先生
11:00~11:10	休憩 (10分)
11:10~12:05	指導案発表 25分・指導案検討 30分 (計 55分) ⑧ 札幌市立北野中学校 菅井先生
12:05~12:20	事務連絡・記念撮影
12:20	終了

研修日記

9月13日(土) 研修名 事後研修1日目 氏名 菅井 誠

●研修内容、行ったこと

指導案検討会は以下の順番と内容で行った。

- ①本間 千尋 先生(釧路市立鳥取小学校)
「のこしたい!わたしたちの文化」
- ②小野 竜大 先生(幕別町立札内北小学校)
「モンゴルについてカードゲームや衣食住で疑似体験し、多様な文化を理解する。」
- ③荒井 清貴 先生(北海道中標津高等学あ校)
「日本の当たり前が世界を変えるかも...!」
- ④藤森 菜月 先生(利尻富士町立鴛泊小学校)
「せかいとなかよし~こんにちはモンゴル!」
- ⑤山田 翔子 先生(札幌市立元町中学校)
「合意形成に向けて話し合おう-課題解決のために会議を開く」

※上記指導案タイトルは、研修当時のものです。

●研修で得た学び

法律上、教員は学習指導要領に沿った授業を構成しなければならない。その具体化が「学習指導案」である。今回の研修で水谷アドバイザーから「生徒への指導時に『単元の評価規準』と指導案の『内容』に齟齬があってはならない」とご指摘をいただいた。

指導案は、教員が頭の中で描いている目標や目的を外部に示す役割を担う。ここに不正確さがあれば、目指す授業や生徒に身につけさせたい力——すなわち「指導と評価の一体化」——が十分に実現されない可能性がある。そのため、改めて構成を練り直す必要性を強く感じた。内容が発達段階に合っているか、時間配分は適切か、アクティビティの難易度はどうか、どこまでを教え、どこから生徒自身の理解に委ねるのか、といった点を吟味することが重要である。

●研修を受けて感じたこと

参加した先生方の指導案やアクティビティからは、「モンゴルのことを生徒に伝えたい!」という熱意が随所に感じられた。非常に洗練された授業構成もあれば、試行錯誤の途上にあるものも見受けられたが、いずれも前日まで悩み抜いて絞り出した成果であることが伝わってきた。さらに、JICAやJOCAのスタッフの方々からも鋭い指摘や的確なアドバイスをいただき、忌憚のない、まさに侃侃諤諤の意見交換が行われた。このやり取りは非常に有意義であり、今後の授業改善に大いに資すると感じた。



研修日記

9月14日(日) 研修名 事後研修2日目 氏名 山西 真理

●研修内容、行ったこと

指導案検討会

①山西 真理 先生 (北海道室蘭養護学校)

「違いがあって、イーネ！！」

②小野 瑞貴 先生 (旭川藤星高等学校)

「水の当たり前」

③菅井 誠 先生 (札幌市立北野中学校)

「近くて知らない国モンゴルのお話」

※上記指導案タイトルは、研修当時のものです。

●研修で得た学び

昨日に続いて、指導案の検討を行った。モンゴル研修で様々な情報を得た私たちは、生徒たちにあれもこれも伝えたいという気持ちが強く、情報の精選と整理に時間を要した1ヶ月だったように感じる。しかし、指導案作成にあたって、私たちは生徒たちにどのような力を身に付けさせたいか、どのような変容を期待するのかというねらいを明確にする必要があり、そのねらいに迷いがあると内容との不一致が生じることとなる。自分自身がしっかりとねらいを明確にし、そのねらいを達成するためにはどのような活動が良いのか、またその活動を通して、どのような変容があるのかを落とし込むことが大切であると再確認した。



●研修を受けて感じたこと

モンゴル研修を受け、生徒たちにどのようなことを伝えたいかを考え、指導案を作成した。迷いながら作り上げてきた指導案をチームで検討してもらったことで、多角的な意見を聞くことができ、一人では気付かなかったことに気付けた時間となった。授業実践までに、今日検討した内容を整理し、より生徒たちの心を揺さぶり、学びのある授業作りができるように力を入れていきたい。





プログラム

成果報告会①

国際理解教育セミナー【共有編】

日時：2025年11月29日（土）13:00～17:40

場所：JICA 北海道(札幌)、オンライン

参加：海外研修参加者8名、アドバイザー2名、JICA 北海道、JICA 国際協力推進員2名
青年海外協力協会（JOCA）、一般参加者

12:30	受付開始	
13:00～ 13:05	成果報告会スタート 開会挨拶 JICA 北海道（札幌）	
13:05～ 13:25 (20分)	本研修の概要(授業づくりの視点を含む) 利尻富士町立鷺泊小学校 藤森菜月 教諭	
13:25～ 14:25 (60分)	模擬授業体験①（授業 40分、振り返り 20分） 【総合・音楽・社会】 「文化が消える？未来をつくるのは、私たち」 釧路市立鳥取小学校 本間千尋 教諭	
	休憩(5分)	
14:30～ 15:30 (60分)	模擬授業体験②（授業 40分、振り返り 20分） 【国語】 「合意形成に向けて話し合おうー課題解決のために会議を開く」 札幌市立元町中学校 山田翔子 教諭	
	休憩 5分(移動を含む)	
	【教材紹介セッション①】	
15:35～ 16:05 (30分)	■A【社会（地理）】 「近くて知らない国モンゴルのお話」 札幌市立北野中学校 菅井誠 教諭 ※当日は体調不良の為、欠席	■B【総合的な学習の時間】 「モンゴルの暮らし、その背景を探る旅」 幕別町立札内北小学校 小野竜大 教諭
	休憩 5分(移動を含む)	
	【教材紹介セッション②】	
16:10～ 16:40 (30分)	■A【生活・国語・道徳】 「せかいと なかよし ～こんにちはモンゴル！」 利尻富士町立鷺泊小学校 藤森菜月 教諭	■B【総合的な探究の時間】 「社会を変える?! 高校生のソリューション」 北海道中標津高等学校 荒井清貴 教諭
	休憩 5分(移動を含む)	
	【教材紹介セッション③】	
16:45～ 17:15 (30分)	■A【総合的な探究の時間】 「違いがあって、イーネ！！」 北海道室蘭養護学校 山西真理 教諭	■B【地理総合】 「モンゴルの水と見えない水」 旭川藤星高等学校 小野瑞貴 教諭
17:15～ 17:40 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者からの感想の共有 アドバイザーからのコメント アンケート JICA からの諸連絡 記念撮影 	
17:40	終了	

※このプログラムは、国際理解教育セミナー（共有編）を兼ねます。



日時：2025年11月30日（日）9:00～12:00

場所：JICA 北海道(札幌)

参加：海外研修参加者8名、アドバイザー2名、JICA 北海道、JICA 国際協力推進員2名
青年海外協力協会（JOCA）、一般参加者

9:00	スタート	
9:00～ 9:30 (30分)	【写真で見るモンゴルの教育と人材交流】	JICA 苫小牧デスク 藤島推進員
9:30～ 11:00 (90分)	【学びの共有】KJ法を模したグルーピングにて ・「学び」を振り返る ① 事前・事後研修(人とのつながり) ② 現地研修 ③ 授業づくり ※①～③、3色付箋を分ける ★別途スペシャル付箋あり 【研修を振り返って】 他己紹介形式で繋ぐ 〇〇さんの人物像、チームでの役割、これからの〇〇さん など	ファシリテーター 水谷アドバイザー コメント 東峰アドバイザー
	休憩（10分）	
11:10～ 11:50 (40分)	【今後学んだことをどう現場で活かすか・継続していくか】	ファシリテーター 東峰アドバイザー
11:50～ 12:00 (10分)	JICAからの諸連絡	JICAより
12:00	終了	

研修日記

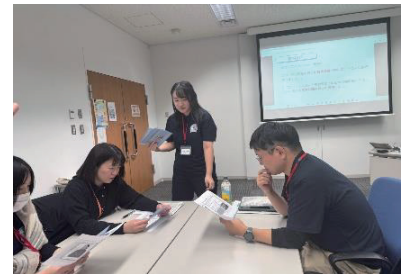
11月29日（土） 研修名 成果報告会1日目 氏名 小野 瑞貴

●研修内容、行ったこと

11月29日（土）は、これまで取り組んできた研修のまとめとして、授業実践に関する報告会を行った。事前研修や現地研修を通して得た学びをもとに、それぞれが工夫して作成した教材を持ち寄り、学校関係者の方や一般の方に実際に見ていただいた。

報告会では、現地での体験や気づきをどのように授業に落とし込んだのかを紹介しながら、教材に込めた思いやねらいについても共有した。来場された方々から感想や質問をいただく中で、自分の考えを改めて整理する良い機会となった。

また夜には、これまでの研修を振り返りながら参加者同士で食事を共にした。約7か月にわたる研修期間を思い返し、それぞれの経験や感じたことを語り合う中で、これまでの歩みを分かち合う時間となった。



●研修で得た学び

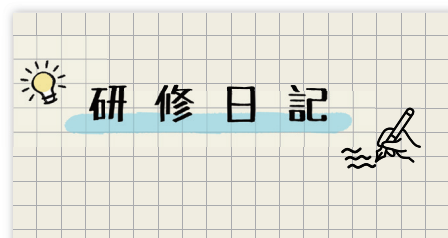
今回の報告会を通して、教材は一人で考えるだけでなく、さまざまな人に見てもらうことで、より深まっていくものだと感じた。学校関係者の方や一般の方など、立場の異なる方々からの意見は、自分では気づけなかった視点を与えてくれた。特に、教材の内容がどのように伝わるのか、生徒にとってどんな学びにつながるのかを改めて考えるきっかけになった。現地での経験を、授業の中でどのように生かしていくかについて、理解を深めることができたと感じている。



●研修を受けて感じたこと

教員以外の方からアドバイスをいただけたことが、とても印象に残っている。専門的な視点とは異なる、率直な感想や疑問に触れることで、教材を新たな角度から見つめ直すことができた。

これまで主に「教える側」の視点で作ってきた教材を、「受け取る側」の立場で考え直すことで、さらに工夫できる点があることにも気づいた。今回の研修で得た学びを、今後の授業に少しずつ取り入れながら、生徒にとってより身近で意味のある学びにつなげていきたいと感じている。



11月30日（日） 研修名 成果報告会2日目 氏名 藤森 菜月

● 研修内容、行ったこと

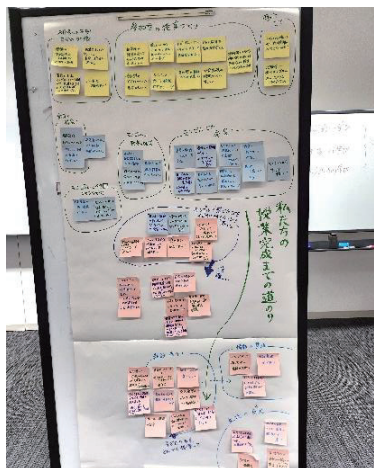
- ・写真で見るモンゴルの教育と人材交流
- ・研修の学びの共有、振り返り
- ・今後の展望（現場でどう活かし、継続していくか）の交流

● 研修で得た学び

授業づくりについて振り返ったときには、他の先生方と進捗状況等は話をしていたものの、実際にどのようなことをしていたかは見えていないところであったため、自分と同様に非常に悩み苦しんでいたことを知り、もっと辛いことも共有して一緒に分かち合いながらできればよかったなと思いました。

● 研修を受けて感じたこと

今回の研修全体を改めて振り返ってみて、約半年でしたが、すごく濃密な時間を過ごし、年齢や経験などは関係なく一緒に学び、高めあえる仲間たちと出会えたことが幸せだなと思いました。私は、狭いコミュニティの中で働いているので、道内各地に共に頑張っている先生がいると思えることは、今後の励みになると感じています。また、今後の展望について考えたとき、今までは自分のキャリアデザインはぼんやりとしたものでしたが、教師海外研修での経験を生かした働き方という視点が自分の中に生まれたのは非常に大きな成果だと思いました。国際理解教育について、私が勤務する管内では実践を聞いたことがないので、自分がリードできる存在になれるよう、これからも努力していきたいと思えます。



Ⅲ.実践報告書

【指導案集】

特別支援学校：違いがあってイーネ！（北海道室蘭養護学校 山西 真理教諭）

小学校：モンゴルの暮らしーその背景を探る旅ー（幕別町立札内北小学校 小野 竜大教諭）

小学校：せかいと なかよし～こんにちはモンゴル！（利尻富士町立鴛泊小学校 藤森 菜月教諭）

小学校：文化が消える？未来をつくるのは、私たち（釧路市立鳥取小学校 本間 千尋教諭）

中学校：近くて知らない国モンゴルのお話（札幌市立北野中学校 菅井 誠教諭）

中学校：合意形成に向けて話し合おうーモンゴルの社会課題解決のために会議を開く（札幌市立元町中学校 山田 翔子教諭）

高等学校：社会を変える!?高校生のソリューション（北海道中標津高等学校 荒井 清貴教諭）

高等学校：モンゴル人の水の悩みは降水量だけなのか？（旭川藤星高等学校 小野 瑞貴教諭）

※氏名・所属は、参加当時のものです。

※教員及び児童生徒による原文を生かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

また、記載内容は JICA の見解とは異なる場合があります。



氏名 山西 真理
 学校名 北海道室蘭養護学校
 学年 高等部2学年(24人)
 ※本時は8人
 実施教科(領域) 総合的な探求の時間

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名)： 違いがあって、イーネ！！
2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：
 - ・日本とモンゴルの衣食住・伝統文化について、共通点や違いがあることを知る。
 - ・日本とモンゴル双方ともに、多様な伝統文化があり、大切にしていることを知る。
 - ・自分と他者の共通点や違いを知り、多種多様な人がいることや様々な考えがあって良いことを感じる。

3. 単元の評価規準	①知識及び技能	・日本とモンゴルの衣食住や伝統文化の共通点や違いを知る。
	②思考力、判断力、表現力	・日本やモンゴルの文化について、自ら考えとともに他者の考えや意見について触れる。 ・人や自然とのつながりを大切にする考えを持つ。
	③主体的に学習に取り組む態度	・感じたことや考えたことを他者に伝える。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>・モンゴル研修で、モンゴルの衣食住や伝統文化に、北海道のアイヌ文化との共通点が多くあると感じた。また、MON-SHEP 事業やトルゴイト地域を訪問・見学し、干ばつの影響で作物の栽培が難しい環境下でも、野菜農家が自給自足から始めた取組みを、失敗を繰り返し、試行錯誤しながら商品作物の生産へと発展させたことを知った。その過程のなかには、自然との共存を大切にし、持続可能な未来を考えた農業の必要性や目的の共有、農家自身の気付きを得るための市場調査の機会、農家への技術研修などがあり、周囲の人の力を得て、必要な情報と技術を習得しながら、今の農業の形を作り上げてきたのだと感じた。人と出会い、相手の考えに耳を傾け、尊重したことで、彼ら自身が目の前の現状と向き合い、より良い未来への気付きになったようだ。またトルゴイト地域では、貧困家庭への家族支援として、地域の子どもの生活状況を考え、サマーキャンプを実施し、子どもたちは日本の文化や遊びに目を輝かせて取り組んでいた。また、障がいのある子どもたちには、学びの場として訪問指導を行うなど人の支援や、つながりがあってできていることだと感じた。こうしたことから本校の高等部の生徒は、宿泊研修における白老町にあるウポポイ（民族共生象徴空間）の見学や他教科において、アイヌ文化について学習する機会を設定していることもあり、モンゴル国の衣食住や伝統文化に興味関心をもちやすいのではないかと考える。また、人や自然との繋がりを大切にする考えを本生徒たちが感じ、考えることで、他者を大切にする気持ちや自分たちの未来の生活に活かせるのではないかと考える。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>・単元の 1,2 校時では、日本とモンゴルの衣食住や伝統文化について実際に触れたり、聞いて</p>	

	<p>たりする体験を行うことで、子どもたちは、五感から感じ、興味関心を高め、それぞれの共通点や違いに気付くのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3、4校時では、体験で感じたことや考えたことを友達と意見交流をしながら振り返った後に、カードワークに取り組むことで、自分事として考える場を与える。また、カードワークを2回行うことで、自分の考えと他者の意見との比較となり、自分の考えに変化が現れるのではないかと考える。 ・5～8校時については、自分が学んだことや感じたことを他者に自分の言葉で伝える体験ブースを設定することで、学びを深め、より自分事として捉えることができるのではないかと考えた。 <p>【児童／生徒観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校高等部生徒は、男子16名女子8名の計24名の集団である。障がいの程度も様々で、ベッドで横になって学習する生徒や集中力が続かず離席、他の物や人が気になることが多くなる生徒、言語理解ができ、受け答えができる生徒など子どもたちの実態差は大きい。しかし、昨年度から一緒に学習していくなかで、生徒同士の関わりが増え、互いを尊重し、認め合い、助け合う姿が多く見えてきている。 ・また、生徒たちは、総合的な探究の時間で年に1、2回、ALT（外国語指導助手）を招き、簡単な自己紹介やビンゴゲームを通して、外国語や文化に触れる学習を行っている。自国の学びとしては、白老町にあるウポポイ（民族共生象徴空間）に見学に行ったり、美術科では、アイヌ文様の切り絵作りを行ったりして、アイヌ文化についても触れているものの、単発的な学習となり、国際理解教育の経験が少ないことが現状である。 <p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本生徒たちは、実践的な体験や経験などが少なく、自分の言動に自信がもてず、受動的になることが多い。また、間違いや失敗することに対し、不安に思うことが多く、消極的になってしまう。体験やカードワークを通して、異国や異文化に興味関心をもち、感じたことを言葉に出して友達や他者と交流することで、他者を尊重する気持ちや相手に認められる達成感を味わい、自分の考えを相手に伝える勇気が湧く時間になればと考える。こうした人とのつながりが生徒たちの力となり、成長の糧となると考える。
--	---

5. 単元計画（全 8時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1.2/ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とモンゴルの共通点や違いを感じ、考える。 ・日本とモンゴルの伝統や文化を実際に体験し、興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画を見て、モンゴルについて知る。（日本との共通点や違いを感じる。） ・日本とモンゴルの衣食住や伝統文化コーナーを実際に体験する。 ・五感（聴覚、触覚、視覚、嗅覚、味覚）を刺激し、感じたことを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真、動画 <p><日本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浴衣、ウポポイ衣装 ・ミルクティー ・ウポポイの建物 ・ムックリ、琴 など <p><モンゴル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統衣装一式 ・ミルクティー ・ゲル（組み立て） ・口琴、馬頭琴、ホーミーCD など

3.4/ 8 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、感じたことを表現する。 ・他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えと比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に感じたことや学んだことを振り返りながら、カードゲームを行う。 ・カードゲームを通して、なぜそのカードを選んだのかを考え、伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード「♪好きな物を集めよう♪」 ・カード置き用紙
5.6/ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とモンゴルについて、感じたことや考えたことをより深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とモンゴルの比較をしながら、衣食住・伝統文化について調べる。 ・友達と意見交換をしながら体験ブースの準備をする。 ※体験して気になったことや感じたことについて、自ら調べ、友達と意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・タブレット端末 ・本時の選んだカード ・体験時の写真
7.8/ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで感じたことや考えたこと、調べたことなどを体験を通して他者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各体験ブースを担当し、自分の考えや友達の考えを振り返りながら、自分の言葉で他者に伝える。 <p>【体験ブース】</p> <p>①衣 ②食 ③住 ④伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カード ・写真 ・動画 ・体験ブース道具など

<p>6. 本時の展開 (3.4/8)</p> <p>本時のねらい：</p> <p>(第1段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、感じたことを伝える。 ・他者の考えや意見に耳を傾け、自分の意見と比較する。 <p>(第2段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見て、聞いて、感じたことを自ら表現する。 ・他者の考えや意見を聞いて、違いを感じる。 			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とモンゴルの共通点や違いを振り返る。 →ブースごとの実物を見せながら、生徒が気付いたことを答えられるようにする。 <生徒の反応> 衣：服がきれいだった。 生地が違った。 食：ミルクティーがしょっぱかった。 味が違った。 住：ゲルを作るのが難しかった。 天井が空いていて、雨のときどうするのか気になった。 伝：音が似ていた。 動物の骨を使っていた。 陣取りゲームがチェスみたいだった。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を説明する。 →自国と異国に住む人の生活を知り、どのような共通点や違いがあるのかを考える。 →日本とモンゴルの衣食住・伝統文化に関する写真カードを使用して、ゲームをすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が振り返れるように実物を提示しながら発問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・体験で使用した実物

<p>展開① (20分)</p>	<p>○いろいろな人の生活を見て、考えよう 【日本】 ①〇〇先生の衣食住・伝統文化 ②〇〇さん（アイヌの方）の衣食住・伝統文化 【モンゴル】 ③バスカさんの衣食住・伝統文化 ④チヌルさん（遊牧民）の衣食住・伝統文化</p> <p>・4つの異なる人の生活を写真を使って知る。 ・4つの生活スタイルを見比べて、気付いたことを発表する。</p>	<p>・教師の主観が入らないような言葉掛けを行う。</p> <p>・衣食住、伝統ごとに出た内容を板書する。</p>	<p>・〇〇先生 ・アイヌの方 ・モンゴルの方 ・モンゴル遊牧民</p> <p>・4人の写真資料</p>
<p>展開② (30分)</p>	<p>○好きなものを集めようゲーム ・ルールを説明する。 <ルール> ・最初に4枚のカードを引く。 ・一人一枚ずつカードを引く。 ・カードを見て、いる、いないを判断し、好きなカードだけを集める。 ・カードは最大4枚まで手元に置ける。 ・ジョーカーは、友達の持っているカード1枚をもらうことができる。</p> <p>・カードゲームをしよう。1回目 <ゲームの流れ> ①3人ペアになる。 ②ジャンケンで順番を決める。 ③一人4枚のカードを引く。 ④カード山から一人一枚取る。 ⑤カードを見て、「いる」「いない」を判断する。 い る →自分のカード置き場に置く。 いない→カードを捨てる。 ⑥次の人がカードを引く。 ⑦カード山がなくなるまで、順番に好きなカードを集める。 ・衣食住、伝統文化に色分けされていることを伝え、自分が選んだカードを見直してみる。 ・選んだカードを見返し、日本とモンゴルが混在していることに気付く。 →異国にも好きなものがあることを感じる。 <u>興味・関心</u></p> <p>・次に、手元のカードを選んだ理由をそれぞれ考える。 →美味しそうだったから。 食べたいと思ったから。 ゲルが可愛いと思ったから。 音楽が好きだから。 見てみたいと思ったから などなど</p> <p>・選んだ理由を一人一人発表する。 <u>自己理解・他者理解</u></p> <p>・1回目のシートを振り返れるように、各自タ</p>	<p>・カードは、衣（赤）食（青）住（緑）伝統文化（黄）の4つに分類する。</p> <p>【1回目】 ・生徒が自分の主観でカードを選ぶ。</p> <p>・カードを手元に置くときに、なぜそのカードを選んだのかを聞きながら行う。</p> <p>・カードに日本とモンゴルのマークがあることに気付かせる。</p> <p>・生徒の実態に応じて発問の仕方を工夫し、生徒自身が考えた言葉を引き出す。</p> <p>・他生徒の話を聞いて、どのように感じたのか言葉掛けを行う。</p> <p>・必要に応じてタブレット端末の使い</p>	<p>・ルール説明</p> <p>・ルール説明カード ・カード置き場①</p> <p>・マスキングテープで貼る。</p>

<p>展開② (20分)</p> <p>まとめ (10分)</p>	<p>タブレット端末で写真を撮る。</p> <p>○カードの中から厳選しよう。2回目 (自分の衣食住・伝統文化を考えよう) ・衣食住・伝統文化の各カテゴリーごとに自分が必要だと思うカードを一枚ずつ選ぶ。 ※体験ブースや1回目のカードワークを通して、感じたことや他者の意見を聞いたなかで自分が必要だと思うカードを選択するようになる。</p> <p>・選んだカードとカード置き場①に選んだカードを見比べて、2回目に選んだカードの理由を考える。 →日本とモンゴルを混ぜてみた。 モンゴルベースにしてみた。 興味があったから。 などなど</p> <p>・選んだ理由を一人一人発表する。 <u>自己理解・他者理解</u></p> <p>・自分たちが選んだカードと最初に提示した日本とモンゴルの4人の衣食住・伝統文化とは、それぞれ違うことを確認する。 ・全体を見比べてどう感じたか発表する。 →住む国が違っていても似ているものもあれば、選んだカードが違うように考え方が違うこともある。しかし、大切にしているものは人それぞれあり、文化を大事にしていくことを感じる。</p> <p>・次回は、自分たちで体験ブースを作るための準備をすることを伝える。</p>	<p>方を教え、写真を撮る支援をする。</p> <p>【2回目】</p> <p>・他生徒の意見を聞いた上で、カードを選ぶ。 <u>思考の変化</u></p> <p>・自分事として衣食住・伝統文化を考えてカードを集める。</p> <p>・1回目との比較ができるような表現で支援する。</p> <p>・全体が見比べられるように黒板に貼る。 ・感じたことを振り返れるように、写真やカードを見せながら言葉掛けを行う。</p>	<p>・タブレット端末</p> <p>・カード置き場②</p> <p>・両面テープ</p> <p>・カード置き場① (写真)と②</p> <p>・4人の写真資料</p> <p>・自分のカード置き場</p>
<p>7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>・知識及び技能：日本とモンゴルの衣食住や伝統文化の共通点や違いを知ることができたか。</p> <p>・思考力、判断力、表現力：日本とモンゴルの文化について、自ら考え、他者の考えや意見に耳を傾けることができたか。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度：感じたことや考えたことを他者（高等部生徒、他学部児童や教師）に伝えることができたか。</p>			

【参考資料】

資料および外部との連携

①登別アシリの会 衣装借用

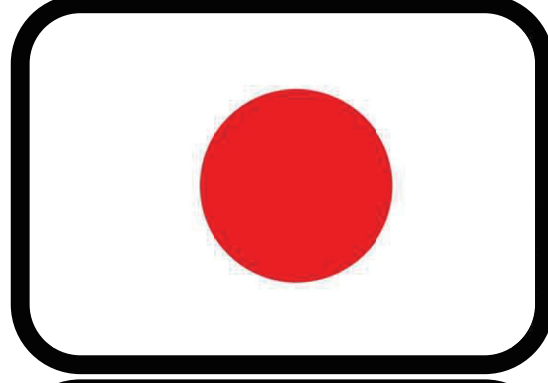
②JICA 北海道（札幌）センター 衣装およびパネル借用

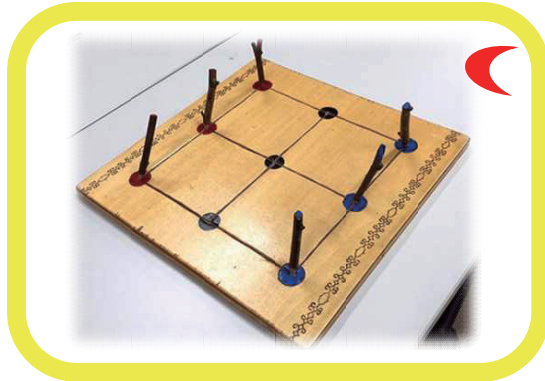
【自己評価】

苦勞した点	<p>モンゴルの研修で様々な情報を得て、その情報を子どもたちに知ってほしい思いからカードワークでの写真選びを行ったが、カードの量が多くなってしまった。子どもたちの集中力や情報量の精選を考え、カードの枚数を厳選したが、どのような写真を使うことで、より多くの子どもたちの言葉や気付きを引き出すことができるのかというカード選定に時間が掛かった。</p>
改善点	<p>カードワークを2回取組み、自分の考えと他者の意見を比べ、より自分事として考えられるように考慮したが、進め方によって1回目と2回目で思考の変化により気付きやすくなるのではないかと感じた。</p> <p>日本とモンゴルの体験を通して、生徒たちの気付きや感じたことを引き出すことを中心に行い、多くの意見が飛び交ったが、日本とモンゴルのつながりについて、生徒たちがより理解を深める工夫が必要だったと感じる。</p>
成果が出た点	<p>カードの情報を写真だけにすることで、それぞれの子どもたちが感じたことや気付いたことなどを表出することができた。また、グループワークにすることで、子どもたち同士の交流をもつことができた。</p>
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	<p>【1・2時間目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの飲み物は、海の味だった。 ・ゲルを組み立てるのが大変だった。 ・楽器の音が違った。 ・日本とモンゴルの衣装の素材が違った。 <p>【3・4時間目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの食べ物を食べてみたい。 ・伝統や文化は、宝物だ。 ・移動ができるゲルに住んでみたい。 ・移動できる家が便利だと思いました。住んだらどういう感じなのか体験してみたい。 <p>【5・6時間目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして、塩味が必要なのか。 ・どうしてゲルを移動するのか。
授業者による自由記述	<p>本校では、本授業の国際理解教育が初めての取組みだったが、生徒たちは初めての国や学習に対して目を輝かせ、前のめりになって気付きを発表する様子が見られた。生徒たちが友達の意見に耳を傾け、受容し、自分の気持ちや考えを自信をもって発表する姿は、授業に入った教員にとっても嬉しい時間となった。生徒たちの成長に合わせて、人とのつながりを大切に気付きにつなげる学習を今後も拡げていけたらと考える。</p>
次年度以降の取組み予定	<p>本教材を他学部や他学年に授業実践を行ったり、視点を変えたり、より発展的な取組みを実践したりしたい。また、本校における国際交流の取組み方の一つとして、他機関との連携をもとに異文化や多文化共生など国際理解教育について生徒が多角的な視点で考える時間を設定できたらと考える。</p>

【♪好きなものを集めよう♪カード】







【ルール説明カード】

<ルール>



- ①ジャンケンで順番を決める。
- ②一人4枚カードを取る。
- ③カードを見て、「いる」「いない」を決める。
 いる → 自分のカード置き場に置く。
 いない → カードを捨てる。
- ④次の人がカードを引く。
- ⑤カード山がなくなるまで、順番に好きなカードを集める。

※ジョーカーは、他の人が持っているカードと交換ができるよ。

【カード置き場①】

なまえ
名前： _____

<選んだカードの理由をかいてみよう>

①

②

③

④

【カード置き場②】

なまえ
名前： _____

<選んだカードの理由をかいてみよう>

い
衣

じゅう
住

しょく
食

でんどうぶんか
伝統文化

【4 人の写真資料】

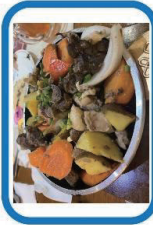
なまえ： バスカさん



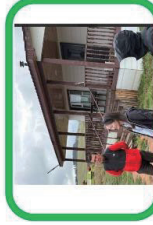
衣： 仕事で動きやすい服をきる
 食： お肉や野菜をつかった物を食べる
 住： 木でできた家に住む
 伝統： 口琴という楽器を大切にしている



い 衣



し 食

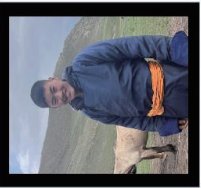


い 住



でんとうぶんか
伝 統 文 化

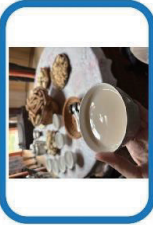
なまえ： チヌルさん



衣： 冬でもあたたかいテールを着る
 食： 家畜の乳を使った物を食べる
 住： ゲルという移動式の家に住む
 伝統： 動物の骨を使ったシャガイを大切にしている



い 衣



し 食



い 住



でんとうぶんか
伝 統 文 化

なまえ： 〇〇 さん



衣： 意味のある文様が描かれた服をきる
 食： 山や川などで取れた肉や魚、野菜などを食べる
 住： チセという自然の材料をつかった家に住む
 伝統： ムックリという楽器を大切にしている



い 衣



し 食



い 住

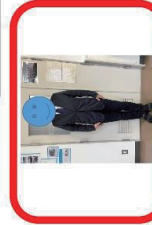


でんとうぶんか
伝 統 文 化

なまえ： 〇〇 先生



衣： 仕事でスーツをきることが多い
 食： お肉と野菜をつかったジンギスカン
 住： 学校の近くにある家に住む
 伝統： 車が大好きで大事にしている



い 衣



し 食



い 住



でんとうぶんか
伝 統 文 化

にほん
日本とモンゴルについて
ちが
～違いがあつて、イーネ！～

モンゴルって？

す
みんなが住んでいる場所は？
ぼしよ

日本

せかい
世界

モンゴルって、どこにあるの？

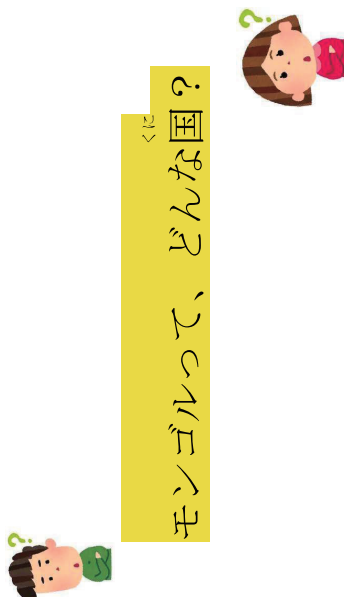
日本 (にほん)

モンゴル


言葉 (ことば) は？

日本	モンゴル
こんにちは	サイン バイン ノー (Сайн байна уу?)
ありがとう	バエルララ (баярлалаа)
さようなら	バヤルタイ (Баяртай)

モンゴルって、どんな国？



しゅと
首都
(おおきな まち)



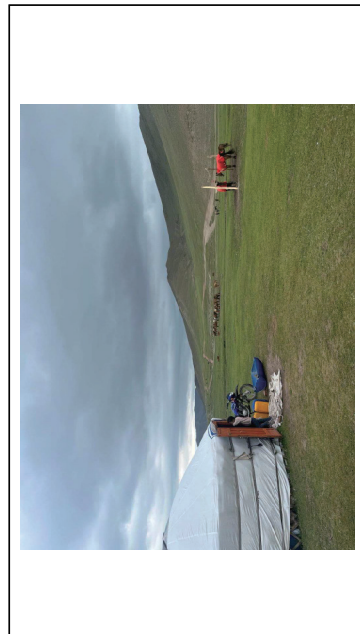
ひろば
スフバートル広場




しゅと すこ はな
首都から少し離れると.....



とお はな
さらに、遠く離れると.....



★モンゴル料理を見てみよう★

りょうり み




ボーズ



ホーシヨール



ホルホグ




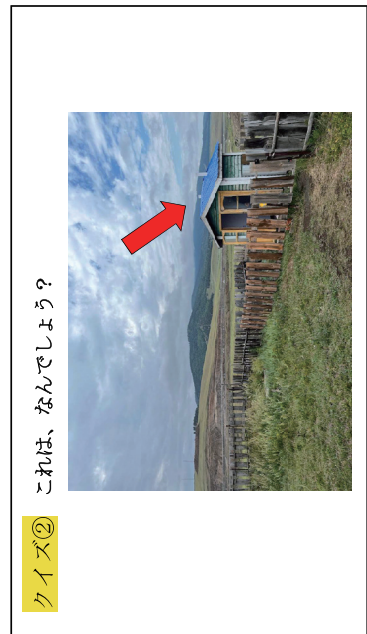
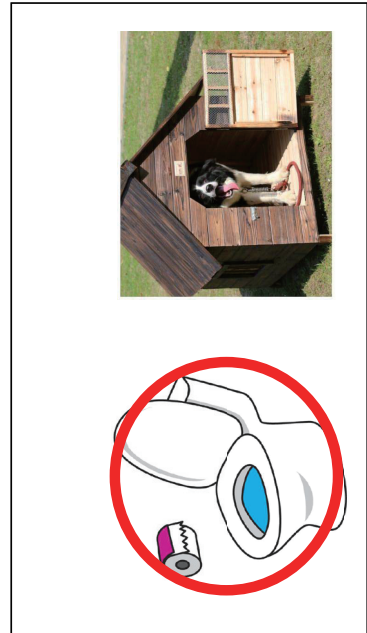
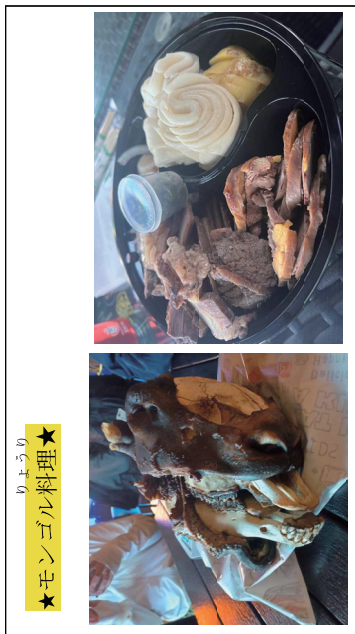
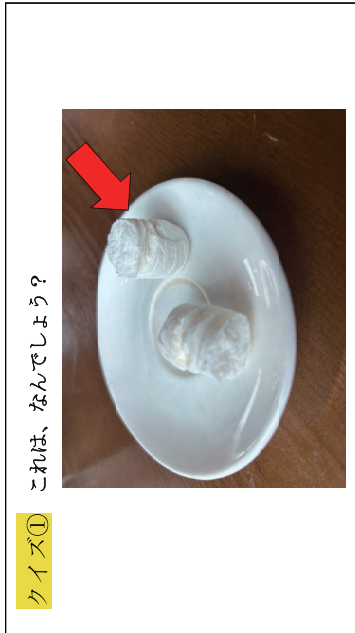
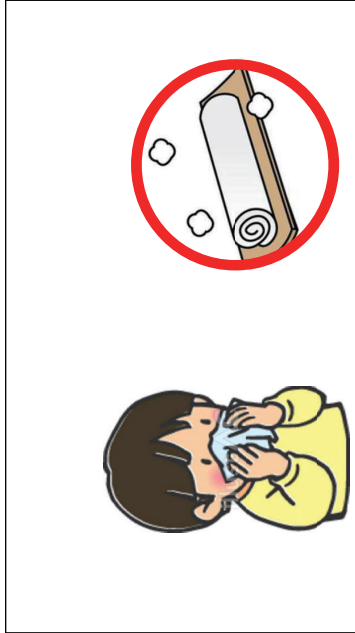
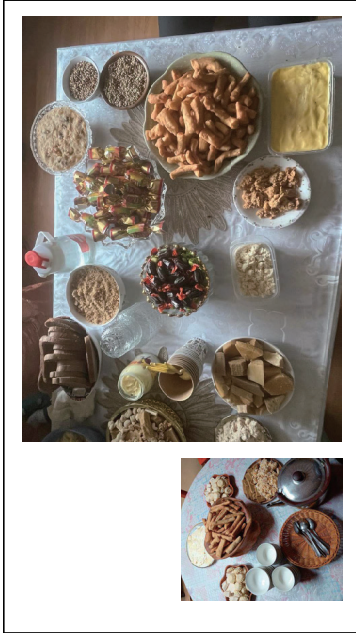
しゅと すこ はな

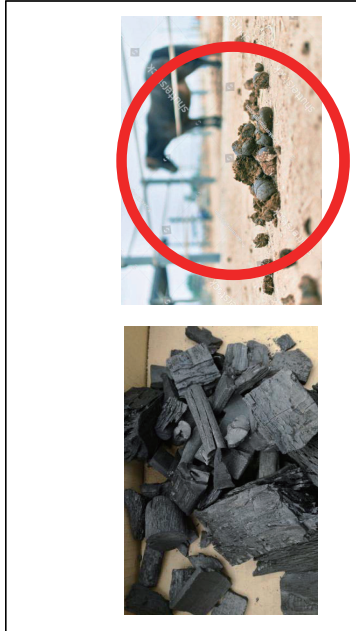
首都から少し離れると.....



よしのや







いしよくじゅうろ であんどう

★衣食住・伝統コーナーを体験しよう★

場所：2年1組

い衣コーナー>

【子供たちの声】

- ・素材が違った。
- ・かっこよかった
- ・雰囲気作りたくなかった。

いしよくじゅうろ であんどう

★衣食住・伝統コーナーを体験しよう★

場所：2年3組

しよく じゅうろ

モンゴルのミルクティーをのんでみよう！

ゲルをくみてみよう！！

【子供たちの声】

- ・目は目をくみて、モンゴルの家はよかった。
- ・移動できるのが、すごい。
- ・どうして家族が強いっているの？

【子供たちの声】

- ・最初は目くみて、モンゴルの家はよかった。
- ・移動できるのが、おもしろい。
- ・おいしい、ホワイです。

でんどう

＜伝統コーナー＞

がっき

～モンゴルの楽器～

場所：自立活動室

がっき

～日本の楽器～

【子供たちの声】

- ・音が違った。
- ・ホースが弾きやすかった。
- ・琴の音がきれいだった。

でんどう

＜伝統コーナー＞

あそび

～モンゴルの遊び～

場所：2ー3

あそび

～日本の遊び～

【子供たちの声】

- ・ウコニアシが楽しかった。
- ・シャガイの古いが何回やっても「成功しない」だった。
- ・おはじきがきれいだった。

わたしの一枚



歴史と未来

写真を撮った場所：新モンゴル学園

新モンゴル学園で、校舎内に入る前に新モンゴル憲章の説明を受けたときの写真である。設立の趣旨を聞き、日本とモンゴルのつながりを感じるとともに、多くの方々の支援と努力を胸に刻み続けていることの凄さを感じた。「一つ、他人を助け、感謝する心から幸せが生まれることを胸に刻み、他人に幸せをもたらし、自分の幸せを創り出す。」その通りだと思うが、思うだけでなく、行動に移さなければならない。当たり前が当たり前ではないということを感じた瞬間だった。これからの未来を創り上げていくために、歴史を大切にしながら、互いを認め合い、支え合うことを念頭に置きたい。

氏名：山西 真理

学校名：北海道室蘭養護学校



氏名 小野 竜大
 学校名 幕別町立札内北小学校
 学年 第5学年(22人)
 実施教科
(領域) 総合的な学習の時間

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名) :

モンゴルの暮らし ーその背景を探る旅ー

2. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) :

日本とモンゴルやキルギスの文化・生活について、写真やカードゲーム、体験活動から得た情報をもとに整理できる。「なぜ違うのか」「どんな背景があるのか」を推測し、調べてまとめ、国際理解を学ぶうえでの見方を広げる。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの文化(衣食住、飲み物、学期、しきたり)について知識をもち、日本との違いや共通点を整理できる。 ・モンゴルとキルギスという地理的に近い国の生活・風土・文化の特徴を理解し、それぞれの衣食住や伝統・自然環境との関わりを具体的に説明することができる。
	②思考力、判断力、表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・得られた情報を比較し、自分なりの考えをまとめることができる。 ・「なぜ違うのか」「どんな背景があるのか」を推測している。
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・実物や体験活動に意欲的に参加し、自ら気づいたことを表現したり仲間と共有しようとしている。 ・他者の意見や体験を受け入れ、学びを広げようとする。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生の段階では、社会科や外国語活動などを通して他国の文化や暮らしに触れる機会が増えてくる。一方で、インターネットやテレビを通じて偏った情報や差別的な言動に接することもあり、他国への理解を一面的にとらえてしまう危険性もある。そこで本単元では、教師自身が現地で見え感じたモンゴルとキルギスの文化を題材とし、児童が実際に体験しながら学ぶ活動を通して、「似ていると思う文化の中にも違いがあり、その違いにこそ多様性を理解する手がかりがある」ことに気づけるようにしたい。短期間の取材や主観的な経験であっても、「自分の目で見て、感じ、考える」ことの大切さを児童に伝えることで、国際理解や国際親善に努めようとする態度の育成をめざす。 <p>【単元の意義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化に直接触れる機会が少ない児童にとって、衣食住や音楽などの実物に触れたり、身につけたりする体験を通して異文化に触れることは、「ちがいを楽しみ、学びに変える」貴重な機会となる。特に、モンゴルとキルギスのように地理的に近く、遊牧文化という共通点をもつ国同士を比べることは、「一見似ているものの中にある違い」に気づく絶好の題材である。教師が自作したモンゴル文化のカードゲームや本校の2023年度 JICA 教師海外研修参加者(キルギス)の経験を活用し、児童が楽しみながら学びを進める中で、表面的な比較にとどまらず、違いの背景にある自然・気候・歴史への理解を深め、文化の多様性を尊重する力を育むことをねらいとする。 <p>【児童/生徒観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の5年生は、これまでの学習を通して世界の国々に関心をもち、自分の興味のある国を調べて発表した経験をもっている。一方で、国際理解への関心には個人差があり、海外への興味が薄い児童も見られる。そのため、カードゲームなどのアクティビ 	

	<p>ティを取り入れ、楽しさを入り口として、文化や歴史に自然に関心に向けられるようにすることを重視した。また、第 4 時の体験活動では、モンゴルとキルギスという似た文化をもつ 2 国を比較することで、「同じように見えても違う」「違いがあるから面白い」という気づきを得やすくし、全員が主体的に参加できる学習構成とした。</p> <p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本単元では、1 学期の総合的な学習での調べ学習を土台とし、児童が自らの学びを広げられるように構成した。モンゴルについては、児童が親しみやすいトランプゲーム「大富豪」をベースにしたオリジナルカードゲームを用い、遊びながら文化や歴史、現状を学べるようにした。第 4 時ではさらに、モンゴルのゲルとキルギスのユルタを再現した空間で体験的に比較し、似ているからこそ際立つ違いに気づく活動を設定した。指導者としては、楽しい体験に終わらせるのではなく、児童が「なぜ違うのか」「その背景に何があるのか」と問いをもてるよう働きかけ、違いを通して多様性を理解しようとする態度へのきっかけとなることを目指したい。
--	---

5. 単元計画 (全 5 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	モンゴルの歴史や文化に触れて他国の文化を大切にする心を育むとともに、カードゲームを通してその文化や生活への理解を深める。	スライドを通してモンゴルの歴史や文化、現状を学ぶ。モンゴルの文化や食、風景を題材にしたカードゲームで遊びながら知識を深め、最後に気づきや疑問を共有して、次の学びへの意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 現地での写真 現地で買った服、帽子、楽器、ゲルなど 自作のカードゲーム ロイロノート
2	日本とモンゴルの生活を比べ、文化のちがいや共通点を見つける。	住まい・食事・学校生活などに関する資料や写真を見比べ、日本とモンゴルのちがいや共通点を探す。個人で整理した後、グループで意見交換を行い、両国の文化の特徴を全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 自作のカードゲーム ワークシート ロイロノート
3	キルギスの歴史や文化に触れて他国の文化を大切にする心を育むとともに、カードゲームを通してその文化や生活への理解を深める。	スライドを通してキルギスの歴史や文化、現状を学ぶ。キルギスの文化や食、風景を題材にしたカードゲームで遊びながら知識を深め、最後に気づきや疑問を共有して、次の学びへの意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 現地での写真 現地で買った服、帽子、楽器、ゲルなど 自作のカードゲーム ロイロノート SATSUKITA パスポート
4 (本時)	モンゴルとキルギスの文化を体験し、一見似ている国同士を比べることで、違いに気づき、その違いが生まれる理由や背景を考える力を育む。似ているところや違うところに気づくことができる。	「モンゴルブース」「キルギスブース」で衣食住や音楽などを疑似体験し、感じたことを記録する。その後、グループで交流し、食事・住まい・服装などのちがいや共通点を整理する。代表者が発表し、全体でまとめることで、似ている文化でも違いがあることに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> 現地で買った服、帽子、楽器、ゲル、飲み物など 地球の歩き方風メモ SATSUKITA パスポート プロジェクター スライド
5	似ているけれども違う理由を考え、モンゴルの文化の背景を調べてまとめ、国際理解をするうえでの見方を広げる。 (総合的な学習の時間)	モンゴルやキルギスの自然環境・歴史・生活の工夫と文化の関係を考える。前時で疑問に思ったことを予想し、調べてまとめることで、多様な文化の背景を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> スライド 現地での写真

6. 本時の展開 (4 / 5)			
本時のねらい： モンゴルとキルギスの文化を体験し、似ているけれども違うところに気づき、なぜ違うのかを予想し、モンゴルの人大切にしていることを見つけることができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (3分)	<p>○前時の振り返り 「モンゴルとキルギスは地理的に近く、同じ遊牧文化を持つ国で、移動式住居で馬と羊と暮らす人たちです。」 「今日は理科室でモンゴルのゲル、家庭科室でキルギスのユルタでみんなをおもてなしする体験ツアーを準備しました！」 「今までの学習で知った、2つの国の似ているモノや事柄について、今日はさらに情報を追加します。例えばモノにはそれが使われている理由があるはずです。ゲルはなぜ移動する家なのですか？遊牧民だからですよ？そういった情報を地球の歩き方風メモに記録してください。」 「2つの国から帰国したみなさんは、お互いの情報を伝え合います。」</p> <p>本時の課題を確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>似ている国同士のモンゴルとキルギスをよく比べて、モンゴルの人大切にしていることを見つけよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの場所は5-1教室。 ・体験の時間を多くするためにできるだけ短い時間で導入を行う。 ・一見、似ているように見えるけれども、よく見ると違いがあることを伝える。 ・モンゴルかキルギスの1つしか体験できないことを伝える。 ・モンゴルは1階理科室、キルギスは2階家庭科室にて体験する。 ・それぞれのブースに行った際に「地球の歩き方風メモ」(自作のメモ教材)にメモをするように伝える。 ・モンゴルブースは小野、キルギスブースは 靱山先生(※2023年度教師海外研修参加者)が担当する。 ・写真は撮ってもよい。 ・移動を含めた時間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球の歩き方風メモ」(自作のメモ教材)
展開① (14分)	<p>○前時に分けていたモンゴル体験グループとキルギス体験グループに分かれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルブースとキルギスブースに行き、それぞれの国を比較する。 <p>※比較体験内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まい、飲み物、衣服、音楽、客のもてなし、肉料理、乳製品(チーズ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真は撮ってもよい。 ・移動を含めた時間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で買った服、帽子、楽器、ゲルなど ・SATSUKITA パスポート
展開② (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がそれぞれの体験から帰ってくる。 <p>「机をグループの形にしましょう。」</p> <p>○5つのグループに吹き出し入りホワイトボードを配る。 (自然と感想を伝え合っているのを少しまって)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動。グループは4～5人で5つ。必ず2人以上はそれぞれの国を体験し 	<ul style="list-style-type: none"> ・中の様子は実物とプロジェクターを併用する。

<p>(5分)</p>	<p>「さてみなさん、今、もう一方の国へ行ってきた人とどうだったか話をしている人もいますが、モンゴルとキルギスの似ているゲルやユルタに入ってきて、わかった情報は全く同じでしたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う。 ・似てると思ったけど、全然違う。 <p>「そうなんです。よく見てみたり、説明を聞いたりすると、はっきりと違うところが見えてきます。みなさんは、モンゴルの人は何を大切にしていると思いませんか？」</p> <p>このことを考えるためには、モンゴルとキルギスの違いを比較するといいです。ホワイトボードに書いてある吹き出し（『キルギスと比べてみたら、モンゴルは～を大切にしている』）を用意しました。グループで話し合いながら書いていきましょう。」</p> <p>「例えばゲルやユルタなどの模様では、どんな情報を伝えられましたか？そのような違いからモンゴルの人大切にしていることが見えてくるかもしれません。考えることは、モンゴルとキルギスに行ってきた人たちで互いに違いを見つけながらモンゴルの人大切にしていることを見つけることです。なので、メモし忘れたことはロイロで送っていますので安心してみてください。」</p> <p>※言葉をうまく表現できないグループへのサポート</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロイロの資料を見られるようにサポートをする。 2. キーワードカードを配る。 （①知恵②強さ③自然④仲間⑤伝統） 3. 2人の教師がキーワードカードを元にグループごとに直接やり取りをして、思考を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者が発表する。 <予想される児童の反応> <ul style="list-style-type: none"> ・キルギスと比べてみたら、モンゴルは、知恵をしぼって生きることを大切にしている。「なぜ知恵をしぼって生きることを大切にしていると思いませんか？」 ・なぜなら、キルギスの料理と比べて、野菜や果物が少なく、塩分が必要という説明があった。飲み物もしょっぱかった。生きるため 	<p>た人がいるグループ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで「地球の歩き方風メモ」に説明を加えた資料で全員に配布する。児童はそれを見ながら体験したことをお互いに補足説明する。 ・『キルギスと比べてみたら、モンゴルは～を大切にしている』という吹き出しをホワイトボードに作っておく。 <ol style="list-style-type: none"> ①ゲル・ユルタ（移动式住居） ②ボーズ、ホーショール、アーロール・マンティ、クルダック、クルト（食べ物） ③スーテーツアイ・チャイ（飲み物） ④デール・チェプケン（衣服） ⑤馬頭琴・コムズ（楽器） ⑥競馬、弓術、モンゴル相撲・コクボル（スポーツ） <ul style="list-style-type: none"> ・キルギスと比較できていないグループはキルギスではどうだったかを聞いて思考を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き出し入りホワイトボード（ページ参照） ・ロイロノート ・キーワードカード①～⑤（指導案最終頁参照）
-------------	---	---	--

<p>まとめ (2分)</p> <p>まとめ (6分)</p>	<p>にたくさん考えていると思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キルギスと比べてみたら、モンゴルは、馬を大切にしている。 「なぜ馬を大切にしていると思いましたか？」 ・キルギスも馬頭琴と似たような楽器があったけれど、モンゴルでは馬をイメージしている音らしい。また、デールは馬に乗りやすく作られたものと言っていたから。 ・キルギスと比べてみたら、モンゴルは、仏教を大切にしている。 「なぜ仏教を大切にしていると思いましたか？」 ・ゲルの模様はお寺の模様に似ていた。キルギスはイスラム教で人の絵は飾らないが、モンゴルはチンギスハンが飾ってあった。 <p>・グループの形から机を戻す。 まとめ（全体での共有）</p> <p>「モンゴル・キルギスの似ているモノの違いを見てきましたが、全く同じでしたか？似ているけれど違うことを比べて、どう感じましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、同じに見えたけれど、詳しく見ていくと違いがわかった。 ・違っていて面白いなと思った。 ・違うということはいろいろな生き方がある。 ・どこも同じだとつまらない。違いがあるから面白い。 <p>○振り返り 「今回の体験はどうでしたか？」 「楽しかった、違っただけではなくて、どんな人たちかを知ろうとしていましたね。」 「ロイロノートに、今回の体験やグループでの話し合いを通して、似ている国同士を比べることで考えたこと、見えてきたことを書きましょう。」</p> <p><予想される児童の反応（感想）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は同じように見えていたものも多かったけれども、モンゴルもキルギスも違いがあり、大切にす文化があることがわかった。 ・日本と比べた時は違うところが多かったけれど、キルギスと比べた時は同じところが多かった。でも、よく見ると違うところも多かった。 ・いろいろな国の文化には理由があるので、大切にしようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートは共有して全員が見られるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート（提出箱）
---	--	---	--

	○振り返りの言葉を使って、教師がまとめていく。		
7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）	モンゴルとキルギスの体験を通して、似ているところや違うところに着目し、なぜ違いが出てくるのかを考え、モンゴルの人大切にしていることを見つけることができた。（思判表・振り返りの記述）		

【参考資料】

- ・学習指導要領解説総合的な学習の時間編 文部科学省
- ・「地球の歩き方 D14 モンゴル」地球の歩き方編集室 2024 年
- ・「モンゴル仏教紀行」菅沼晃 2004 年
- ・HP 世界の国旗「モンゴル」

<https://www.world-national-flags.com/country/asia/mongolia.html>

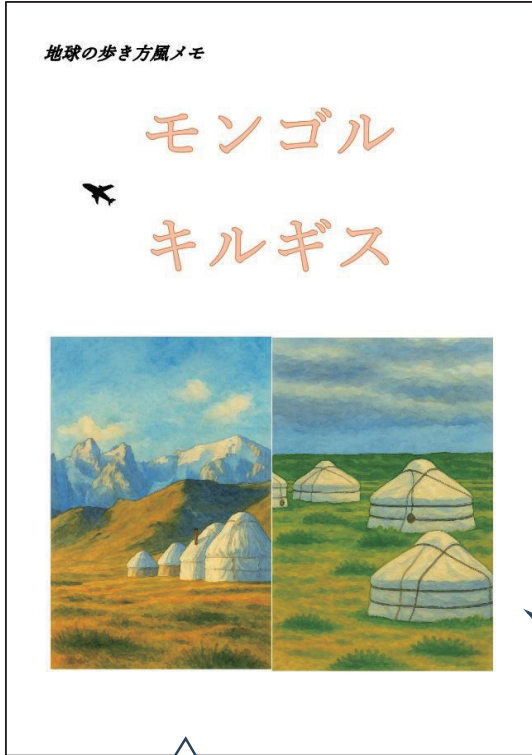
【自己評価】

苦勞した点	本単元では、モンゴルとキルギスという類似性を持ちながらも背景が異なる文化を扱ったため、児童が表面的な違い探しに終始せず、文化の違いからモンゴルの人大切にしていることに導けるよう授業を構成することに苦勞した。モンゴルとキルギスの体験の差によって比較が十分に機能しないということがないように伝えるべき内容の台本を用意したが、その内容を精査することも苦勞した。グループ活動では、扱う情報が多く、45分という時間では子どもの気づきを整理しきれない点もあった。背景を考える発問が十分に生かしきれなかったことも反省点である。
改善点	比較の前提となる体験を全児童が共有できるよう、ブース体験の順序・量を見直す必要がある。また、モンゴルの人「大切にしていること」やモンゴルとキルギスの「違い」という言葉での発問が中心になってしまったが、「モンゴルらしさ」という視点での発問を中心にするると、子どもたちにとってわかりやすかったかもしれないと感じた。グループ活動をするときには、何を話してよいかわからなくなっているグループがあったので、グループ活動の導入段階で「何を見たか・聞いたか・感じたか」を短時間で共有させ、気づきの確実性を高める必要があると感じた。
成果が出た点	児童が、モンゴル文化の背景にある自然との向き合い方や生きるための知恵に気づいた点は大きな成果である。事前にモンゴル・キルギスの両方を学習していた成果やモンゴルコーナーなどを教室内に作り、興味関心をひくしかけを作っていた成果がでたと感じた。児童の発言は活発で、どのグループも話の方向性が決まると多くのことを考えて話し合っていた。また、体験ブースは、可能な限り本物に近づけたいという気持ちが強かったため、プロジェクターでのゲル（キルギスではユルタ）、本物のミルク

	<p>ティー、実物大の食べ物の写真、伝統的な楽器の音（馬頭琴等）、伝統的な服、などを用意した。五感を意識するように視覚以外にも、味、匂い、音、触った感覚を子どもたちが感じられるように意識した。実物資料・本物の体験は動画や写真以上に児童の認知を揺さぶり、興味関心を喚起する効果が非常に高かった。</p>
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<p>児童のふり返りからは、文化の違いを単なる特徴として並べるのではなく、その背景にある自然・歴史・価値観に気づこうとする姿が見られた。</p> <p><ロイロノートの感想></p> <div data-bbox="602 592 1432 764" style="background-color: #1a3d54; color: white; padding: 5px;"> <p>キルギスとモンゴルを比べてわかったこと キルギスとモンゴルを比べて、モンゴルはどの家にも（ゲル）大体はチングス・ハンが飾られているけど、キルギスは、イスラム教で人や動物は飾らないということがわかりました。 最初はゲルとユルタは同じだと思ったけど色々な違いがあった。</p> </div> <div data-bbox="602 810 1432 971" style="background-color: #f08080; padding: 5px;"> <p>🍎 考えたこと 🍎 最初、キルギスのユルタを見たときには「ゲル！」と答えてしまって、違いなんてないと思っていましたが、ゲルは、卍のマークがあり、ユルタは、違うシンボルマークがついている</p> </div> <div data-bbox="602 1017 1432 1281" style="background-color: #add8e6; padding: 5px;"> <p>見えてきたことは家の中は仏教とイスラム教の模様など違うところが見えてきました。 考えたことは、衣服の模様はお寺の地図記号が関係しているということを考えました。 モンゴルは一人で戦い自分の強さをしめすということがわかりました。</p> </div>
<p>授業者による自由記述</p>	<p>今回の授業では、「文化とは、行動や習慣の背後にある見方・考え方である」という視点を児童に実感してほしいと考えていたが、その意図が十分に伝わらなかった部分もある。また、ステップごとに違いを確認する声かけがあると議論が深まったかもしれない可能性もあるが、時間との兼ね合いは難しいと改めて感じた。しかし、児童の反応や議論の深まりから、参加型学習の可能性と、自分自身が目指す授業スタイルの方向性が見えてきた。本物を用いて授業をすることは、用意している時も楽しいし、子どもたちの反応もとてもよくて楽しい。しかし、授業のねらいに沿って、取捨選択をしなければならないことが非常に大変である。今後は、どの授業であっても自分の授業観をより明確に言語化していきたい。</p>

次年度以降の取組予定	<p>次年度以降は、本単元で得た学びを踏まえ、他教科へ広げていく実践を進めたいと考えている。本単元では、文化の「違い」を見つけるだけでなく、「なぜその違いが生まれたのか」という背景を探る発問が学習の質を大きく高めることを実感した。この視点は社会科の歴史・地理、国語科の説明文、外国語科の異文化理解など、多くの教科に応用可能であり、表面的な答えではなく理由を探る学習へとつなげていきたい。また、6年生との接続では、世界の文化や歴史、日本文化の成り立ちを考える学習において、本単元で身につけた「地形・気候・歴史・宗教が文化を形づくる」という見方が有効である。児童が文化を「もの」ではなく「考え方」から捉える姿勢をもつことで、6年生で扱う学習をより深い理解へ導くと考える。</p> <p>他学年への広がりとしては、3・4年生では写真や動画を用いたり、体験的な活動を取り入れた身近な文化の気づき中心の学習、5年生では今回のような背景を探る探究的学習、6年生では多文化・国際理解と結びつけるというように、発達段階に応じて焦点を変え、系統的な文化理解教育を構築したい。さらに、本単元で取り入れたインフォメーションギャップは、対話を活性化し、児童が主体的に違いの理由を考える契機となった。次年度以降も、体験の非対称をあえて設ける方法を、学年に応じて変化させながら活用していきたい。</p>
------------	---

【地球の歩き方風メモ】 ※内容は、想定される記入例



モンゴル	キルギス
ゲル	ユルタ
「ゲル」は円形で風を分散させる構造。冬はマイナス 30 度にもなる厳しい寒さに対応。中央に炉があり、家族で温まる。仏教の影響で先祖の写真飾る。	「ユルタ」も円形だが、内装の様子が豊かで「おもてなし」の文化を反映。イスラム教の影響で人物や動物の写真は飾らない。

モンゴル	キルギス
ポーズ、ホーショール、アーロール	マンティ、クルダク、クルト
遊牧生活を基盤にした文化があり、食も「保存と体力維持」に重点が置かれています。たとえば、蒸し餃子の「ポーズ」や揚げ餃子の「ホーショール」、乾燥チーズの「アーロール」など、長期保存ができてカロリーの高い食品が多い。極寒の草原での生活を支えるために、乳製品や肉を乾燥・塩漬にする知恵が発展した。	料理には中央アジアやシルクロード文化の影響が色濃く見られる。たとえば、羊肉と玉ねぎを包んで蒸す「マンティ」や、炒め煮の「クルダク」、乾燥ヨーグルトの「クルト」などがある。ここでも保存食や栄養価の高い料理は重要ですが、野菜の使用や香辛料の工夫などがあり、多民族文化の中で育まれた多様性が料理に表れている。

モンゴル	キルギス
スーテーツァイ	チャイ
しょっぱいミルクティー。寒冷地で働く人々のために塩分補給が重要。「生きるための飲み物」。来客時に出す「おもてなしの飲み物」でもある。	甘くて飲みやすい。来客時に出す「おもてなしの飲み物」。

モンゴル	キルギス
デール	チュブケン
厚くて動きやすく、遊牧や馬に乗る生活に最適。	羊毛フェルト製で軽くて暖かい。美しい刺繍と自然モチーフの様子が特徴。実用性よりも「美しさ」や「表現」が重視される。

モンゴル	キルギス
馬頭琴	コムズ
馬の頭の形をした楽器。自然や動物との結びつきが強い。「ホーミー」という 1 人で 2 つの音を出す歌い方もある。	やさしい音色の楽器。人と人とのつながりを大切にする音楽。「テミルコムズ」というムックリに似た楽器もある。

モンゴル	キルギス
モンゴル語・モンゴル文字、キリル文字	キルギス語・キリル文字
モンゴル文字は縦に書く文字で、世界的に見ると日本語に似ている（縦書きというところ）。キリル文字は 100 年ほど前にロシアの影響で使われるようになった。また、話しているモンゴル語も世界的に見ると日本語や韓国語に近い（語順）。	モンゴルやロシアと同じくキリル文字を使っている。話している言葉はトルコ語に近い仲間。

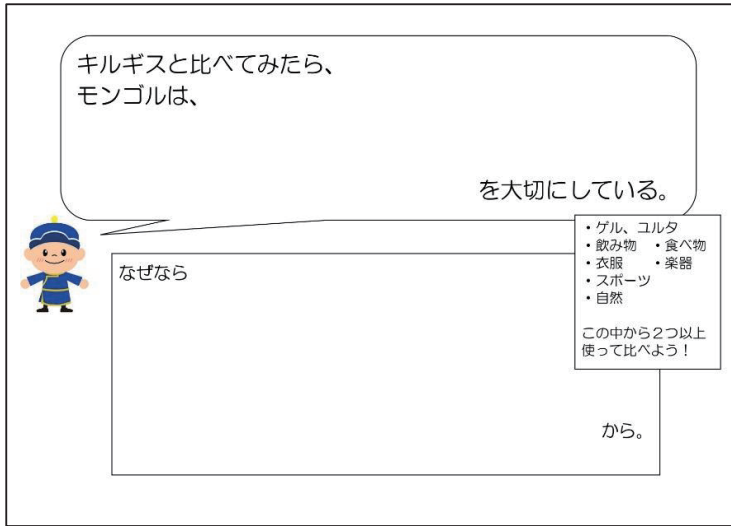
【SATSUKITAパスポート】

モンゴル、キルギスに
入国時に使用



小野
竜大
教諭

【吹き出し入りホワイトボード】



【キーワードカード】



【授業や展示の様子】




[モンゴルカードゲーム] 前時で使用


小野
竜大
教諭



遊び方



- 最初はジャンケンなどで順番を決める
- 人数は3～4人
- 最初に5枚配る
- 基本は大富豪のようなルール
- **必ずカードに書いてあることを読まなければならない。**
- 3,4,5...→8,1,2の順番で強くなっていく
- 3を出されたら次の人は4以上を出す。
- 3を2枚など出すこともできるが、そのターンはずっと2枚出さなければならない。
- 「特殊効果カード」を使えるのは1ターンに1枚だけ。
- 「数字カード」+「特殊効果カード」での複数枚を出すこともできる。
- 「特殊効果カード」はいつでも出せる。ただし、大富豪でいう「JOKER」として使う。
- 「数字カード」も8だけ特別に「8切り」ができる。
- 最後にあがれるのは「数字カード」だけ。「特殊効果カード」であがることはできない。



1 景色・建物


ゲル



ゲルとは、モンゴル伝統の移動式の家。どこまでも広がる広い草原のゲル。

2 景色・建物

チンギスハン国際空港



モンゴルの中心の空港。日本の支援で建てられた。

3 景色・建物

ウランバートルの道路



右側通行。よく見るとトヨタがとても多い。

4 景色・建物

ゲルと家



ゲルと家が密集している地域。草原にあるゲル、そしてビルやマンションが密集している地域とは違う雰囲気。

5 景色・建物

劇場



国立ドラマ劇場。伝統的な演奏や踊りを見ることができる。有名な「ホーミー」や「馬頭琴」を聞くこともできる。

6 景色・建物

モンゴル日本病院



日本の支援のもと、建てられた病院。最近では、ただ病気を治すだけではなく病気を予防することにも力を入れている。

7 景色・建物

国立博物館



国立の博物館。JICAも支援している。人類の誕生から現在の民主主義政治にいたるまで、長い歴史を紹介している。

8 景色・建物


大草原



どこまでも続くような広い草原。
効果：大富豪の「8切り」のように、自分のターンとして再スタートする。

1 食べ物・飲み物

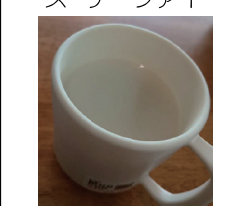
アーロール



モンゴルの伝統的な乾燥乳製品で、主にヨーグルトや乳を乾燥させて作るチーズの一種。

2 食べ物・飲み物


スーテーツアイ



モンゴルで飲まれる塩味のミルクティーのこと。茶葉を煮出して牛乳と塩を加えて作られる。お茶といえば「スーテーツアイ」。

3 食べ物・飲み物

YOSHINOYA



モンゴルにもあった日本の牛丼屋さん。牛丼の味は日本と同じ。マトン丼というモンゴル限定の商品があった。

4 食べ物・飲み物

ホルホグ



羊肉や野菜を焼けた石と一緒に鍋に入れて蒸し焼きにする料理。お祭りでふるまわれることが多い。

5 食べ物・飲み物

ウルム



搾りたてのミルクから作るクリームのような濃厚なウルム。揚げドーナツのようなボルツォクにウルムをつけて食べる。

6 食べ物・飲み物


馬乳酒 (アイラグ)



馬の乳を発酵させた飲料。酒というより栄養価の高い飲料として飲まれることが多い。

7 食べ物・飲み物

ホーシヨール



小麦粉で作った生地をひき肉やたたき肉などを包み、油で揚げた料理。

8 食べ物・飲み物

ツオイワン



モンゴル風の焼きうどんで、羊肉と野菜を使用した具材と麺を組み合わせた料理。とても美味しい。
効果：大富豪の「8切り」のように、自分のターンとして再スタートする。

1 歴史・文化
モンゴルの模様

モンゴルでは、太陽や雲を表すときにこのように描く。子どもでもこの描き方らしい。このポスターはモンゴルの高校生が作成した。

2 歴史・文化
チンギス・ハンの銅像

モンゴル帝国を建国した偉大なる人物の巨大な銅像。そもそも立ち入り禁止になっており、政府の場所を守っている。

3 歴史・文化
ボグド・ハン

昔のモンゴル国の最後の皇帝。この後、1924～1992年までは社会主義国となる。

4 歴史・文化
モンゴル文字

たての方向、そして、左から右へ読むめずらしい文字。モンゴルでは社会主義になってからキリル文字を使い、民主主義になってから、またモンゴル文字も使うようになってきた。

5 歴史・文化
スフバートル広場

約100年前、モンゴルが独立したときの英雄「スフバートル」の名前がついている広場。日本では「VIVAN」のロケ地として有名。

6 歴史・文化
ホーミー

モンゴルに伝わる歌い方的一种で、一人の歌手が同時に2つの音を出す特殊な歌い方。低い基音と高い倍音を組み合わせることで、独特な響きを生み出す。

7 歴史・文化
ツァータン族

ムックリのような楽器を演奏している。着ている服もアイヌ民族に非常に似ているが、関連性があるかは不明。

8 歴史・文化
馬頭琴

モンゴルの代表的な民族楽器。先端に馬の頭の彫刻があるのが特徴で、2本の弦を馬の尻尾の毛で作られた弓で弾いて演奏する。
効果：大富豪の「8切り」のように、自分のターンとして再スタートする。

特殊効果カード
モンゴル帝国

歴史上世界最大規模の領土の国。チンギス・ハンが建国した。
効果：次の人をスキップさせる。

特殊効果カード
渋滞

ウランバートルでは、歩いた方が速いくらい渋滞が多い。
効果：全員山札から1枚引く。

特殊効果カード
大渋滞

通勤通学の時間帯や帰宅時には、5kmの道のりで30分～1時間くらいかかることもある。
効果：全員山札から2枚引く。

特殊効果カード
SHEP

JICAが開発した、農家が「作って売る」から「売るために作る」という意識改革の方法。どんな野菜が売れるのかを調査することが大切。
効果：順番を逆にする。

特殊効果カード
野菜ジュース

日本の野菜ジュースがどの店にもある。モンゴルの人は野菜をあまり取っていなかったが、最近は健康に気を使っているらしい。
効果：カードを1枚捨てることができる。(捨てなくてもよい)

特殊効果カード
恵みの雨

今シーズンは8月に初めて雨が降った。それくらい雨が貴重。
効果：全員カードを1枚捨てることことができる。(捨てなくてもよい)

特殊効果カード
数分に1回、「がたん」となる道路

スピードを出させないための工夫。すごく酔う。
効果：山札から2枚引く。

特殊効果カード
国旗

赤は正義や団結を、青は空やモンゴルの伝統的な色を象徴している。ソヨンボは、モンゴルの古くからのシンボルで、自由や独立を意味する。
効果：山札から好きなカードを見て1枚選ぶ。その後、山札をシャッフルする。

特殊効果カード

井戸水



雨は基本的に降らないので、水は井戸水から確保する。

効果：歴史・文化カード（赤）を全員、全て左隣りの人に渡す。

特殊効果カード

干ばつ



全然雨が降らない。

効果：全員山札から1枚引く。

特殊効果カード

大干ばつ



8月になっても全く雨が降らない。特に農家と酪農家がピンチ。

効果：全員手札を一度捨てて、山札から同じ枚数をもう一度引く。

特殊効果カード

トゥグルグ



モンゴルのお金の単位。日本円で1000トゥグルグでだいたい50円くらい。※この絵はイメージです。本物は先生に見せてもらってください。

効果：景色・建物カード（緑）を全員、全て左隣りの人に渡す。

特殊効果カード

ものすごい種類の牛乳



モンゴルでは遊牧をしており、酪農がさかん。スーパーでは、ものすごい種類の牛乳がある。

効果：カードを1枚捨てることことができる。（捨てなくてもよい）

特殊効果カード

マンガ・アニメ



日本のマンガやアニメの話題でたくさん盛り上げることができる。

効果：全員カードを1枚捨てることことができる。（捨てなくてもよい）

特殊効果カード

シャガイ



4つのシャガイを振って出た目で占うもの。基本的に羊の骨を使う。

効果：左どなりの人とジャンケンをする。勝ったら2枚渡す。負けたら2枚もらう。

特殊効果カード

ちょっとふくらんでいるお菓子



モンゴルは高原と言って標高が高い。約1000mくらいあるのでふくらんでいるお菓子もある。

効果：食べ物・飲み物カード（水色）を全員、全て左隣りの人に渡す。

わたしの一枚



言葉の壁をこえた交流

写真を撮った場所：トルゴイト地区地域開発センターのゲルの中

最初は戸惑っていたが、日本式のジャンケンの意味が伝わるとすぐに楽しみ始めた。ジャンケンを理解してくれた後は、ジャンケン列車をして言葉の壁をこえて楽しめた。日本の遊びが新鮮な体験となったことを感じて嬉しかった。また、空き時間には日本の「アルプス一万尺」に似た遊びをしており、言葉や文化が違って子どもたちの遊びには共通点があると実感した。現地にもジャンケンのような遊びがあるが、日本のものとは少し異なり、多様性と共通性を同時に学ぶ機会となった。モンゴルらしさがある「ゲル」の中でこの経験をできたことがとても嬉しかった。

氏名：小野 竜大

学校名：幕別町立札内北小学校



氏名 藤森 菜月
 学校名 和尻富士町立鴛泊小学校
 学年 第1学年(13人)
 実施教科(領域) 生活科・国語科・道徳科

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名)： せかいと なかよし～こんにちはモンゴル！
2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）
 - ・外国の文化や暮らしについて、体験活動を通して、自分の生活と比べながら外国への関心を広げ、外国の人や文化に触れたい・関わりたいという気持ちをもつことができる。
 - ・外国の文化や暮らしに触れる活動を通して、自分の気づきや考えを友達と共有しながら表現できる。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルや世界のあいさつ、食べ物、国旗、くらしの様子、遊びなどについて知っている。 ・モンゴルと日本の生活の違いや共通点を具体的に挙げられる。
	②思考力、判断力、表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの人々の文化やくらしなどと自分の生活とを比べ、感じたことや気づいたことを話すことができる。 ・学習を通して感じたことや考えたことを、自分なりにまとめて表現できる。
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化やくらしに興味をもち、活動や発表に進んで参加している。 ・新しい文化や違いを受け入れ、友達の発見や意見を聞こうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>本単元では、1年生にとって実感を伴いにくい「外国」という題材を取り上げ、遊びや身近な食べ物、写真など具体的な手がかりを通して学べるように設定した。こうした教材や活動を通して“自分の目で見て、友達と話し、感じる体験”をすることで、知識の習得だけでなく驚きや共感を引き出すことができると考えられる。</p> <p>研修を通して、首都ウランバートルには高層ビルが立ち並ぶ都市的な側面がある一方、ゲル地区や草原では伝統的な生活や文化が現在も残っていることを知った。こうした「現代的な姿」と「伝統的な暮らし」が共存しているモンゴルの実態は、子どもたちが抱きやすい一面的なイメージを見直すきっかけとなり、世界を多様に捉える視点を育む題材となる。さらに、異なる言語や生活様式であっても、人々の温かさや生活の工夫には共通性があることを感じ取ることは、子どもたちが自分の生活と結びつけて考える手がかりとなる。モンゴルを入り口としながら、子どもたちの世界への関心を広げていきたいと考え、単元を構想した。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>本単元は、生活科・道徳科・国語科を関連付けながら学習を進める。</p>	

まず、生活科の導入では、世界のあいさつや食べ物、遊びなど児童にとって身近な題材を扱い、外国への関心を高めるきっかけとする。

次に、道徳科「ほかのくにからきたたべもの」では、身近な食べ物の背景にある他国との繋がりについて、気づききっかけを提供するとともに、モンゴルの食文化に焦点を当て、食を通して人々の暮らしや考え方を理解しようとする態度を育てる。

続いて、国語科「きこえてきたよ、こんなことば」では、モンゴルの写真を活用したフォトランゲージ活動や、写真をもとにしたお話づくりを行う。これにより、児童が場面を想像したり、感じたことをことばで表現したりする力を養う。

その後の生活科では、「モンゴルすごろく」を通して、衣・食・住などの具体的な文化に触れる。活動から、モンゴルの人々の生活の様子を理解し、異文化への興味・関心をさらに深めることを目指す。

最後に、単元全体をふり返って印象に残ったこと等を共有し、自分たちの生活と結びつけて考えを広げる。

このように、導入からふり返りまでを生活科・道徳科・国語科の学習で段階的に構成することで、

- ・身近な世界や生活の様子に関心をもち、感じたことを広げる力
- ・自分と異なる文化や考えを理解し、互いを尊重して生活する態度
- ・写真やことばを通して、自分の思いや気づきを表現する力

を育成することをねらいとする。

【児童観】

本学級の児童は、新しいことに会うと「おもしろい!」「やってみたい!」と素直に反応する感受性をもっており、友達と一緒に活動することで意欲を高める姿が見られる。また、互いの違いに過度にこだわることなく自然に関わり合い、安心して学び合える雰囲気がある。一方で、離島という環境にあり、日常生活で関わる人々が地域の人に限られているため、生活経験の幅が狭く、他国のことはもちろん、多様な文化に触れる機会は少ない。音楽で「うみ」を歌った際、『よそのくに』とはどのようなところかを尋ねても国名が出てこなかったことから、発達段階として自然な姿であるとともに、他国に関する知識や経験がまだ広がっていないことがわかる。

【指導観】

国際理解教育の第一歩として、子どもたちが「外国は遠くて難しいもの」ではなく「自分の生活とつながる身近なもの」と感じられるように、体験的な活動を通して驚きや気づきを共有する場を大切にする。他国の文化やくらしに触れ、楽しみながら世界への関心を広げるとともに、自分の生活をふり返りながら多様な文化との「ちがい」と「よさ」を受け止める視点を育てたい。序盤では異文化に出会うきっかけをつくり、後半ではモンゴルの文化や生活に焦点を当てて具体的な理解や共感を深め、互いを尊重し合う態度へとつなげていく。

5. 単元計画 (全 11 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	<p>【生活科】</p> <p>◆せかいとなかよし</p> <p>・世界のさまざまな国や文化にふれる活動を通して、自分たちの知らない世界があることに気づき、親しみを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本、モンゴル、ロシア、アメリカ、ケニア、ブラジルの6つのブースへ旅に出かけ、それぞれの国の文化や生活を知る。 印象に残ったことやもっと知りたいと思ったことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 国旗、あいさつ、遊び、食べ物などに関する掲示物や実物
2	<p>【道徳科】</p> <p>◆ほかのくからきた たべもの (東京書籍『新編 あたらしいどうとく 1』)</p> <p>・外国の食べ物に関心を持ち、日本とのちがいやよさに気づくことで、他の国の人々や文化に親しもうとする気持ちをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書から、日本の食生活に入ってきた外国の食べ物に気づく。 モンゴル料理の画像等を通して、見た目や材料、日本との違いや似ているところに気づき、関心を深める。 モンゴルの人たちがどんなところで、どんな風に暮らしているのか考える。 モンゴルの食べ物について思ったことを自分の言葉でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※事前に児童の好きな食べ物を調べておく ワークシート 画像、動画 世界地図 スーターツァイ (試飲用)
3 ～ 8	<p>【国語科】</p> <p>◆きこえてきたよ、こんなことば (教育出版『ひろがることば しょうがくこくごー下』)</p> <p>・写真から想像を広げて言葉を考えることで、自分の思いや考えを言葉で表現する力を高める。</p> <p>・写真に写る情景から、異なる文化やくらしの雰囲気目を見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見て気づいたこと、想像した言葉や前後の出来事などについて話し合う。 想像した言葉や出来事をもとに、お話を考えて書く。 友達と読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 画像、動画 ※ゲルでおもてなしをする少女、馬の乳しぼりを手伝う少年、草原で遊ぶ子どもたち、遊びを見守る少年、日本の遊びを楽しむ子どもたち
9 ・ 10 (本時)	<p>【生活科】</p> <p>◆せかいとなかよし</p> <p>・日本とモンゴルの文化や生活を比べながら、世界の多様性に気づき、異なる文化への関心と理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループに分かれ、すごろくゲームをする。 ※サイコロを振ってマスを進み、ミッションをこなしてモンゴルカードを集める。 すごろくゲームを通して見つけた日本との共通点や相違点、感じたことなどをふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート どうぶつ集めゲームセット すごろくゲームセット
11	<p>【生活科】</p> <p>◆せかいとなかよし</p> <p>・これまでの学習をふり返り、印象に残ったことを自分なりの視点で表現することで、世界の文化やくらしへの関心を広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習をふり返り、印象に残ったことを思い出す。 一番印象に残っていることについて「おもしろい賞」「すごい賞」「ふしぎで賞」から、自分の思いに合うものを選ぶ。(自分でオリジナルの賞を作ってもよい。) 選んだ賞に対して「なぜそう思ったのか」を簡単な言葉などで表す。 できあがった賞を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

6. 本時の展開 (10 / 11)			
本時のねらい			
・モンゴルのくらしや文化に関するに事柄にふれ、楽しみながら外国の文化への理解や関心を深める。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	<p>○前時までの学習内容をふり返る。 「世界やモンゴルについて、色々な勉強をしてきましたね。どのようなことを覚えていますか？」 ・世界旅行ゲームや道德の授業での学び ・モンゴルの写真をもとにお話を考えたこと</p> <p>○本時の課題を確認する。 「今日は、ゲームをして、もっとモンゴルに くわしくなしましょう。」</p> <p>(かだい)モンゴルすごろくをして、もっとモンゴルとなかよしになる。</p>	<p>・テレビに前時までの授業の様子を映す。</p> <p>・課題をテレビに映し、全員で読み上げて確認する。</p>	<p>・前時までの学習での児童の様子 (画像)</p> <p>・スライド</p>
展開① (25分)	<p>○すごろくの練習をする。 「まずは、練習に“どうぶつ集めゲーム”をします。やり方がすごろくと似ているので、覚えましょう。」</p> <p>～ルール～ ①全4ターンのターン制で、順番を決めて、1人ずつサイコロをふる。 ②出た目の数だけ、各ターンの拠点となるマスから自由にコマを進める。 ③マスの番号と同じ数字のカードをもらう。 ④4ターン終わったときに、5種類の動物をそれぞれ1番多く持っていた人は、「○○王カード」をもらう。 ⑤自分の手元にある動物カードの数を数え、1番たくさん集めた人は、「どうぶつ王」になれる。</p>	<p>・3～4人のグループを作り、どうぶつ集めゲームセットを配付する。</p> <p>・グループを巡回し、進め方を理解できているか確認する。</p>	<p>・どうぶつ集めゲームセット</p>
休憩 (5分)	<p>～どうぶつ集めゲーム～</p> <p>「ゲームの進め方はわかりましたか？」 「では、次はモンゴルすごろくをします。」 「5分休みの後に、説明を始めます。」</p>	<p>・各グループにすごろくセットを配付する。</p>	<p>・すごろくゲームセット</p>
休憩 (5分)	<p>～5分間休憩～</p>		

<p>展開② (45分)</p>	<p>○モンゴルすごろくのルールを確認する。</p> <p>～ルール～</p> <p>①全4ターンのターン制で、順番を決めて、1人ずつサイコロをふる。</p> <p>②出た目の数だけ、各ターンの拠点となるマスから自由にコマを進める。</p> <p>③止まったマスに書かれた番号のミッションを声に出して読み、挑戦する。</p> <p>※クイズミッションのとき、答えは次の順番の人が読み上げる。</p> <p>※ミッションによっては、クリアするとモンゴルカードがもらえる。</p> <p>④4ターン終了時点でモンゴルカードを12枚以上持っていたグループは、モンゴル名人になれる。</p> <p>「ルールはわかりましたか？」 「モンゴル名人を目指して、グループのみんなで協力してがんばってくださいね。それでは、モンゴルすごろくを始めましょう！」</p> <p>～モンゴルすごろく～</p> <p>○全ターンの行動終了後、グループごとに何枚のモンゴルカードを得ることができたか集計する。</p>	<p>・グループを巡回し、進め方やミッションの方法でわからないところがないか確認する。</p>	
<p>まとめ (15分)</p>	<p>○本時の学習をふり返る。</p> <p>「わかったことやおどろいたことを、グループで話してみよう。」</p> <p>「ワークシートに、今日の勉強のふり返りを書きましょう。」</p> <p>～ふり返りの内容～</p> <p>①モンゴルと日本で、にているな、ちがうな、とおもったことはなんですか。</p> <p>②すごろくをして、モンゴルのおもしろいとおもったことやすごいとかんじたことをかきましょう。</p> <p>「今日はすごろくをして、モンゴルともっと仲良くなれましたね。日本と似ているところも違うところも、面白い！すごい！と感じる気持ちを大切にしていきましょう。」</p>	<p>※言葉に表すのが苦手な児童に配慮し、口頭で交流後に記入させる。</p> <p>・ワークシートを配付する。</p> <p>・早く書き終わった児童は、記入したことを友達と発表し合う。</p>	<p>・ワークシート</p>
<p>7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>・すごろくの活動を通して、モンゴルと日本のくらしや文化についての似ているところ、違うところ、モンゴルの素敵などに気づき、自分の言葉でふり返ろうとしているか。</p> <p>【思考・判断・表現】（観察、ワークシート）</p>			

【参考資料】


- ・ 小学校学習指導要領解説 生活編
- ・ 小学校学習指導要領解説 道徳編
- ・ 大津和子（編）『日韓中でつくる国際理解教育』.明石書店.2014年
- ・ 大津和子「韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発」.2012年
- ・ 気象庁ホームページ
(https://www.data.jma.go.jp/cpd/monitor/dailyview/graph_mkhtml_d.php?&n=44292&p=93&s=1&r=0&y=2025&m=3&d=7&e=0&k=0)

【自己評価】

苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年向けの教材にするためのルール、素材の選定、文字量、学び方などの調整。それらすべてに配慮した物作り。 ・ 小学1年生にとって「文化のちがいを考える」「気づきを言語化する」ということは難しいため、問いの立て方や授業の流れ、ワークシートを考えるのに時間がかかった。 ・ 1時間では足りないが、2時間続きだと集中力が切れるのではないかと考え、活動量とテンポの調整をすることに最後まで悩んだ。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返りをする時間が足りず、児童の学びが中途半端になってしまった。 →案) ルール定着のために前半に加えた「どうぶつあつめゲーム」は2ターン程度だけ実施、またはカットして「モンゴルすごろく」の1ターンめを全員で確認しながら行う。 ・ 自分の思ったことを文章に表すことが難しい児童が多いため、ふり返りの手段を事前によく検討しておけばよかった。 ※実態にかかわらず、低学年向けのふり返り方は精選。 →案) 口頭で発表したことを教師が文章に書いてまとめる、絵に描いて表す、選択肢を設ける。 ・ 思ったよりもクイズに正解できず、カードを手に入れられていなかった。 →案) 3択のクイズを2択にする、名人の基準枚数を減らす。 ・ 体験的なミッション（ゲルの模型を組み立てる、動画を見る、あいさつをする等）は、全員ができるようにした方がよかった。 →案) 全員が一斉に体験ミッションに参加する時間を設定する。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内展示（授業の約1か月前から開始）で民族衣装やその他の実物資料、モンゴルポーカー等のゲームに触れられるような環境をつくって

第11時 ワークシート

すごい! で賞



えらんだ りゆう
 りゆうまいみたいだ! けどボース
 でした。ボースはふしぎな名
 おいでしてこ

すごい! で賞



えらんだ りゆう
 日本やタイ、ベトナムのお米が
 あってすごいとおもったから。

**モンゴルにも
あるんだ! で賞**



えらんだ りゆう
 モンゴルにもケンタッキー
 があるとはおもっていな
 かったから

すごい! で賞



えらんだ りゆう
 ひつじのあたまをたべ
 れるとはおもわなかったから。

ふしぎ! で賞



えらんだ りゆう
 日本は、おもしろいなかでや
 ってるけど"モンゴル"はそとで
 やっているのが"ふしぎ"なところ

ふしぎ! で賞



えらんだ りゆう
 りゆうは、日本はねたんがひ
 だりにかいてるけどモンゴル
 はみぎはかいてるから。

<p>授業者による自由記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルへ行く前から「参加型の学び方」を意識して研修を受けることができたため、実践に生かしやすかった。 ・研修全体を通して、参加型アクティビティが子どもたちの学びを大きく促し、主体性を引き出す力があることを再認識した。 ・教材との出会いから学びが広がる過程を見ることができ、参加型学習の価値を実感した。 ・授業をご参観いただいた先生方から「ここだけのものにするのはもったいない」「うちでもやってほしい」と声をかけてもらい、一つの教材として評価されるものになったんだと感じた。
<p>次年度以降の取組予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくを含む、今回作成したゲーム教材の改良。 ・中～高学年向けのミッションを加えたモンゴルすごろく作り。 <p>→今年度は、6年生に今回のすごろくで授業を実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の家庭科（特に食分野）での授業づくり。 <p>→モンゴルには家庭科教育がなく、栄養に関する知識に乏しいということを知ったため。</p>

【本時モンゴルすごろくワークシート】

せかいとなかよし ～モンゴルすごろく ワークシート

べんきょうした日： 月 日 ()

名まえ ()

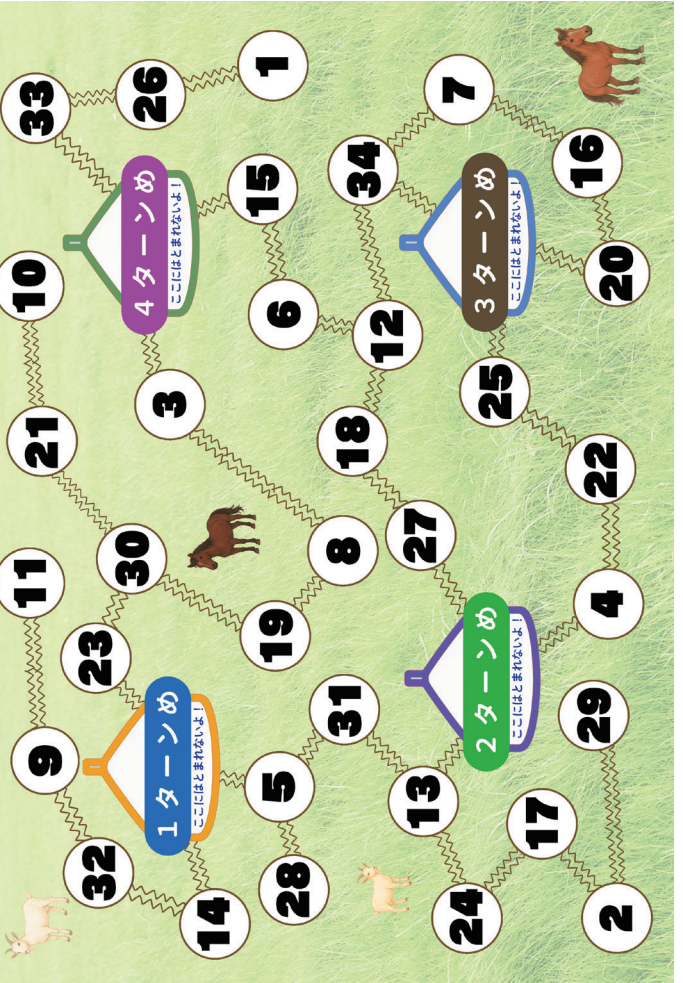
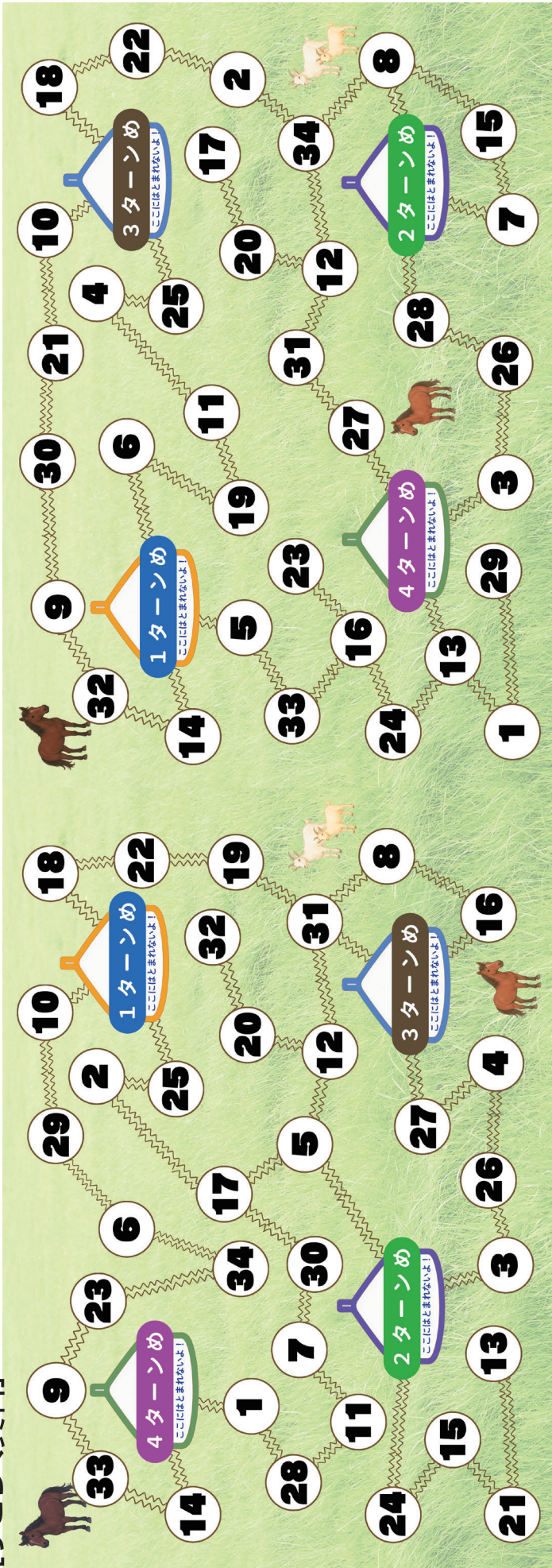
①モンゴルと日本で、にているな、ちがうな、と おもったことは なんですか。

②すごろくをして 見つけた、モンゴルのおもしろいところや すごい!と かんじた ことを かきましょう。

※かきかたの れい：～が おもしろいとおもいました。

～な ところが すごいとおもいました。

[すぐろく資料]



～ルール～

- ・じゅんばんをきめて、1人ずつサイコロをふります。
- ・出た目の かつだけ、「○ターンめ」のところからじゆうにすすみます。
(ターンがおわったら、つぎのターンのばしょへ)
- ・とまったマスのばんごうの ミッションを こえに出して よみます。
- ・クイズ ミッションの こたえは、つぎの じゅんばんの人が よみます。
- ・モンゴルカードを もらえる ミッションが あります。
4ターンめが おわったときに 12まい より おおく 手にいれた グループは、**モンゴル名人**！

グループミッションカード

モンゴルのあそび シャガイ〜

らくだ：小さいゆんの
でこぼこして
いるほう



うま：小さいゆんの
たいらなほう



やぎ：ひろいゆんの
へこんでいるほう



ひつじ：ひろいゆんの
ぶつくりして
いるほう



【うらないでうんだめし☆】

1人1こシャガイをもって、
やさしくころがしましょう。
ぜんいんちがうどうぶつが
出たら、ラッキーさん！

チャンスは、**2ふんかん。**
では、やってみよう！！

12まい〜
モンゴル名人



〜8まい
モンゴルけんきゅう中



〜5まい
モンゴル1年生



グループミッションカード

〜きねんさつえい〜



デール

【デールをきて、きねんさつえい】

マスにとまった人は、「デール」と
ぼうしをみにつけましょう。

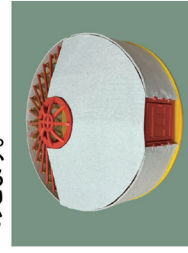
ほかの人は、きるのを手伝いま
しょう。

じゆんびができたら、グループの
みんなで、先生にしゃしんをとって
もらいましょう。

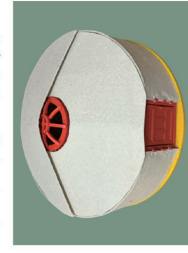
グループミッションカード

〜ゲルのくみだて〜

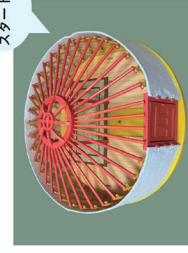
①大きなフエルトをやねに
のせます。



②はんたいがゆわに小さな
フエルトをのせます。



スタート！



③大きなぬのをかぶせます。



④さんかくのぬのを上に
のせます。



⑤かべをひもでぐるっと
まきます。



かんせい！

かんじようミッションカード

～見て、かんがえよう～

【ゲルの中を見てみよう】



タブレットでよみとろう！

モンゴルの草げんでくらす人の
おうち「ゲル」の中を見てみましょう。

どろがを見おわたたら、日本のおうち
とくらべて、「おなじ」とおもったこと
や「ちがう」とおもったことを **1人1こ**
はっぴょうしましょう。！

かんじようミッションカード

～きいてみよう～

【ホーミーと ばとうきん】

モンゴルのとくべつなうたいかた
「ホーミー」は、たかいこえとひくい
こえをいっしょに出します。どちらの
人がうたっているかな？

「ばとうきん」は、どんな昔かな？
耳をすませてみましょう。

どろがを見て、気づいたことを
1人1こはっぴょうしましょう。



タブレットでよみとろう！

やってみようミッションカード

～モンゴルの 文字～

【 こんには 「サインバイノー」 】

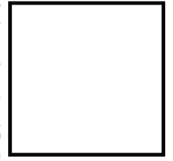
えんぴつでいてねいになぞりましよう。
かけたら、ともだちにチエックして
もらいましよう！

С а й н б а й н а у у

【 ありがとう 「バイルラー」 】

Б а я р л а л а а

ともだちのチエック



[すごろくモンゴルカード]



おしぼり

マシュマロみたい？おみせにいくとこれができます。日本では、タオルのおしぼりがおおいよね。



トイレのゴミばこ

モンゴルでは、トイレにトイレトーパーをながしてはいけません。ふいたら、ゴミばこにいれよう！



しながつきフェア

なつやすみ中の8月、やたいみたいなテントがまちにならびます。ノートやペン、せいふくもうってるよ。



デール

モンゴルの人ができるとくべつなふく。おいしいのときにもきます。ふゆように、わたがはいったのもあるよ。



ウランバートル

モンゴルでいちばん人がおおいまち「ウランバートル」。たかいビルやおみせがたくさんあるよ！



じゅうたい

モンゴルでは車でいどうする人がとってもおおい！あさと夕がたはずっと先まで車がいっぱい。



ハンバーガーやさん

みんなが大きなマックはありません。モンゴルでハンバーガーをたべるなら「バーガーキング」！



山

木がすくないモンゴルの山。リシリの山とはにいてないね。雨がすくないから、木がそだちにくいんだよ。



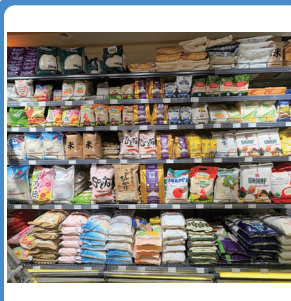
ラーメン

先生がモンゴルでたべたラーメン。めんは、ひらたくて、やわらかい！フォークですくってたべました。



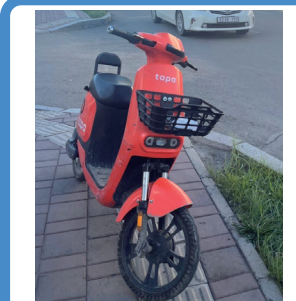
ケンタッキー

モンゴルにもケンタッキーが！しゃんの文字は、「ちゅうもんするばしょ」と、かいてあるよ！



いろいろなくにの…

このたな、ぜんぶおこめ！日本、タイ、ベトナム…いろいろなくにのものがうっています。



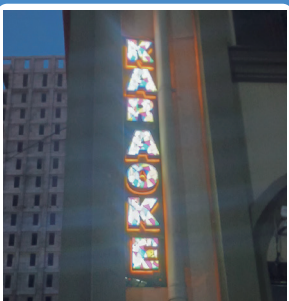
でんどうバイク

いろいろなところにあって、アプリでお金をはらえば、いつでもかりられる。どこでもおいてもいいんだよ！



ホーショール

きじの中にくをぎっしりいれて、あぶらであげてつくります。おいしいの日にもたべるんだって！



カラオケ

まちには、カラオケやさんがいっぱい。モンゴルは、うたうことが好きな人がおおいんだって！



こうこく

バスでこのこうこくが日本の「ブラックサンダー」でした！モンゴルでもにんぎがあるのかな？



コンセント

くによつてかたがちがうんです。このコンセントは、いろいろなかたちのがつなげられるよ！



ひつじのあたま

見た目にびっくり！なんとひつじのあたまもたべれます。むだなくおいしくたべるのはすてきだね！



ふんのねんりょう

うしのうちをかわかしてつくるねんりょう。もやすと、じんわりポカポカあったかい！



やさいジュース

コンビニにいくと、日本のやさいジュースが！あまりやさいをたべないからこれをむのかな？



にく

モンゴルの人は、にくをよくたべます（とくにひつじ）。スーパーにもたくさんうっていたよ！



ウルム

ミルクをゆっくりにつくるよ。バターやクリームのようにほんのりあまい。とろっとおいしい！



アーロール

ミルクからつくります。かたいチーズみたいけど、ヨーグルトみたいであまうっぱいあじ！



ゲル

草げんをいどうしながらくらす人たちのくみ立てられるおうち！かたちも中もとってもかわいい♡



ばとうきん

うまのあたまのかたちをしたゆう名ながつき。とってもきれいでおちつく音がするよ！



チンギス・ハン

モンゴルというくにをつくったすごい人。ジンギスカンの名まえのゆらいは、この人も！？



モンゴルのこっき

あかと青のくにははた。きいろのマークは「ソヨンボ」というモンゴルのむかしの文字なんだよ！



スーテーチャイ

モンゴルのミルクティー。じつは、あまくありません。しおをいれて、すこししょっぱくしてのむよ！



ボーズ

ふだんも、とくべつな日にもたべらるぎょうざみたいなたべもの。おにくがギッシリはっているよ！



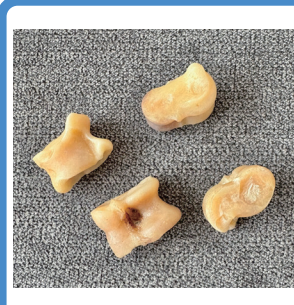
トゥグルグ

モンゴルのお金は7しゅるい。コインはありません。20トゥグルグから20,000トゥグルグまであるよ！



よしのや

日本の牛どんやさん。モンゴルでは「マトンどん」というひつじのおにくのどんぶりも うっているよ！



シャガイ

モンゴルごで、「くるぶしのほね」というみ。うらない、おはじきなど、いろいろなあそびができるよ。

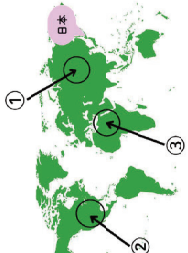


もんのもよう

おうちのもんにもようが。かぞくがしあわせにくらせるように、みたくにもようにいみがこめられています。

[すでろく クイズミツシヨ]


クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルは、どこにあるでしょう？



① ② ③

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルとくっついているくには、いくつあるでしょう？



① 1つ
 ② 2つ
 ③ 3つ

正しいと思ったら、カードを1まいがット！


クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルのくには、日本のなんこぶんの大きさでしょう？



① 2こぶん
 ② 4こぶん
 ③ 6こぶん

正しいと思ったら、カードを1まいがット！


クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルの(こっき)のまん中はなにいろでしょう？



① 白
 ② みどり
 ③ 青

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルでは、ふゆのとでもさむいとき、気おんはなんどくらいになるでしょう？



① -30ど
 ② -10ど
 ③ 0ど

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルのいちばん大きな町のなまえは、なんというでしょう？

① ウランバートル
 ② ソウル
 ③ モスクワ

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルには、いろいろなもようがあります。では、このもようはなんのかたちをあらわしているでしょう？



① 水
 ② 山
 ③ たいよう

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルのお金のなまえはなんというでしょう？



① ルーブル
 ② トクゲルグ
 ③ ドル

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルでたくさんたべられているものは？

① ごはん
 ② スパゲッティ
 ③ にく

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 やさいとひつじのにくと、アツアツの石をいっしょになべにいれてつくるりょうりのなまえは？

① ホルモン
 ② ホルボグ
 ③ ホーシヨール

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルでは、日本のみそするように、ごほんのときにミルクテイ「スーテーツアイ」をのみます。では、どんなあじがするでしょう？

① すごくあまい
 ② ちよつとしよっぱい
 ③ ちよつとにがい

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルでぶだんからよくたべられているこのたべものなまえは？



① ショーロンポー
 ② ポーズ
 ③ キョウザ

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルのマラソンたいかいでは、ゆうしようすると、あるものがもらえます。さて、それはなんでしょう？

① うま
 ② テレビ
 ③ お金

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 大きなおまつり「ナーダム」では、3つのまようぎをしてもらがあります。では、その3つのまようぎにあらのは、どれでしょう？

① しやてき
 ② バスケ
 ③ すもう

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルのゆうなながつき「はとうきん」は、あるどうぶつのあたまのかたちをしています。さて、そのどうぶつは？

① やぎ
 ② ひつじ
 ③ うま

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 どうぶつの足のほねでつくられたモンゴルのおもちやのなまえはなんでしょう？

① バクタ・ケンチ
 ② シヤガイ
 ③ プラダ

正しいと思ったら、カードを1まいがット！


クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルの草げんでくらす人たちがすむおうちのことを「バオ」といいます。では、それはなんでしょう？



○か、×か？

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ
 ~3たぐクイズ~
 モンゴルには、うみがない。では、それはなんでしょう？



○か、×か？

正しいと思ったら、カードを1まいがット！

クイズミツシヨ

～Xクイズ～
モンゴルの草げんには、うまやひつじがたくさんいる。
○か、×か？



クイズミツシヨ

～Xクイズ～
モンゴルの子どもたちは、小学校に6年かよう。
○か、×か？

クイズミツシヨ

～Xクイズ～
草げんでくらす人がすむおうち「ゲル」は、かたづけてほかのところに はこぶことができる。
○か、×か。

クイズミツシヨ

～Xクイズ～
モンゴルでは、おうちの中を はだしですごす。
○か、×か。

クイズミツシヨ

～Xクイズ～
日本のアニメやまんがには、モンゴルの 子どもたちにも人気がある。
○か、×か。

クイズミツシヨ

～Xクイズ～
モンゴルでは、生まれてから3さいくらいまで、かみのけをきらない。
○か、×か。

かんじようミツシヨ

～見て、かんがえよう～
ゲルの中は、どうなっているのかな？日本の おうちとくらべながら見てみよう！

※【見て、かんがえよう】のミツシヨンカードをもってきましょう。

かんじようミツシヨ

～きいてみよう～
モンゴルのとくべつなうたこえ「ホーミー」や、がっき「ばとうきん」の音をきいてみよう！

※【きいてみよう】のミツシヨンカードをもってきましょう。

やってみようミツシヨ

～モンゴルのあいさつ～
モンゴルであいさつをしてみよう！
れんしゅうしたら、先生にあいさつしにいこう！

こんには
→「サインバイノー」
ありがとう
→「バイルツラー」

やってみようミツシヨ

～モンゴルの文字～
モンゴルのキリル文字で「こんにちは」「ありがとう」をかいてみよう！

※【モンゴルの文字】のミツシヨンカードをもってきましょう。

グループミツシヨ

～モンゴルのあそび～
どうぶつのおもちゃのほねをつかっただ「シャガイ」であそんでみよう！

※【モンゴルのあそび】のセットをもってきましょう。ミツシヨンカードをみんなで見よう。

グループミツシヨ

～きねんざつえい～
モンゴルのとくべつなふく「テール」やぼうしをかぶってきねんしゃしんをとろう！

※【きねんざつえい】のセットをもってきましょう。ミツシヨンカードをみんなで見よう。


グループミツシヨ

～ゲルのくみだて～
モンゴルの草げんでくらす人たちがすんでいる「ゲル」を3ふんいないにくみだてよう！

※【ゲルのくみだて】セットをもってきましょう。ミツシヨンカードを見て、みんなできょうりよくしてとりくみましょう。

1かい 休み

～じゅうたい～
モンゴルのウランバートルには、たくさんのお客さんがいてどうろは車でいっぱい。
ぜんぜんすすまないで、このマスにとまった人は、**つぎのターンお休み**。



1かい 休み

～モンゴリより～
おにくをつかったおいしいりょうりがいっぱい！
たべすぎちゃって、おなかパンパンでうごけません…。
というわけで、このマスにとまった人は、**つぎのターンお休み**。

くにおまつり

～なつのおまつりナードム～
モンゴルの大きなおまつり「ナードム」
すもうやうまのレースをしたり、ごちそうをたべたりしてみんなであそびます。
とってもおめでたいので、**モンゴルカード2まいゲット!**

[すでろく クイズミSSION こたえ]

クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...①

日本から、ひこうきにのって6じかんくらいでつきます。ちなみに、②はアメリカ、③はエジプトでした!




クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② 2つ

モンゴルとくっついているのは、ロシアとちゅうごくの2つのにです。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② 4 こぶん

日本とくらべて、とってもひろいんだね。ちなみに、りしりとうなら8546こぶんの大きなさなだって!



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...③ 青

青は、モンゴルの人たちがたいせつにしている「空」のいみがあるんだよ。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...① - 30 じ

りしりでは、さむいときでも-10じくらい。というこは、モンゴルは、ものすご〜くさむいんだね。


クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...① ウランバートル

ウランバートルは、たかいビルもおみせもいっぱい! たくさんの人がここくらしてあるんだよ。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...① 水のもよう

ほかに、いろいろなものがあるんだよ。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② トロワグルブ

日本より、おさつのしゆるいがおおいんだね。チンギス・ハンのかがかいてあるんだよ。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...③ にく

モンゴルには、おいしいにくりょうりがいっぱい! さむいふゆをのりこえるために、おにくをたべてエネルギーをたくわえるよ。

ちなみに、ごははあまりたへないよ。ふじもりせんはいは、ちよつがゆでい。

クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② ホルホグ

ひつじ1きぜんぶつかつてつくこともあるんだって。すごりょうりだね!




クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② ちよつばい

びっくり! ミルクティーなのに、ちよつとちよつばいんです! しおをいれてつくるんだよ。

クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② ポーズ

見た目は、日本のにくまんやぎよざみたい。中ににくがたつぷりはいているよ。おいゆいときにもたべるんだって。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...① うま

ゆうしようしたら、うま?! ラクダをもちえたとときもあつたみたい。モンゴルすごいでい。

クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...③ すもう

「すもう」といっても、日本とはちがう「モンゴルすもう」をするんだよ。けいば(うまのレース)とゆみの3つで大もりあがり!



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...③ うま

よみきかせしてもらったえ本「スーホの白いうま」にも出てきたね。

クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...② シヤガイ

シヤガイは、「どうぶつのはな」といふいみ。おはじきみたいにして、うらないをしたりしてあそぶんだよ。

クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...X

ハオではなく、「ゲル」という名まえだよ。1つのゲルに、8人くらいでくらするんだって。



クイズミSSION
 ~3たぐクイズ~
 こたえは...O

モンゴルは、ちゅうごくとロシアにかこまれているから、うみはない! 日本やりしりとは、ぜんぜんちがうね。

クイズミッション
 ~○×クイズ~
 こたえは…○

モンゴルの草げんにいくと、うま・ひつじ・やぎ・らくだをたくさん見れるよ。



クイズミッション
 ~○×クイズ~
 こたえは…×

日本は、小学校に6年かようけど、モンゴルでは、5年。ちなみに、中学校には4年かようんだって。

クイズミッション
 ~○×クイズ~
 こたえは…○

ガルでくらす人たちは、うまやひつじがたべる草があるところをいどうしながらくらししているよ。

クイズミッション
 ~○×クイズ~
 こたえは…×

モンゴルだけじゃなく、いえの中ではくつをぬかないくはたくさんあるよ。

クイズミッション
 ~○×クイズ~
 こたえは…○

モンゴルでも、日本のアニメやまんがは大人にんぎょ！モンゴルのまんがよりもすきらしいよ。



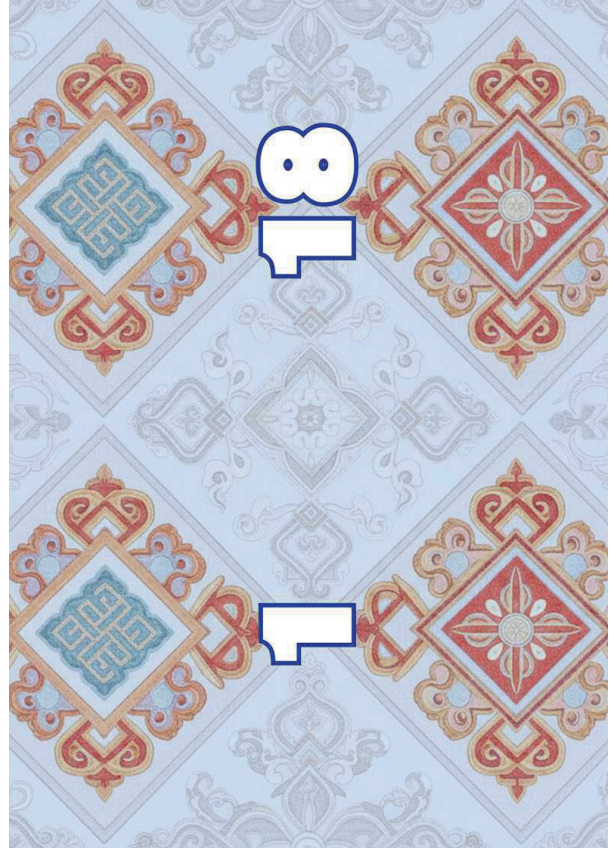
クイズミッション
 ~○×クイズ~
 こたえは…○

「けんこうにそだつよう」にというわかいをこめて、きらいでのぼしておくよ。

[モンゴルカード 裏面]



[クイズミッション 裏面]



～ルール～

たくさんあつめて、どうぶつ王を 目指そう！

- ①じゅんばんを きめて、1人ずつ サイコロをふります。
- ②出た目の かずだけ、「○ターンめ」の ところから
じゆうに すすみませう。
(ターンが おわったら、つぎの ターンの ばしょへ)
- ③マスの ばんごうと おなじ すう字の カードを ゲット！
※カードをよく見て かいてある とおりに しましよ。
- ④4ターン おわったとき、どうぶつ (🐾🐔🐄🐷) を
1ばん もっていた 人は、それぞれ 王カードを ゲット！
- ⑤もっている どうぶつの カードが 1ばん おおい人が
どうぶつ王 です☆



ラクダ

さばくでも、とおくまでにもつを
はこぶことができます。たよりに
なるどうぶつです。



ラクダ

さばくのところでは、にくにして
たべることもあります。ミルクも
えいよう たっぶり なんだって。



ヒツジ

にくやミルク、けをくれるモンゴル
でいちばん みぢかな どうぶつ。
フェルトやふくにもつかわれる。



ヒツジ

あたまからかわやほねまで、食べ
たりふくやどうぐにしたりして
つかわれます。大がつかやく！



ウマ

モンゴルのたいせつなどうぶつ。
じてん車よりもウマにのるほうが
かんたん！という子もいたよ。



ウマ

ミルクでつくるばにゆうしゅは、
すごく すっぱい おさけ。子どもも
のめて、からだにいいんだよ。



ウシ

ウシのなかま「ヤク」は、たかい山
でくらしています。けはあたたかく
くつ下にもつかわれるよ。



ウシ

ミルクからバターやチーズをつく
れて、にもつもはこぶ力もち！
つがあるウシがおおい。



ナーダム
なつにあるモンゴルでいちばんのおまつり。このカードをひいた人はどうぶつカードを2まいもらえる。



ナーダム
なつにあるモンゴルでいちばんのおまつり。このカードをひいた人はどうぶつカードを2まいもらえる。



ゾド
-30度をこえるさむさでどうぶつたちにひがいが…。みんな、手ふだのどうぶつカードを1まいする。



じゅうたい
ウランバートルは、車がおおすぎてどろろは大じゅうたい！これをひいた人は、このターンにももらえない。



ナーダム
なつにあるモンゴルでいちばんのおまつり。このカードをひいた人はどうぶつカードを2まいもらえる。



ナーダム
なつにあるモンゴルでいちばんのおまつり。このカードをひいた人はどうぶつカードを2まいもらえる。




ヒツジの だっそう
いったいどこへ？ヒツジをさがしにいかないと！これをひいた人は、つぎのターン1かい休み。



デール
モンゴルのとくべつなふく。このカードをひいた人は、右の人からすきなどうぶつカードを1まいもらえる。



ヤギ
やわらかいけ(カシミヤ)は、かなくてチクチクしないので、セーターやマフラーにぴったり！



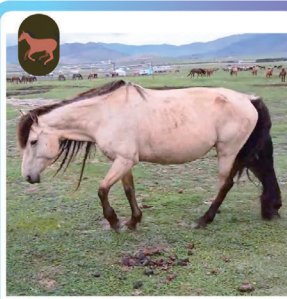
草げん
とおくまでつづくひろい草げん。このカードが出たら、みんなどうぶつカードを1まいもらえる。



ゲル
草げんでくらすためのおうち。このカードをもっていれば、ハブニングをふせげる。



ゲル
草げんでくらすためのおうち。このカードをもっていれば、ハブニングをふせげる。



ウマ
ミルクでつくるばにゅうしゅは、すごくすっぱいおさけ。子どももめて、からだにいいんだよ。



モンゴル文字
むかしのモンゴルの文字。このカードをひいた人は、右の人からすきなどうぶつカードを1まいもらえる。



ホーミー
モンゴルのとくべつなうたいかた。このカードをひいた人は、左の人からすきなどうぶつカードを1まいもらえる。



ばとうきん
スーホの白いうまに出てきたね。このカードをひいた人は、左の人からすきなどうぶつカードを1まいもらえる。



ヤギ
やわらかいけ(カシミヤ)は、
かかてチクチクしないので、
セーターやマフラーにびったり!



ヤギ王
ヤギのカードを 1ばん おおく
あつめた あなた!おめでとう。
あなたは、ヤギ王です✦



ウマ王
ウマのカードを 1ばん おおく
あつめた あなた!おめでとう。
あなたは、ウマ王です✦



ウシ王
ウシのカードを 1ばん おおく
あつめた あなた!おめでとう。
あなたは、ウシ王です✦



ウマ
ミルクでつくるばにゅうしゅは、
すこくすっぱいおさけ。子どもも
のめて、からだにいいんだよ。



ラクダ
さばくのところでは、にくにして
たべることもあります。ミルクも
えいようたっぶりなんだって。

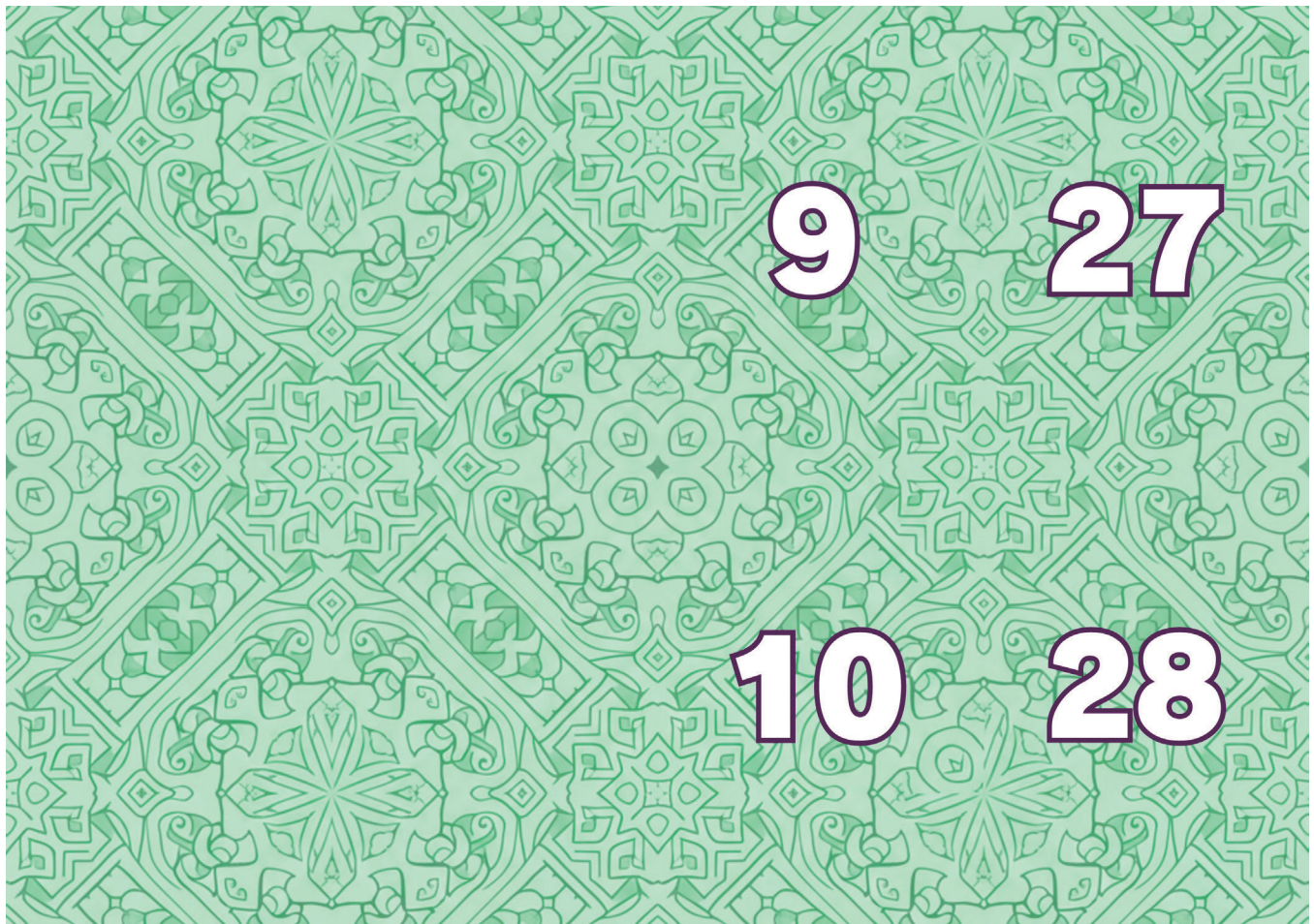


ヒツジ王
ヒツジのカードを 1ばん おおく
あつめた あなた!おめでとう。
あなたは、ヒツジ王です✦



ラクダ王
ラクダのカードを 1ばん おおく
あつめた あなた!おめでとう。
あなたは、ラクダ王です✦

[カードの裏面]



すごろく別バージョン どうぶつあつめ

～ルール～

たくさんあつめて、どうぶつ王を 目指そう！

- ①じゅんばんを きめて、1人ずつ サイコロをふります。
- ②出た目の かずだけ、「〇ターンめ」のところから じゆうに すすみませう。
(ターンがおわったら、つぎのターンの ばしょへ)
- ③マスの ばんごうとおなじ すう字の カードを ゲット！
※カードをよく見て かいてある とおりに しましよ。
- ④4ターン おわったとき、どうぶつ (🐐🐎🐄🐪) を 1ばん もっていた 人は、それぞれ 王カードを ゲット！
- ⑤もっている どうぶつの カードが 1ばん おおい人が どうぶつ王 です☆



どうぶつあつめの

PDFは はこちら！

- ※両面印刷用の用紙で印刷（短辺とし）するのがおすすめです！
- ※数字つきの動物カードは、2枚ずつあるといいかもしれません。



藤森 菜月 教諭

展示用ゲーム モンゴルポーカー



モンゴルポーカーの

PDFは はこちら！

- ※両面印刷用の用紙で印刷するのがおすすめです！
- ※低学年向け、高学年以上向けの2種類



わたしの一枚



モンゴルの青と緑

写真を撮った場所：MON-SHEP 農家圃場^ほ

空の美しい青、足元から遠く先まで広がる緑。空はとても近くに感じられて、山は低く見えた。北海道と似ているけれど、ちょっと違った。日差しが強く、肌にもジリジリと伝わってきて少し痛かった。でも、ジメジメではなく、すごくカラッとしていた。苦手な夏なのに気持ちよかった。高畝(たかうね)にしたところではなく、雨が少ない気候に合わせて畔のところに植えられた野菜。日本で見るのとは、葉の大きさが違った。

写真や動画を見ただけでは気づけないことがたくさんあった。直接見て、聞いて、感じてくるのがどれだけ大切なのかを知ることがで

氏名：藤森 菜月

学校名：利尻富士町立鴛泊小学校



氏名	本間 千尋	関連するSDGs 11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES 15 LIFE ON LAND
学校名	釧路市立鳥取小学校	
学年	第4学年(22人)	
実施教科 (領域)	総合・音楽科・社会科	

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：	文化が消える？未来をつくるのは、私たち
2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルや釧路地域の文化にふれ、地域や伝統の文化が失われつつある現状を実感的に理解し、その価値を見つめ直す。 ・自分たちの地域に残された文化の価値を調べ、その意義や残し方を考え、未来に向けて文化を大切にしようとする態度を育てる。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	モンゴルの自然や伝統文化を知り、文化があることで世界が多様で豊かになることに気づいている。
	②思考力、判断力、表現力	自分の好きなモンゴルの文化や残したい文化について、理由をもって説明している。文化がなくなることの寂しさや文化の価値について自分なりに考え表現している。
	③主体的に学習に取り組む態度	モンゴルの文化に関心をもち、文化を大切にしたいという思いをもって学習している。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>本校では、運動会において4年生以上の児童が鳥取かさ踊りを披露している。釧路鳥取かさ保存会の方が学校に来て直接指導して下さることもあり、児童は地域の伝統文化に触れる機会を得ている。しかし、踊りの型や動きを習得することが中心となり、その背景にある人々の願いや文化を受け継ぐ意義にまで考えを深める場面は少ない。</p> <p>一方で釧路にはアイヌ文化も受け継がれているが、児童が直接触れる機会は限られており、その価値に気づく機会は十分でない。鳥取かさ踊りやアイヌ文化はいずれも自然と共に生きる中で生まれ、人々の暮らしや願いが込められてきた文化である。さらに、モンゴルにおいても、遊牧生活から独自の文化が生まれ、継承の難しさに直面している現状がある。こうした事実に触れることは、児童にとって「地域で受け継がれたものの意味」や「自分たちの文化をどう守り、次の世代につなげていくか」を考える手がかりとなると思う。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>本単元では、まず、モンゴル体験やクイズ、モンゴルと日本(釧路)の写真を比較することで、モンゴルという国について知り、興味をもたせる。次に、釧路の伝統文化(アイヌ舞踊)と、モンゴルの伝統文化(モンゴル舞踊)を比較することで、文化は地域ごとに多様で</p>	

	<p>あるが、その中でも似ているところや共通する部分があることへの気づきを促す。さらに、シュミレーションカードゲームを通して、モンゴルの文化がなくなる状況を疑似体験させ、文化が失われることの寂しさを感情的に理解させる。これによって、文化は人々の努力がなければ、自然と消滅していくということに気づかせる。その後、釧路の伝統文化、特に、アイヌ舞踊や釧路鳥取かき踊りがどのように守られ、伝えられてきたのかを調べる活動へとつなぎ、自分たちが未来に残したい文化やそのためにできることを考え、表現することで、地域や世界の文化を大切にす態度を育成する。</p> <p>【児童／生徒観】</p> <p>児童は地域の行事や踊りに親しみをもって取り組み、体を動かしたり表現したりすることを楽しんでいる。一方で、伝統文化の意味や背景にある人々の思いを自ら考えようとする姿はまだ十分には見られない。</p> <p>国際理解教育については、外国語活動を通して他国の挨拶や文化に触れる機会はこれまでもあったものの、異なる文化の多様性や魅力に主体的に関心をもつまでには至っていない。そのため、多文化に対する興味、関心をさらに高め、世界の文化と自分たちの生活や地域と結びつけて捉えられるようにしていきたい。</p> <p>【指導観】</p> <p>子どもたちが「文化は大事だから残さなければならない」という義務感ではなく、「文化があると嬉しい」「残したい」という気持ちをもてるようにすることを大切にす。文化が失われることの悲しさや、その文化が人にもたらしてきた価値を擬似的に体験することで、消えゆく文化への共感を通して、その感情を揺さぶり、自分事として考えるきっかけをつくる。</p> <p>また、モンゴルの文化と釧路・鳥取地区の文化を並べて扱うことで、モンゴルのよさを知るだけでなく、自分たちの地域にも誇るべき文化があることに気づかせる。学びを広げながらも、最後は「自分はどうしたいか」に立ち返らせ、子どもが主体的に意見をもったり、行動したりできるようにする。</p>
--	---

5. 単元計画 (全 14 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	○モンゴルという国について知り、興味をもつ①(総合)	モンゴルについてのクイズや釧路とモンゴルの写真から、釧路と同じところ、違うところを見つける活動を通して、モンゴルを身近に感じ関心をもつ。	・日本、モンゴルで撮影した写真
2	○モンゴルという国について知り、興味をもつ②(総合)	・モンゴルの文化体験を行う。 【・ゲルの組み立て ・スーテーツァイの試飲 ・民族衣装を着る体験 ・馬頭琴体験】	・ゲル制作キット ・スーテーツァイ ・モンゴル民族衣装 ・馬頭琴
3	○モンゴルという国について知り、興味をもつ③	・現代的なダンスと比較し、モンゴルの民族舞踊にはどのような願いがこめ	・モンゴル舞踊のDVD

4	(音楽科 鑑賞) ○モンゴルの好きなおところを紹介し合おう！(総合)	られているのかを考える。 ・モンゴルの好きなおところランキングを理由をもって、友達と紹介し合う。	・「モンゴルカラフル大作戦ゲーム」用の自然文化カード
5 (本時)	○文化がなくなるとどうなるの？(総合)	・「色のある世界(様々な伝統文化がある)→色のない世界」の疑似体験を通して、文化が失われる寂しさや息苦しさを体感する。	・「モンゴルカラフル大作戦ゲーム」
6~7	○地域で受け継がれてきたものについて、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承などに着目して学習課題と計画をたてる。(社会科)	・前時で行った「モンゴルカラフル大作戦ゲーム」の復習を行い、文化は何もしなければ簡単になくなってしまうということ、文化がなくなるとどんな世界になるのかを確認する。 ・モンゴルだけではなく、私たちの地域にも伝統文化があるということに目を向け、疑問をもち、学習課題をたてる。	
8~12	○アイヌ古式舞踊や釧路鳥取かさ踊りについて調べ、なぜ長く続いてきたのかについて考え、まとめる。(社会科)	・アイヌ古式舞踊や釧路鳥取かさ踊りについて調べ、始まりや伝統を受け継いでいる人たちの思い、守り伝えたり、さらに広めたりするためにどのようなことをしているのかまとめる。	
13~14	○伝統文化のよさや、未来に残したい理由について、自分の思いを言葉や絵で伝える。(社会科)	・「100年後の子どもたちに伝えたい自分たちの伝統」を手紙や絵で表現し、掲示する。	

6. 本時の展開 (5/14)

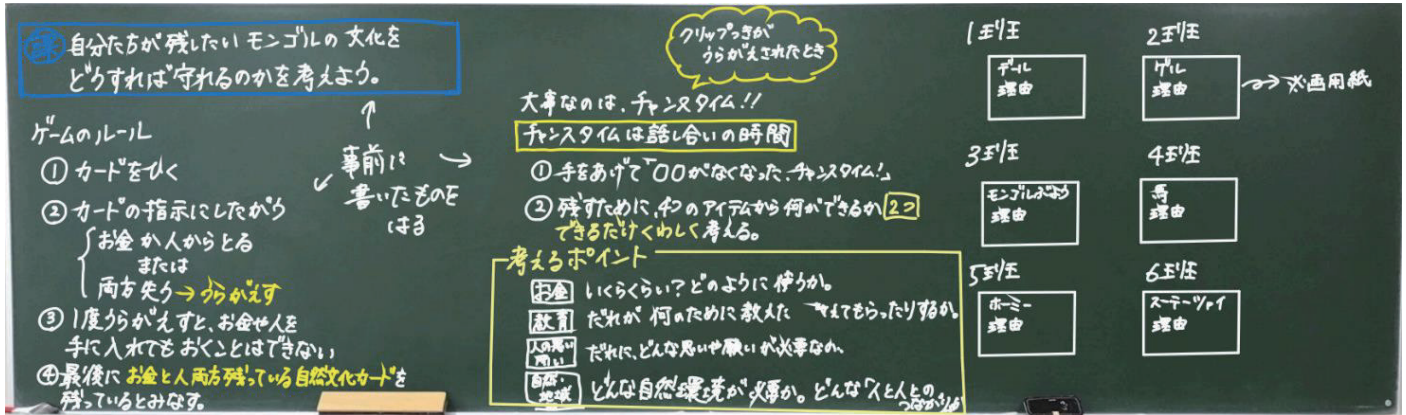
本時のねらい：文化が失われる体験を擬似的に味わい、文化がなくなることの寂しさや文化の価値について考え、文化があることで、世界には多様な価値があることに気づく。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(7分)	○前時までの確認 「これまでモンゴルのいろんな文化を知ってきました。どんなものが印象に残っていますか。」 「この前の授業では、自分のモンゴルの好きなおところランキングを作って発表しました。また、グループとしても、モンゴルで特に残したいものを6~8つ、理由と共に選んでもらいました。ロイロノートを見て、確認してみましょう。」	写真などを提示しながら、簡単に前時の復習を行う。 ・1つのグループあたり3~4人を想定(6グループ)	・スライド ・ロイロノート

	<p>「今日は前回、みんなが作ってくれたランキングを使いながら、モンゴルカラフル大作戦ゲームをしたいと思います。」</p> <p>○カードの配布と準備</p> <p>①モンゴルの自然文化カードを配り、モンゴルの地図の上に色が合うように並べる。</p> <p>②グループとして、特に残したいもの6～8つにクリップをつけて印をつける。</p> <p>③お金カードと人カードをモンゴルの自然文化カード上に置く。</p> <p>○課題提示</p> <p>「今ここにはたくさんの自然や文化があつてとてもカラフルなモンゴルです。しかし、今、モンゴルでは、首都「ウランバートル」に人口の半分が暮らすことで、都会と広い田舎とで、生活の差が生まれ、様々な問題がおきてしまってます。このままいくとどうなってしまうのでしょうか。みんなのモンゴルの好きな自然や文化を残すためには、どうすればよいのでしょうか。」</p>	<p>・前時に一通り目を通し、個人でモンゴルの好きなところランキングと、グループとしてモンゴルに残したいもの6～8つを決めている。</p> <p>・モンゴルの地図の首都を指し、広大な土地との比較をすぐに可視化できるように提示する。</p>	<p>・カードゲーム用資料</p> <p>・モンゴルの地図</p>
	<p>自分たちが残したいモンゴルの文化をどうすれば残せるのかを考えよう。</p>		<p>※板書を参照</p>
<p>説明 (5分)</p>	<p>○モンゴルカラフル大作戦ゲームの説明</p> <p>「これから、モンゴルカラフル大作戦ゲームをします。できるだけたくさん自分たちが残したい自然文化カードを残せるように頑張ってください。」</p>	<p>・子どもたちを集め、実際にやって見せながら、ルールを説明する。</p>	<p>・ルール説明用資料</p>
<p>展開 (24分)</p>	<p>○モンゴルカラフル大作戦ゲームの実施</p> <p>①最終的に、お金カード・人カードの両方が置いてある自然文化カードは残っていると判断される。</p> <p>※どちらか一方しかない場合は自然文化カードが残っていることにならない。</p> <p>②「何が起こるかなカード」をひき、書かれていることをする。お金・人カードの両方がなくなったときは、カードをひっくり返し、お金・人カードを置いて復活させることはできない。</p> <p>③クリップ付きのカードで、お金・人カードの両方が失われたときは、裏返し、チャンスタイムとなる。チャンスタイムになった際には「〇〇がなくなった！チャンスタイム！」と手を上げながら言う。</p> <p>④チャンスタイムでは、裏返されたカードを残すために何が必要かを「・お金・教育・人の思いや願い・自然環境や地域とのつながり」という4つの観点から、話し合う時</p>	<p>・できるだけ、詳しく理由を説明することをゲームのルールとする。</p> <p>・観点を考えるポイ</p>	

<p>まとめ (10分)</p>	<p>間をとる。残すために、4つの観点から2つ選択し、それがなぜ必要なのかそれぞれの理由をできるだけ詳しく考えさせる。考えることができれば、文化を復活させることができる。</p> <p>⑤全部で12回程度行う。</p> <p>～実施後～</p> <p>①お金カードと人カードがどちらか一つでもない自然文化カードはひっくり返す。</p> <p>②「自分たちが残したかった文化は何枚残りましたか?」「このゲームをやってみて、どのような気持ちになりましたか?それはなぜですか?」(振り返りシート①②記入)</p> <p>③文化が消えないようにするために子ども達が考えた例を黒板に提示する。 「こんな風にみんなが真剣に考えてくれたから、実際にも全て残っていけばいいですね」</p> <p>④「でも、このゲームには続きがあります。このようにやっばり消えます。消え続けます。どんな気持ちでしょうか。」 関連してなくなる可能性があるものがあれば裏返す。 ※例えば、馬カードがなければ、競馬カードも裏返すなど。</p> <p>⑤「今回は、みんながどうしたら残せるかを考えることで、残したい文化を残すことができたけど、何も資金援助や対策をせず、文化を残そうとする人がいなかったら?」 →全ての自然文化カードをひっくり返す。</p> <p>⑥「極端な例ですが、デールがなくなると、何を着るようになるのでしょうか。食べ物も、ファストフードになってしまいます。伝統舞踊がなくなると、代わりにみんなどんなダンスをするようになるのでしょうか?では、モンゴル文字がなくなると?」「では、アイヌ舞踊やかき踊りは?」</p> <p>○振り返り 「振り返りを記入します。」 (振り返りシート③の記入) 「紙を回収してシャッフルし、全員で読み回します。」</p>	<p>ントを黒板に提示する。※黒板参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンスタイムでは、子どもたちが考えたそれぞれの理由を後に黒板に提示するために、教師が画用紙に書き留めておく。 ・ゲーム中に、画用紙に書いておいたものを使用。 ・子どもを指名し、尋ねる ・関連するカード同士はテレビに提示する。 ・イメージ図をテレビに提示する。 【・デール→ファストファッション ・食べ物→ファストフード ・伝統舞踊→K-POPのダンス ・モンゴル文字→キリル文字 →アルファベット】 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・振り返りシート
<p>7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの文化が失われる体験を擬似的に味わうことで、文化がなくなることの寂しさや文化の価値について考え、表現しているか。（記述） ・どうすれば、文化を残すことができるのかについて、考えているか。（観察） 			

※板書 指導案の参照



【参考資料】

資料および外部との連携

- ・「開発教育実践ハンドブック」DEAR 開発教育協会
- ・「新・貿易ゲーム【改訂版】」DEAR 開発教育協会
- ・JICA 過去の実践資料集 <https://www.jica.go.jp/cooperation/learn/case/index.html>
- ・JICA 海外での取り組み モンゴル <https://www.jica.go.jp/overseas/mongolia/index.html>
- ・JICA 技能実習生 オドノー氏，アルタ氏から写真提供
- ・「問いづくりと探求授業」佐藤陽平
- ・「社会科『自己調整学習』学び方を生かした単元デザイン」加藤達也

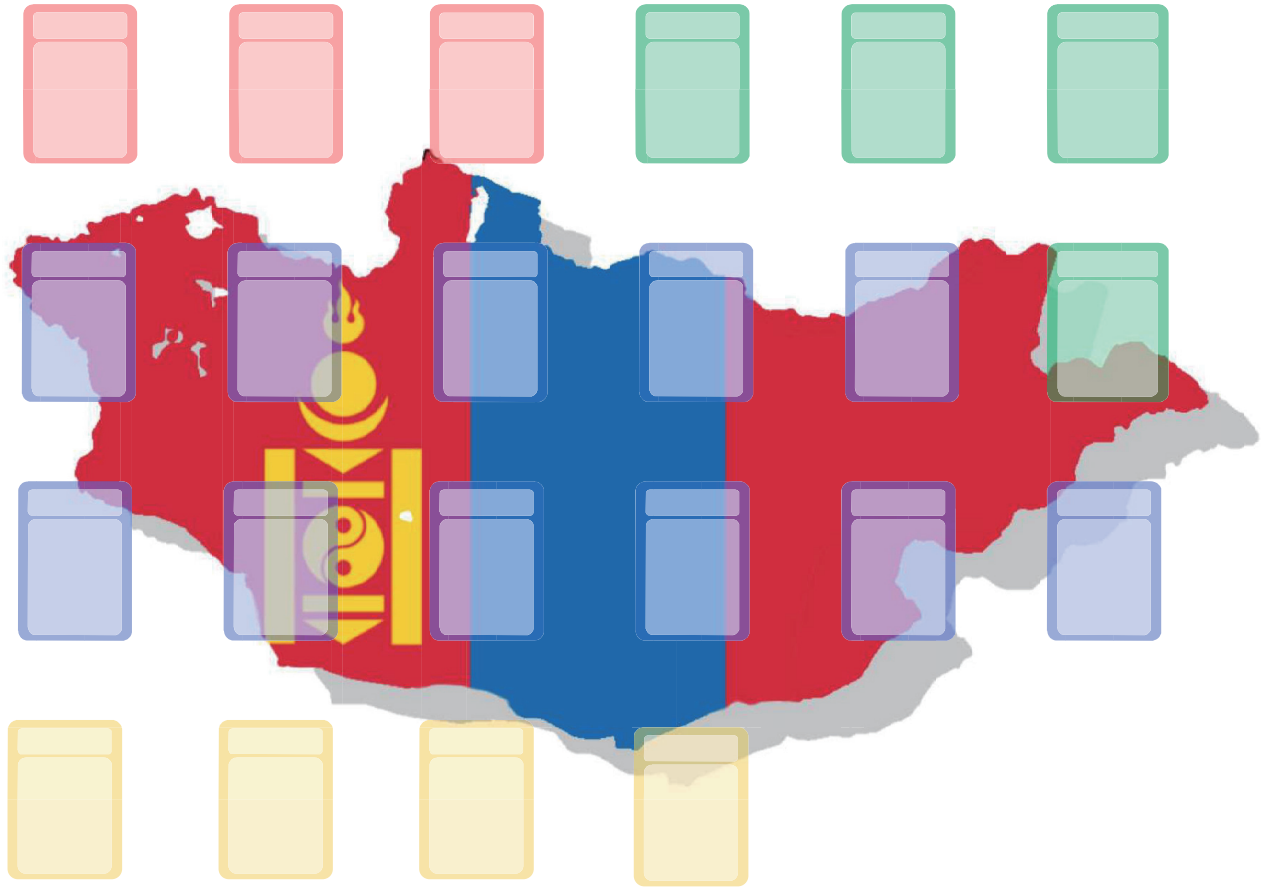
【自己評価】

<p>苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの残したい文化への“思い”を事前にどれだけ高められるかという点に苦勞した。自分事として子どもたちがゲームに参加するために、前時の段階までに「この文化は残したい」と強く感じられる程度まで、モンゴルの文化との距離を縮めることに時間を要した。 ・モンゴルの文化が失われていくことを「シミュレーション」という形で体験的に学ばせるために、カードを使ったゲーム性のある活動を取り入れた。ゲーム性を高めると文化の価値や背景に目が向きにくくなる一方、ゲーム性を弱めすぎると子どもたちの参加意欲やドキドキ感が薄れてしまうのではないかというジレンマがあった。この二つのバランスをどこに置くのか、設計段階で特に悩んだ。
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・“チャンスタイム”では、子どもが発言した「残すために何が必要か」の意見を、各グループで記録させるとゲームの流れが止まってしまうため、発話のみにし、教師が記録する方法を取った

	<p>が、できるだけ子どもたちの声を拾い、本時のまとめで十分に還元することができたかは、改善の余地がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンスタイムでは、裏返されたカードを残すために何が必要かを「お金 / 教育 / 人の思いや願い / 自然環境や地域とのつながり」という4つの観点から、話し合う時間をとったが、「地域とのつながり」の観点で考えている子どもがいなかった。子どもたちにとって、「地域とのつながり」は抽象的で、具体的な場面と結びつきにくかったと考えられる。そのため、「自然環境や地域とのつながり」とするのではなく、よりシンプルに「自然環境」とする方がよいのではないかという助言をいただいた。
<p>成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化カードが裏返り消えた際には、失われた文化を見て、頭を抱えたり、悲鳴を上げたりしている子どもたちの姿があった。これは、単なるゲームの結果ではなく、自分たちが選んだ文化を守りたいと感じていたからこそ、消えたことに対して心から悲しい、寂しいといった感情が生まれていたと感じる。モンゴルの文化を「自分事」として捉える姿が見られ、授業のねらいとしていた情意面の学びが表れていた。 ・チャンスタイムの場面では、「絶対にこの文化を残したい！」「復活させよう！」と、自分たちが守りたい文化に対して前向きな意欲が生まれ、それぞれの文化の特徴を踏まえて、具体的な意見を出す様子があった。特に印象的だったのは、すでに復活済みの自然文化カードについても、「さっき、〇〇がなくなったときは、～と考えたよ。」と、グループごとに周っている私に必死に伝えてくれた子どもの姿である。これらの姿から、文化は自動的に失ったり、続いたりするのではなく、自分たちが力を合わせ、工夫し、支えていくことで守られていくものだという気づきが、子どもたちの中に確かに生まれていたことがうかがえた。
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<p>【振り返りシートより】</p> <p>〈このゲームをやってみて、どのような気持ちになりましたか？それはなぜですか？〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんどんカードがなくなっていくにつれて悲しくなった。 ・結構残せると思っていたけれど、意外と残せなかった。ラクダレースもラクダも、馬も競馬も残せなかった。 ・あっという間になくなった。 ・残したいと書いてあるクリップのものをすべて残せて良かった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの文化がなくなったら悲しかった。モンゴルの文化がなくなるとき、みんなと話して復活させたので楽しかった。 (このゲームをして、学んだことを書きましょう。) ・モンゴルの物は全て大切に、1つでもなくなると、次々といろいろな物が失われるということが分かった。 ・このままじゃ危ないと思った。スーテーツアイは最初は味で決めていたけれど、スーテーツアイだけでも残したいと思った。 ・モンゴルの文化を復活させるためには、たくさんのお金や人の協力が必要であると学んだ。 ・どんな文化も残すのが大変だと分かった。日本文化も今後なくなるかもしれないことを考えたら、日本の文化も大切にしようと思った。
<p>授業者による自由記述</p>	<p>・今回の授業では、モンゴルの文化が失われていく様子を体験的に味わわせることで、文化には“支える人”や“つなぐ思い”が必要であることに気づいてほしいと考えた。文化カードが消えるたびに本気で悔しがったり、復活させようと声を上げたりする姿から、子どもたちの中に「文化を守りたい」という気持ちが芽生えていることを感じた。私が今いる学校には、アイヌ文化や鳥取かさ踊りといった大切な伝統がある。モンゴルの文化、つまり異なる文化がある世界の面白さを学んだからこそ、「自分たちの地域にも受け継がれてきた文化があるんだ」と気づき、自分の地域の文化ももっと好きになってほしい。この学びが、地域を誇りに思う心や多様な文化を大切にする心へとつながればいいなと思っている。</p>
<p>次年度以降の取組予定</p>	<p>・今回の授業公開でいただいたアドバイスをもとに、教材をよりブラッシュアップさせていきたい。また、今回は4年生社会「地域で受け継がれてきたもの」という単元へつなげたが、文化、伝統を扱う内容であれば、他学年、他教科でも応用できると感じた。今後は学年や教科の枠を越えて活用できる学習へと広げていきたい。</p>

[モンゴルの地図]カード置き場



[自然文化カード]

<p>モンゴル舞踊 ぶよう</p>  <p>動物や草原を表現するおどり。 そうげん</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>	<p>ばとうきん</p>  <p>モンゴルの でんどうき 伝統的な楽器。</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>	<p>デール</p>  <p>モンゴルの でんどうき 伝統的な服。 馬に乗りやすいように作られている。</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>	<p>ゲル</p>  <p>遊ぼく民の家。 い動のたびに組み立て直す。</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>
<p>アーロール</p>  <p>少しすっぱく、かたいチーズ。 ほぞんしやすい。</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>	<p>ホーミー</p>  <p>自然や風の音をまねたように 聞こえる伝統的な歌い方。 でんどうき</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>	<p>けい馬</p>  <p>子どもが馬にのって走る 人気きょうぎ。</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>	<p>モンゴル相撲 ずもう</p>  <p>モンゴルに古くから伝わる きょうぎ。日本のすもうと は少しルールが違う。</p> <p>お金カード 置き場 人カード 置き場</p>

弓矢



古くから伝わる。まどをねらう技術がためされる。

お金カード
置き場

人カード
置き場

ナーダム

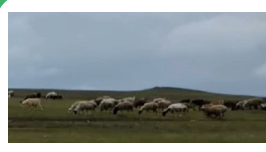


モンゴルを代表するお祭り。けい馬、モンゴルずもう、弓矢などが行われる。

お金カード
置き場

人カード
置き場

羊



モンゴルの遊ほく生活の中でなくてはならないもの

お金カード
置き場

人カード
置き場

シャガイ

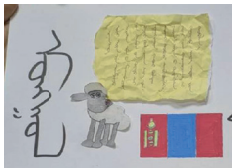


羊のくるぶしの骨。うらないや遊びで使う。

お金カード
置き場

人カード
置き場

モンゴル文字



モンゴルの人たちが使っていた文字。

お金カード
置き場

人カード
置き場

ホルホグ

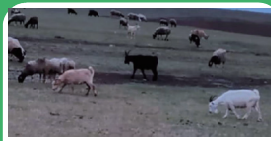


羊の肉と野菜を使ったでんとう的な遊ほく民料理。

お金カード
置き場

人カード
置き場

ヤギ



モンゴルの遊ほく生活の中でなくてはならないもの

お金カード
置き場

人カード
置き場

馬



モンゴルの遊ほく生活の中でなくてはならないもの

お金カード
置き場

人カード
置き場

たかがり



たかを使ってウサギなどをつかまえる狩りを行う。

お金カード
置き場

人カード
置き場

フェルト作り



羊の毛から作られる。

お金カード
置き場

人カード
置き場

ラクダ



モンゴルさばくでの生活の中でなくてはならないもの

お金カード
置き場

人カード
置き場

ラクダレース



約200頭のラクダレース。冬に行われる。

お金カード
置き場

人カード
置き場

スーテーツアイ



モンゴルのミルクティー。少ししょっぱい。

お金カード
置き場

人カード
置き場

ボーズ



モンゴルのでんとう的な食べ物。中には羊の肉が使われている。

お金カード
置き場

人カード
置き場

カード表面

カード裏面

ゲル

ゲル



遊ほく民の家。い動のたびに組み立て直す。

お金カード
置き場

人カード
置き場



遊ほく民の家。い動のたびに組み立て直す。

お金カード
置き場

人カード
置き場

※文化消失後、カードを裏返す。

【何が起こるかなカード】

<h3>予算さくげん</h3> <p>経済が悪くなって、お金がなくなっていました。</p> <p>どのカードからでも  -2  -0</p> 	<h3>輸入品の増加(食)</h3> <p>スーパーで安いものが手に入るようになり、作られなくなりました。</p> <p>黄色カード からどれか1つを失う(裏返す)。</p> 	<h3>モンゴルの観光ブーム終了</h3> <p>観光客が来なくなり、収入が減りました。</p> <p>どのカードからでも  -2  -0</p> 
<h3>後継い者不足</h3> <p>若い人が都会に行ってしまうと、伝統を受けつづける人がいない。</p> <p>どのカードからでも  -0  -2</p> 	<h3>若者の海外留学</h3> <p>モンゴルに住んでいた若者たちが海外に行っていました。</p> <p>どのカードからでも  -0  -2</p> 	<h3>伝統を受け継いできた者の高齢化</h3> <p>伝統を引きついできた方が年をとって引退しました。</p> <p>どのカードからでも  -0  -2</p> 
<h3>草原が、かわく</h3> <p>村で火事が起こり、いろいろなものが燃え、人が住めなくなりました。</p> <p>緑色カード からどれか1つを失う(裏返す)。</p> 	<h3>SNS流行</h3> <p>子どもたちが練習より、スマホに夢中になりました。</p> <p>青色カード からどれか1つを失う(裏返す)。</p> 	<h3>寒すぎる冬</h3> <p>冬の寒さにより、家ちくが死んでしまいました。</p> <p>緑色カード からどれか1つを失う(裏返す)。</p> 
<h3>人口がへる</h3> <p>モンゴル人がへり、文化を続けるのが難しくなり、お金も集まらなくなりました。</p> <p>どのカードからでも  -1  -1</p> 	<h3>K-POPブーム</h3> <p>若者がモンゴル舞踊より、K-POPのダンスに夢中です。</p> <p>モンゴル舞踊カードを失う。(裏返す)</p> 	<h3>輸入品の増加</h3> <p>町のお店で安いものがたくさん売られるようになり、モンゴルのものを作る人がいなくなりました。</p> <p>どのカードからでも  -1  -1</p> 
<h3>病気の流行</h3> <p>モンゴルに人の病気が広まってきました。</p> <p>どのカードからでも  -1  -1</p> 	<h3>寄付が集まらない</h3> <p>今年はお金が全然集まりませんでした。</p> <p>どのカードからでも  -2  -0</p> 	<h3>町へのひっこしブーム!</h3> <p>仕事や学校が町にあるので、草原から町へうつる人が多くなりました。</p> <p>ゲルカードを失う。(裏返す)</p> 
<h3>支援の打ち切り</h3> <p>文化に使うお金が削られ、人も呼べなくなりました。</p> <p>どのカードからでも  -1  -1</p> 	<h3>大雨で祭り中止!</h3> <p>ナーダムで祭りが大雨で、中止になりました。</p> <p>どのカードからでも  -2  -0</p> 	<h3>輸入品の人気!</h3> <p>外国の安い服が人気になり、テールを作る人がへりました。</p> <p>テールカードを失う。(裏返す)</p> 

本間千尋 教諭

道がこわれる

大雨で、道がこわれ、物を運べなくなりました。道をなおすために、お金を使いました。

どのカードからでも
 -2 -0

材料の値段があがった

フェルトを作るためのひつじの毛が高くなり、買えなくなりました。

フェルトカードを失う。
(裏返す)

新しい仕事が人気!

町で新しい仕事がふえ、伝統の仕事をやめる人が増えました。

どのカードからでも
 -0 -2

日本・韓国文化の流行

外国のまちのような文化にあこがれる人がふえ、伝統をやめる人ができました。

青色カード からどれか1つを失う(裏返す)。

観光客がマナーを守らない

観光客の中には、ごみをすてたり、草原をよごしたりする人もいました。そうじするのにお金がかかります。

どのカードからでも
 -2 -0

町のカフェが人気

コーヒーを飲むお店がふえ、スーテーツァイを飲むお店が減りました。

スーテーツァイカードを失う。
(裏返す)

日本でモンゴルブーム

日本でモンゴルをぶたいにしたドラマが大人気! 日本から、たくさんの観光客が来たり、モンゴルの文化に興味を人がふえました。

どのカードでも
 +1 +1

伝統復活運動

若者が集まり失われかけた文化を復活させようと努力しました。

どのカードでも
 +1 +1

博物館完成!

モンゴルの昔ながらの生活を見せる博物館ができました。

どのカードでも
 +1 +1

材料のねだんがあがった

ぼとうきんを作るには、時間もお金もかかるので、ぼとうきんを買う人がなくなりました。

ぼとうきんカードを失う。
(裏返す)

教えられる人がいない

ホーミーを教える先生が少なくなり、学ぶ場所がなくなってしまいました。

ホーミーカードを失う。
(裏返す)

商品のヒット!

フェルトのぼうしやデールが世界中で人気! ネットでたくさん売れています!

どのカードでも
 +1 +1

国からの支援金

せいふから、文化を守るためのお金がとどき、手伝いに来る人も増えました。

どのカードでも
 +1 +1

わすれられてしまう

他の国の文字が多く使われ、モンゴル文字を使うことがなくなってしまいました。

モンゴル文字カードを失う。
(裏返す)

カード裏面

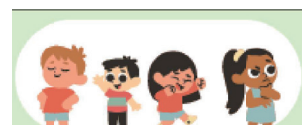


お金カード



残したい「自然文化カード」に印をつける用のカード

人カード





本間千尋
教諭

振り返りシート

名前()

課題「自分たちが残したいモンゴル文化をどうすれば残せるのかを考えよう！」

①自分たちが残したかったカードは、何まい残すことができましたか？

() まい

②このゲームをやってみて、どのような気持ちになりましたか？それはなぜですか？

③このゲームをして、学んだことを書きましょう。

【進行スライド】



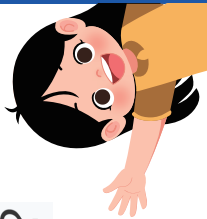
モンゴル

PART5!!

モンゴルの言葉であいさつしてみよう!

Сайн байна уу?

Сайн・バイノー? (こんにちは)



これまでのふり返りをしよう!

モンゴルのどんなところが
印象に残っていますか?

前回作った

「モンゴルのすきなところ
ランキングとその理由」
をロイノートで確認してみよう!

今日は・・・

「モンゴルのすきなところ
ランキングとその理由」
を使って

「モンゴルカラフル大作戦ゲーム」
をしよう!!

ゲームの準備

- ①モンゴルの地図の上に自然文化カードを置こう!
- ②前回選んだグループとして残したい物にクリップをつけよう!
- ③お金カードと人カードを置こう!

ここにはたくさん自然文化があって、とてもカラフルなモンゴルです。
しかし、今、モンゴルでは**首都に人口の半分が暮らす**ことで、**都会と広い田舎とで、生活の差**が生まれ、様々な問題が
おこっています。



このままいくとどうなってしまうのでしょうか。
みんなのモンゴルのすきな自然や文化を残すためには、どうすればいいのでしょうか。

今日の課題は…

ルール説明

チャンスタイムでの4つのアイテム

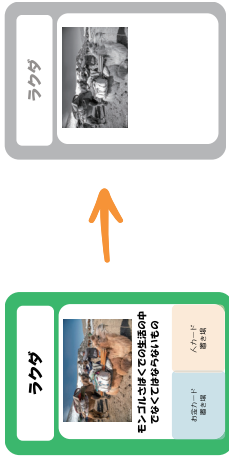



①自分たちが残したかった文化は何まい残すことができたかな？


②このゲームをやってみて、どのような気持ちになりましたか？それはなぜですか？


→ふりがえりシートに①②を記入しよう！


このゲームには続きがあります…

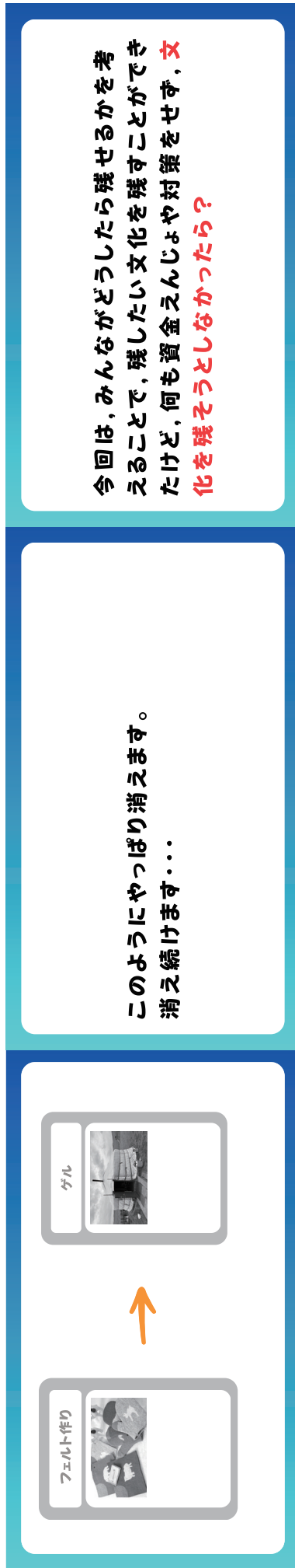
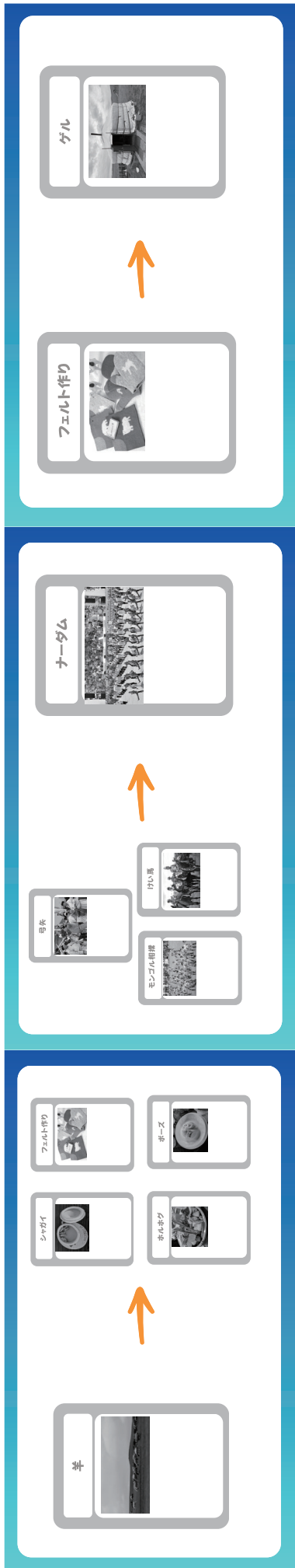












がなくなると・・・

モンゴル舞踊

動物や楽器を表現するのと
似ている。

人カード
旗の旗

モンゴル舞踊

動物や楽器を表現するのと
似ている。

人カード
旗の旗

↑





がなくなると・・・

モンゴル文字

モンゴルの人たちが
使っていた文字。


人カード
旗の旗



↑

Здравствуйте.

↑





↑







↑






がなくなると・・・

ふり返りをしよう！
ふり返り③を記入しよう！

わたしの一枚



家庭料理からわかるモンゴルの暮らし

写真を撮った場所：モンゴルの家庭にて

モンゴルの家庭に招いていただき、家庭料理を通して現地の暮らしや価値観に触れた場面である。テーブルには、乳製品を中心とした料理が並び、遊牧生活を背景に発展してきたモンゴルの食文化を実感することができた。中でも、特においしかったものは、「ウルム」と呼ばれる生バターのような乳製品である。意外とあっさりとした味で、「ボールツォグ」と呼ばれる揚げドーナツにつけて食べると、最高だった。

初対面の訪問者である私たちを自然に迎え入れ、惜しみなく分かち合おうとする姿も印象に残っている。この体験から、モンゴルの人たちの温かさや、相手を思いやるおもてなしの心にふれることができた。

氏名：本間 千尋

学校名：釧路市立鳥取小学校



氏名 菅井 誠
 学校名 札幌市立北野中学校
 学年 第2学年(135人)
 実施教科(領域) 社会(地理)

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名) : 近くて知らない国モンゴルのお話


2. 単元の目標(評価規準を意識して設定) :

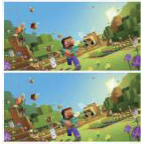
モンゴルの都市化にともなう「光と影(利点と課題)」を多面的に理解する。その上で、課題解決にはどのような主体(政治・市民・国際協力など)が関わる必要があるかを考え、解決策を提案できる。

3. 単元の評価規準	①知識及び技能	モンゴルの近代化の課題を具体的に述べたり、記述できる。
	②思考力、判断力、表現力	複数の立場(政治・市民・国際協力など)からの解決策を比較し、自分の意見をまとめられる。
	③主体的に学習に取り組む態度	課題を自分事として捉え、多様な立場の人々の協力の必要性に気づこうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>本単元は、日本に比較的近いがあまり知られていない国であるモンゴルを題材とし、都市化によって生じる利点と課題を多面的に理解することをねらいとしている。</p> <p>研修を通じて、近年のモンゴルは急速に発展する一方で、大気汚染や格差、環境問題など「都市化の闇」ともいえる課題を抱えていることを知った。それらを取り上げることは、生徒が持続可能な社会の構築に向けて主体的に考える契機となり、これまで学習してきた日本地理の知識を生かすことができる。さらに、ロールプレイを通じて多様な立場からの視点を学ぶことで、社会的事象を多面的・多角的に考察し、解決に向けた協働のあり方を考える態度を育成することができる。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>これまで生徒たちは地理において日本の発展を学んできた。本単元では、日本的な視点からモンゴルの都市化を見つめると同時に、カードゲームを通してモンゴルの人々が抱える不安や希望といった感情を理解することができる。こうした学びを通じて、生徒は「他国の視点」を取り入れながら日本社会を捉え直し、自国を多角的に考える機会とすることができる。</p> <p>【児童/生徒観】</p> <p>本学年(中学2年生)は135名で構成されている。学級替え当初の4月は互いに遠慮がちでシャイな一面も見られたが、6月の宿泊学習や陸上記録会を通じて交流が深まり、授業でも活発に協働できるようになった。一方で、地理に苦手意識をもつ生徒も少なくないため、指導にあたっては身近な事例や視覚的資料を積極的に活用するなどの工夫が求められる。また生徒たちはこれまでに国際理解教育や開発教育について受けた経験がほぼない。</p>	

	<p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元では、日本で身近なコンビニを導入に用い、モンゴルの韓国系コンビニ「CU」を扱うことで異文化への関心を喚起する(1時間目)。その後、ウランバートルの急激な都市化の光と影をロールプレイで疑似体験させ、人々の不安や希望といった感情を理解させる。指導にあたっては、身近な事例や資料を活用しつつ協働的な学習を促し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の形成に主体的に参画する態度を育成する。(2時間目)
--	---

5. 単元計画 (全 2 時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの位置、気候、政治体制、使用言語などの基礎的事項を理解し、生活への関心を高める。 ・ウランバートルにもコンビニがあることを知り、未知の国を身近に感じさせる。 ・モンゴルのコンビニ商品に外国製品が多い理由を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Quizizz (オンラインゲーム) を通じてモンゴルの基礎知識を習得するとともに、興味を喚起する。 ・日本のコンビニでの買い物経験と比較しながらモンゴルの流通の特徴や外国製品の多さに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スライド ・現地で撮影した写真 ・動画・紙幣など
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウランバートルの急激な都市化に伴う利点と課題を理解し、ロールプレイを通じてその功罪を体験的に学ばせる。 ・日本では体験できない都市化の現実を「自分事」として捉え、課題解決の方策を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウランバートルの様子を示す写真・動画やカードを基に、登場人物を演じるロールプレイを行い、都市化の利点と課題を体験的に理解する。 ・ロールプレイで得た気づきを整理し、グループで近代化の歪みを克服する解決策を話し合い、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スライド ・現地で撮影した写真・動画・紙幣など ・ロールプレイ用カード

6. 本時の展開 (2 / 2)			
本時のねらい： ウランバートルに住む人々を演じるロールプレイを通して、都市化の進展の中で現地の人々が抱く不安や希望といった感情を理解する。また、自らの考えを他者の役割との対話を通して見直し、気づきを共有することで、社会的事象を多面的・多角的に捉えようとする態度を養う。			
過程時間	教師の働きかけ ◎発問 ・予想される生徒の発言や考え	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	<p><u>モンゴルに関する2回目の授業であることを述べる。簡単に前回の内容を振り返る</u></p>	<p>机を移動し4人一組の状態にしておく。</p>	<p>モンゴルで撮影した都市化に関する動画や画像など</p>
展開 ① (20分)	<p><u>本日の活動について伝える</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲームをすること ○グループ分けを確認する <p><u>ロールプレイを行う</u></p> <p>○以下の流れでロールプレイの説明を行い、ゲームを始める。</p> <p>①登場キャラクターの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの政治家ウフナーギーン ・超優秀男子高校生アナンド ・貧困地区の少女サランゲル ・都会暮らしを嫌った農業者バスカ 	<p>前回のモンゴルについての知識を簡単に振り返る。</p> <p>Google スライドを用いて、視覚的にわかりやすく伝える。</p>	<p>・登場人物カード (指導案 ページ参照)</p> 

<p>展開 ② (15分)</p>	<p>②ルールを伝える ・活動指示 「これからモンゴル・クラフトというゲームを行います。」</p> <p>③ゲームの目標を伝える 「参加者で協力をしながら、良い社会を求めつつ、お金をできるだけ多く稼いでください。最後にお金をどれくらい持っているか数えます。またバイル指数（幸福度）がどれくらい貯まったかも数えてもらいます。したがって選択したバイル指数をワークシートに鉛筆で塗ってください。」</p> <p>④役を与え、自分たちで決めてもらう</p> <p>⑤ゲーム開始</p> <p>⑥ゲーム終了</p> <p>○ゲーム終了時にグループ内でのトータルの所持金と、バイル指数（幸福度）を教えてください。</p> <p>◎「ゲームを通して、どのような気持ちになりましたか？グループでその気持ちを共有してください。」</p> <p><u>(モンゴルの政治家ウフナーギーンを演じた生徒)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治家はお金がよく集まると思った。 ・他のプレイヤー（サランゲル）がかわいそうに見えた。 ・外交は大切に国力を上げるためには都市化は仕方ない。 <p><u>(男子高校生アナンドを演じた生徒)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・言うだけで何もやらない気がする？ ・発言がたくさんできた。 ・伝統より現代的な価値観を大切にしよう。 <p><u>(貧困地区の少女サランゲルを演じた生徒)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、自分のターンが来てもお金が必要でかわいそう。 ・都市に来たのに何も得してないと思う。 ・遊牧民の方がいいのでは？ <p><u>(都会暮らしを嫌った農業者バスカを演じた生徒)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨降らないのに良く農業始めたと思う。 ・都会暮らしをやめたから自由な人だと思った。 ・天気に左右される職業のため収入が安定しないのでは？ ・結構、国のために頑張っていると思う。 <p>○各役割から1名ずつ、ゲーム後の気持ち+何がそう感じたのかを聞く。</p> <p>○「それぞれの役になりきるのをやめて、自分自身の世界に戻って来てください。」</p>	<p>③目標を伝えたとときにゲームの過程は役割に没頭するように促す。</p> <p>④教員から役割解除を指示するまでその役を演じてもらうように伝える。</p> <p>⑤カードデッキが無くなったら終了。もしくは15分でTV画面に提示しておき時間がきたら終了。</p> <p>ここは時間の残り具合で調整をする。役割の感情を表現させるため、特に質問等せず、教員は傾聴するのみ。</p>	 <p>モンゴル・クラフト～協力して良い社会を作ろう！～</p> <p>目標： ①お金を集めつつ、登場のキャラクターたちで協力しよう！（デッキがなくなるまで） ②バイル指数（モンゴル語で幸福度）をなるべく高くなるように目指そう</p> <p>・ワークシート</p>  <p>座り方のイメージ図</p>  <p>では、やってみましょう</p> <p>注意！先生が指示するまでは、その登場人物でいてください！</p>  <p>ゲームを通して、どのような気持ちになりましたか？ (登場人物として、他プレイヤーや全体として持った感想)</p> <p>グループでその気持ちを共有してください。</p> <p>・カードゲーム (6～7セット)</p> <p>今から役割を解き、いつも通りの自分に戻ってください</p> <p>班ごとにロールプレイで直面した都市化の問題（黄色）について一つ選び、「日本人」（いつもの自分）として解決策を話し合います</p>
---------------------------	--	---	---

<p>まとめ (10分)</p>	<p>◎「班ごとにロールプレイで直面した都市化の問題（黄色）について一つ選び、日本人として解決策を話し合しましょう。」</p> <p><u>（生徒の意見の予想）</u></p> <p>交通渋滞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路を増やす（日本の地理で既習） ・地下鉄の設置 <p>大気汚染</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石炭をやめて再生可能エネルギーを使う ・日本の高度成長時代にやっていた排煙処理技術の導入をする（近畿地方で既習） <p>かんばつ、ゾド※</p> <ul style="list-style-type: none"> ・讃岐(さぬき)平野のため池を導入（中国・四国地方で既習） ・節水する <p>学校の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国が国民に携帯電話を渡して勉学のオンライン動画を提供する ・海外 NGO の寄付（経済支援）を募るなど <p>○2～3 グループから 1 人ずつ当てて、出た意見を全体に共有する。</p> <p>○「Google Form のアンサーに解決策を日本人として記載しなさい」</p>	<p>※ゾド…寒冷による家畜の体力消耗に加え、積雪や表土凍結により地表が覆われ牧草へのアクセスができなくなり、多くの家畜の命が奪われる自然災害</p>	<p>・クロームブック</p>
<p>7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>(1)オンラインフォームの記述を確認し、都市化の問題について具体的に記述されているかを評価する。</p> <p>(2)グループでの共有・発表を観察し、別の役割の生徒と立場が違うことも理解しながら協調し、解決策を提案しているか評価する。</p> <p>(3)ワークシートに、自分の生活や日本社会に引き寄せた具体的な考えが記述されているかを確認する。</p>			

【参考資料】

- 1 Tsogbadrakh D., Tsogbadrakh D.& Rawlins D. (Eds.). (2025). Authentic Mongolia: All you need to know about Mongolia: Then & Now (R. Oren, Photograph; O. Renchin, Contributor). Little Nomad Publishing.
- 2 湯本浩之・西岡 尚也・黛 京子（編）.(2024).SDGs 時代の地理教育：「地理総合」への開発教育からの提案（pp. 76–81）. 学文社
- 3 窪田新一（編著）.(2022).モンゴルはどこへ行く. 論創社
- 4 小長谷有紀・前川愛（2014）.現代モンゴルを知るための 50 章. 明石書店.
- 5 開発教育協会（編）.(2012).開発教育実践ハンドブックー参加型学習で世界を感じる [改訂版].（pp. 30–35）.開発教育協会.

【自己評価】

苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ウランバートルの都市化のカードゲームのルール、カードの種類のコ案に1ヶ月ほどの時間を取られて苦勞した。 ・ロールプレイの中で、生徒がキャラクターになりきるための工夫。 ・お金を稼がせたり、幸福度の設定をしたりとゲームの軸が多くあり、生徒に負担をかけたこと。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の実践授業において、授業回数の設定が少なかった。本来だと3回あれば消化できる内容であった。 ・指導案にとらわれすぎて、生徒の意見を十分に拾い切ることができなかった。 ・カードの文字が小さく、読みにくかった。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・全2回のうちの1回目で、ウランバートルと札幌との比較でコンビニを導入したことは生徒たちにとってイメージしやすく、興味を引くことに寄与した。 ・様々な「社会」の結果が見られた。お金と幸福度が高い社会のグループがあれば、その逆の社会もあった。生徒になぜそうなったのか、他のグループにも意見を聞き、多様な社会があるという実際の社会とリンクしていることに気づくことができた。 ・指導案通り、生徒たちはこれまで学んできた地理の知識や自分たちの思考を生かしてモンゴルの都市化のデメリットについて解決策を述べたり、日本が辿ってきた高度成長のメリットを現在のモンゴルに重ねることができていた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	<p>生徒たちは外国への興味を持ってくれたのか、モンゴルの遊牧民の生活について聞いてくれたり、私が行った外国歴や英語の勉強法(英検一級取得までの過程)について聞いてくれたりする生徒が増えました。また都市化のデメリットのリフレクションの際、頭をひねりながら解決策を考えてくれていた。</p>
授業者による自由記述	<p>まず4クラスとも全ての生徒が楽しく、「とてもためになった」と言ってくれたことが教師冥利に尽きる。5月にJICA海外派遣研修に申し込んだ時の見通しと結果が一致してとても嬉しかった。</p> <p>嬉しい誤算は、生徒たちが「多様な社会」を体現して、それに気づいてくれたこと。当初は、授業の地理で得た知識が外国のためになるかもしれないということを知ってほしいと作り上げた授業だった。カードゲームの結果はお金・幸福度ともに高い社会もあれば、その逆もあった。「この幸福度が低く、お金が</p>


	<p>全然ない社会は本当にダメな社会なのだろうか？」という発問に、「民主主義は議論に時間をかけるため、意思決定が遅れているから経済成長が起きていないし、限られた経済的な恩恵も国民に行き渡ってないため幸福度も低いのでは？」という発言があった。普段の授業から議論をさせて思考を揺さぶることをしてきたことがこの発言につながったのかもしれない。</p>
<p>次年度以降の取組予定</p>	<p>今回は、日本地理（九州から北海道）の学習後にモンゴルを扱った。これは、中学生が学んだ地理の知識や考え方が、他国の現状理解や、将来的にその助けになるかもしれないという意義を知ってもらう目的があったからだ。しかし、通常はアジア州の学習で実践するのがよりスムーズな流れだと考えられる。次回は、生徒の外国への興味を喚起するという点に焦点を置き、中学1年生の世界地理分野で実施してみようと考えている。</p>

【登場人物カード】

モンゴルの政治家
ウフナーギーン (Ухнаагийн)

- ・モンゴルの政治家。
- ・モンゴル国立大学出身のエリート。
- ・民衆ウケが良く、モンゴル人民に響く演説をする。
- ・選挙が強く、常に議員をしている。
- ・国家のためと外交を頑張る。
- ・伝統的なモンゴル民族の意識も大切にしている。

特別ルール:
毎ターンの初めに「良い政策を皆さんのために必ず実施します。」と言ったら1000トゥグルクをゲット。



貧困地区の少女

サランゲル(Сарангэрэл)

- ・モンゴルの首都ウランバートルの貧困地区「ゲル地区」に住む女の子。(推定5歳?)
- ・幼い頃にウランバートル市に両親に連れられてきた。
- ・ゲル地区は楽しいこともあるが、基本的に学校にいけない。
- ・ある施設が運営する場所で同じ境遇の子達と遊んでいる。
- ・実はウランバートルよりかは地方の田舎での遊牧生活をしたい。



特別ルール:

毎ターン、1000トゥグルクを誰かから寄付を募らなくてはならない。寄付してもらえないとそのターンは飛ばされる。

超優秀高校生

アナンド(Ананад)

- ・新日本モンゴル学園の男子高校生。
- ・過去にモンゴル・地理オリンピック9位となる。
(1位との差は1点だったとか)
- ・社会問題に良い提言をしてくれる。
- ・歴史や地理が大好き。
- ・将来は日本に留学をしたい。
- ・8月に菅井先生が訪問した際にLINE交換をした。



特別ルール: 毎ターンの始めに、「何か解決策して欲しかったら私に言ってください」述べたら1,000トゥグルクをもらうことができる。

都会暮らしを嫌った農業者

バスカ(Баска)

- ・大都市ウランバートル出身。
- ・元々ダイナマイトを作る仕事についていた。
- ・時間に縛られること、そして大都市の大気汚染と交通渋滞が嫌で田舎で農業を始めた。
- ・農業は儲けられないがウランバートルにいるよりはまし。
- ・過去にアメリカや中国に留学経験あり。
- ・「何歳に見える?」と日本からの訪問者に聞いていた。



特別ルール: 毎ターンの始めに「野菜をモンゴルのために作る!」と宣言すれば、1,000トゥグルク獲得。

【都市化カード】

交通 交通 交通

交通手段が車中心のため、常に大渋滞！

① 政治家が5,000MNT 支払う → 道路設備が進み、渋滞が一時的に改善！

② 政治家が支払わない → 全員3,000MNT 支払う このカードをデッキに戻す (=問題先送り)



15-092
14-40 YEXA

環境 環境 環境

白い空気…深刻な大気汚染

① 政治家が10,000MNT 支払う → 全員ハッピーなため政治家以外は1,000MNT 支払う

② 政治家が支払わない → 全員2,000MNT 支払う このカードをデッキに戻す (=問題先送り)




環境 環境 環境

農業の天敵…かんばつ

① 政治家が3,000MNT 支払う

② アナンドが一時的な解決策を言えとパスカは支払い回避、そしてこのカードをワールドに戻す



経済 経済 経済

足りない野菜

① 政治家が外国と合意して輸入を推進 → 短期的に政治家や少女、高校生は変わらず来農採取が可能のため2,000MNT 支払う

② 農家以外の人がたて3,000MNT 農家に投資 → パスカは3,000MNT 支払う

モンゴルは遊牧民だったので野菜は自国であまり作っていません。現在も多くは輸入が多い。



社会 社会 社会

日本モンゴル教育病院

① 政治家が1,000MNT 支払う → 少女、農家は1,000MNT 支払う このカードをワールドに戻す (=問題先送り)

日本の国際協力機関が無償で資金援助した病院。一般市民は医療知識が少なく来院するのが遅いと医者は嘆く。

① アナンドが現代医療を広めるためにアイデアを述べる → 少女、農家は1,000MNT 支払う

② 伝統医療を尊重する → 全員1,000MNT 支払う このカードをワールドに戻す (=問題先送り)



経済 経済 経済

モンゴルの上手な外交

① 政治家は留学や食べ物輸入、観光を推進 → 政治家は5,000MNT、高校生は3,000MNT 支払う

② 国内保護を優先する → 農家、少女にとってメリットな政策のため2人は政治家から3,000MNT 支払う

大ロシアと中国に採られたモンゴル。フランスをとる外交が大切だが、



社会 社会 社会

ゲル(貧困)地区のトイレ

① 政治家、高校生はゲル地区に寄付 → サランゲルは4,000MNT 支払う

② まずは都市の中心部の整備が必要のため政治家や高校生から少女に2,000MNTのみ寄付 → テッキに戻す

遊牧から大都市ウランバートルに移動してきた家族が多くいるゲル地区(貧困地区)

しかし住むために必要なトイレの整備が課題。



社会 社会 社会

都市部の住宅不足

① 政治家が住宅政策を推進 → 少女は住み場所が増えたことから政治家と高校生から4,000MNT 支払う

② 様子見 → ただ政治家や高校生は影響があるため1,000MNT ずつ支払い、カードをワールドに戻す

遊牧民から大都市ウランバートルに移動してきた家族が多くさんいいるが住むための住宅が不足中。街中にはたくさん建っているが、

① 政治家が住宅政策を推進 → 少女は住み場所が増えたことから政治家と高校生から4,000MNT 支払う

② 様子見 → ただ政治家や高校生は影響があるため1,000MNT ずつ支払い、カードをワールドに戻す



※MNT = (モンゴルトウグルク) の略

小・中学校の不足

社会
 パイル指数①★★★★★
 ②★★



大都市ウランバートルでは子どもは基本2部（朝・昼）交代で学校に通う。どうしても学校が足りない。
 ①政治家や高校生は学校建設のお金や提案をする
 →サラゲルは2人から5,000MNTもらう
 ②現職維持→遊牧の仕事や人手が足りたり、農家のバスカモ助かる。2人から5,000MNTもらう

鉱産資源の発掘

経済
 パイル指数①★★★★★
 ②★★★★



経済発展がすすむモンゴル。経済成長のために資源で
 ある鉱物を掘り起こしまくる！
 ①政治家が輸出政策をとる→政治家は6,000MNT
 もらう
 ②輸出政策は一旦保留→高校生、農家、少女は環境破
 壊の損害から救われたため、それぞれ政治家から
 2,000MNTもらえる

地方から都会への移住

経済
 パイル指数①★★★★★
 ②★★★★



社会主義の時代、自由移動は不可。1991年以降、自由になり、都市部へたくさん人が移動した。
 ①このまま推進→政治家は経済成長に貢献。
 10,000MNTもらう
 ②人の移動を制限→高校生、少女は過密から救われ農家は地方で人手確保できるため、政治家から2,000MNTずつもらえる

ゾド(Zud：厳しい寒さとかんばつ)

社会
 パイル指数①★★★★★
 ②★★★★



かんばつ+寒さによって冬、春に家畜が大群に死ぬ。
 ①税金から支援→政治家、高校生、少女はそれぞれ3,000MNT支払う
 ②農家が被害を避ける→農家のみ5,000MNT支払う
 としてカードを戻す

食の多様化（飲食物の輸入）

経済
 パイル指数①★★★★★
 ②★★★★★



政治家の政策の一つで、いろんな国から食べ物や飲み物が入ってくるようになった。
 ①このまま拡大→政治家、高校生はそれぞれ5,000MNTもらう
 ②政策を制限→農家は自分の商品が売れる・少女は安
 全な国内の食べ物が入るため3,000MNTもらう

旺仔牛奶(ワンザイミルク)



モンゴルに輸入されている中国製のミルク。かわいいう顔が目印で、モンゴルの子供からも人気らしい。味はとて甘い。
 1本80円。
 サラゲルは1,000MNT獲得

馬乳酒



アルコール度数：2～3%程度
 （ビールより低い）
 乳酸を発酵させたヨーグルトドリンクに近いが、独特の風味がある。
 モンゴルでは子供も飲む。
 全頁1,000MNT獲得

モンゴルの屋台メシ



ウランバートル市の野外にて購入可能。米は日本のより、少し硬いがまあ美味しい。きゅうりのつけものも少し青臭さが残るが日本人に合う。
 引いた人が1,000MNTを獲得

[モンゴルに関する学びのカード]

モンゴルの吉野家 マトン丼



モンゴル・ウランハートルの吉野家で、モンゴル限定メニューとしてマトン丼が提供されている。お茶は無料じゃない。
引いた人は2,000MNT獲得

モンゴル人の伝統 移動式住宅ゲル



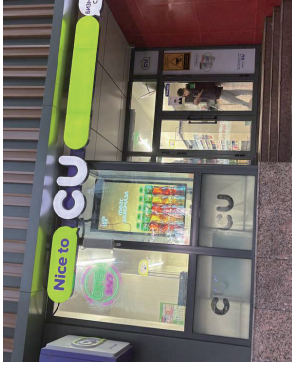
モンゴル人の伝統的なお家。ゲルの大きさは直径4.5〜6.5メートルほど。1つのゲルに、1つの家族が住む。サラングルは常に住んでいられるため安心して寝れる。観光資源としても貸し出すサービスも。
サラングルは1,000MNT獲得

モンゴルの伝統的家畜「馬」



モンゴル人の人口より馬の数のほうが多いとされ、約300万頭以上。ウランハートル市の都市から少し離れたとたくさんみられる。サラングルは馬に乗ることができるため
2,000MNT獲得

韓国発のコンビニCU (シーユー)



韓国コンビニCU。モンゴル商品以外に、韓国産・中国産・ロシア産の順番に商品が多い(菅井先生の感想)
政治家、高校生はお世話になってるため
1,000MNT獲得

ノミン・デパート



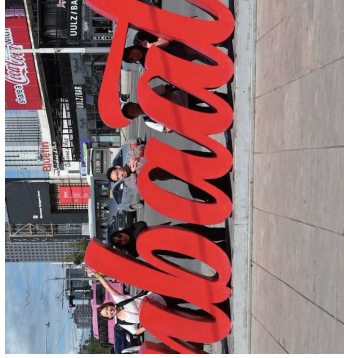
ほぼモンゴルでシェアを占めるため、モンゴル国民にとってはなくてはならないお店。都市化のおかげで政治家・高校生、農家も出向先としてお世話になってるため3,000MNT獲得

菅井先生がかかった高山病



モンゴルは標高が高いで有名。すぐ小高い山があり、マンシヨン20階くらいである。ただいきなり高いところにダッシュで行くと強烈な頭痛が起きるため注意。
引いた人は2,000MNT支払う

ヴィヴァン (某テレビ局のドラマ)



ある日本のテレビ局が数年前に放映していたドラマ。実は撮影場所はモンゴル。写真はその撮影場所。
引いた人は1,000MNT獲得

社会主義



モンゴルはソ連(今のロシア)の次にできた社会主義の国。全ての人が平等になるよう目指した国の体制。1991年に資本主義(自由に経済活動ができる)に変わった。
引いた人は1,000MNT獲得

菅井先生を閉じ込めたドア



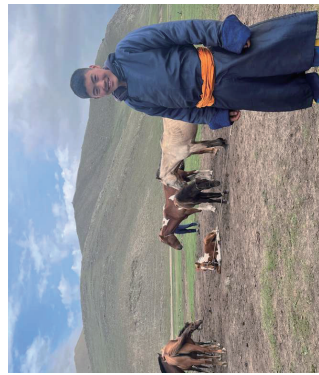
菅井先生が息に立ち寄ったレストランでトイレに入った時に閉じ込められた写真。ロシアでも経験しており、社会主義を経験した国にはあるらしい。
引いた人は1,000MNT支払う

モンゴル文字の伝統



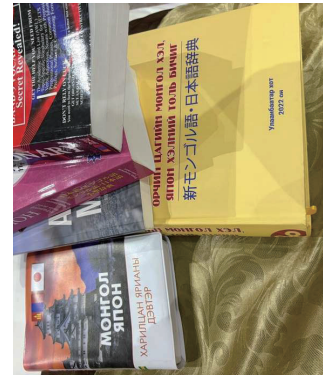
現在のモンゴル語は1941年にロシア語のキリル文字から採用された。しかし今も伝統的なモンゴル文字も積極的に勉強されている。
引いた人は2,000MNT獲得

遊牧民



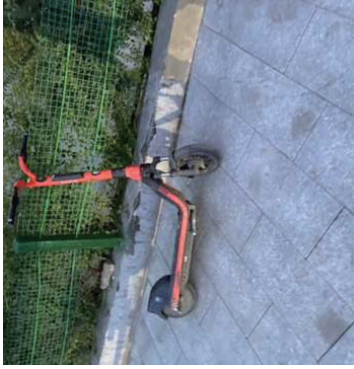
少し郊外に離れたら自然が広がる内陸国モンゴル。
遊牧民は常に家畜と自然と暮らしている。5歳くらいから乗馬ができてとか。
引いた人は1,000MNT獲得

モンゴル語の語学書



モンゴル人は昔から語学が得意。昔から文字ではなく音で覚える慣習があるとか。韓国語、英語、日本語、ロシア語が人気。
引いた人は1,000MNT獲得

スクーター



都市部で乗られているスクーター。便利だが、ある人は後ろからぶつかられることもあるらしい。いろんなところに置いてあった。
引いた人は1,000MNT獲得

ナーダム（遊び・祭りの意味）



7月に行われるモンゴルの建国を祝う国のお祭り。モンゴル相撲、競馬、弓など3つのスポーツで争われる。
全員げんきになるため1,000MNT獲得

馬糞（ばふん）



都市部から少し離れた場所に行くと家畜がたくさんいる。下を見るとたくさん馬糞が。土地の肥料やゲルの厩房にも使用されている。
引いた人は1,000MNT支払う

モンゴル日本人材開発センター



国際協力機関が無償援助でモンゴル国立大学と設立した施設。日本語教育やビジネスコースで日本の文化の発信地。現地の生徒は日本語も英語もかなり上手だった。
引いた人は1,000MNT獲得

【お助けカード】

韓国文化の流入



実は韓国がモンゴルでファッシュションやドラマ、お店などで人気。ゲル地区でもK-POPアイドルになりたい子が急増。K-POPの踊りを見せてくれた子もいた。少女は2,000MNT獲得

お助けカード 選挙権



政治家に対する国民の意思表示。引いた人は、自分に降りかかる支払いを無効化(支払い0円)にできる。他の人のターンでもこのカードを提示OKのため、持っておくこと。

お助けカード 資金援助



海外の団体から支援をもらうことができる。好きなタイミングに全てのメンバーに5,000MNTを支給

お助けカード 雨の恵み



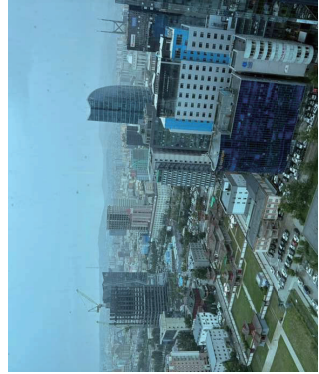
乾燥した内陸国モンゴル。雨がまだ8月までに2回しか降ってなかった。めみんな待ちに待っていた。バスカは5,000MNT獲得

お助けカード モンゴル人の新思考



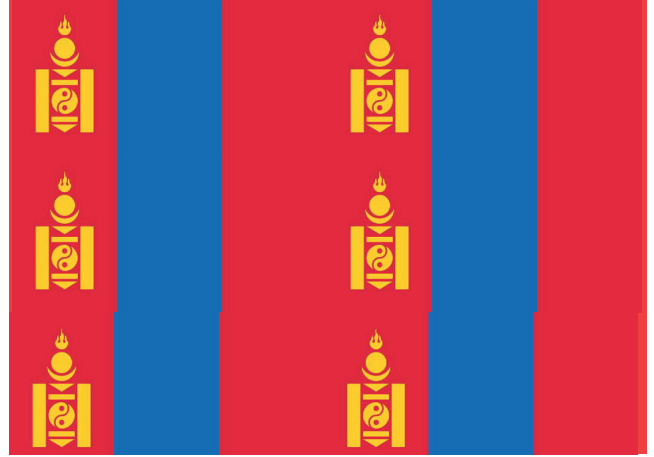
元は遊牧民であるモンゴル人は血縁関係を大切にしている。ただそこから自国民全体のために野菜を産出する農家のバスカはえらいため5,000MNT獲得

お助けカード 分散化政策








都市化の問題である過密。人口がたぐさんいるためにゴミ問題や交通渋滞が多発。高校生アナンドがこの解決策を言えば、全員が3,000MNT獲得

【カードの裏面】



[ワークシート]

<p>1  ウフナーギーン</p>	<p>お金</p>	<p>バイル指数 (幸福度) ゲットした分に色を塗ろう!</p> 
<p>2  アナンド</p>	<p>お金</p>	
<p>3  バスカ</p>	<p>お金</p>	
<p>4  サランゲル</p>	<p>お金</p>	

<p>お金の合計</p>	<p>バイル指数</p>
<p>MNT</p>	<p>個</p>

[進行スライド]



モンゴル授業②
2025/11/05

札幌市立北野中学校 曹井 誠



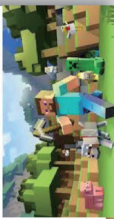
**本日の授業は引き続き
モンゴルについてやりま
す**

11月5日(水)

モンゴル・クラブフト～ 協力して良い社会を作ろう！～

目標:

- ①お金を集めつつ、登場のキャラクターたちで協力しよう！(デッキがなくなるまで)
- ②バイル指数(モンゴル語で幸福度)をなるべく高くなるように目指そう




カードの種類

黄色:都市化カード(より良い社会達成のための壁)

赤色:お助けカード
(引いたら手元にカードにおいて適切なタイミングで使用)


緑色:モンゴルに関する学びのカード
(基本的に登場人物にプラスになることが多い)



モンゴル・クラブフト～ 協力して良い社会を作ろう！～

ルール1:

- 人数は4人
- ロールプレイの役割を選び、なりきってください(ジャンケンで順番を決める)
- 最初は全員1,000トウグルク所持してください。



モンゴル・クラブフト～ 協力して良い社会を作ろう！～


ルール2:

- 順番にデッキからカードを引いて、読み上げて、見せてください。
- 選択肢①か②をみんなで考えて選びましょう
- お金の指示で、特定の人から出す場合は出してください。記載がない場合は余っているお金からとって OK

モンゴルの政治家
ウフナーギーン (Ухнаагийн)

- モンゴルの政治家
- モンゴル国立大学出身のエリート。
- 民衆が良く、トウグルク人に響く演説をする。
- 選挙の強み、競争相手に勝つ。
- 国家のためと外交を推進する。
- 伝統的なモンゴル民族の意識も大切にしている。

特別ルール:
毎ターンの初めに「良い政策を皆さんのために必ず実施します。」と言ったら1000トウグルクをゲット。



モンゴルの政治家
アナンド (Ананд)

- 新日本モンゴル学園の男子高校生。
- 過去にモンゴル・地理オリンピック9位となる(1位との差は1点だったとか)
- 社会問題に良い発言をしてくれる。
- 歴史や地理が大好き。
- 将来は日本に留学をしたい。
- 8月に曹井先生が訪問した際にLINE交換をした。

特別ルール: 毎ターンの始めに、「何か解決策が欲しかったら私に言ってください! 述べたら1,000トウグルクをもらおうことができます。



モンゴルの政治家
ウフナーギーン (Ухнаагийн)

お金の合計

ウフナーギーン	アナンド	バツカ	ザラングール
お金	お金	お金	お金
		MNT	個

バイル指数 (幸福度) ゲットした分には色を塗ろう!

☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆☆☆



貧困地区の少女

サラランゲル(Сарангэрэн)

- ・モンゴルの首都ウランバートルの貧困地区に住む「ゲル地区」に住む女の子(14歳)。
- ・朝い頃にサラランバートル市に両親に連れられてきた。
- ・ゲル地区は楽しいこともあるが、基本的に学校に行かない。
- ・ある焼肉が運営する場所と同じ種類の子連と遊んでる。
- ・実はウランバートルよりかは地方の田舎での遊学生活をしたい。

特別ルール:
毎ターン、1,000トウグルクを誰かから寄付を募らなくてはならない。寄付してもらえないとそのターンは飛ばされる。

都会暮らしを嫌った農業者

バスカ (Баска)

- ・大都市ウランバートル出身。
- ・元々タイサイトを作る仕事に就いていた。
- ・時間に縛られること、そして大都市の大気汚染と交通渋滞が嫌で田舎で農業を始めた。
- ・農業は続けられないがウランバートルにいるよりはまし。
- ・過去にアメリカや中国に留学経験あり。
- ・「何歳に見える？」と日本からの訪問者に聞いていた。

特別ルール: 毎ターンの始めに「野菜をモンゴルのために作る」と宣言すれば、1,000トウグルク獲得。

各登場人物のストーリー

経済的に豊か ← **田舎**

← **都会**

↑ **都会**

↓ **負しい**

盛り方のイメージ図

では、やってみましょう

注意！先生が指示するまではその登場人物でいてくださいね！

ゲームを通して、どのような気持ちになりましたか？
(登場人物として、他プレイヤーや全体として持った感想)

グループでその気持ちを共有してください

今から役割を解き
いつも通りの自分に戻ってください

班ごとにロールプレイで直面した都市化の問題(黄色)について一つ選び、「日本人」(いつもの自分)として解決策を話し合います。

今日の振り返り

菅井 誠 教諭

わたしの一枚



ノミンデパート

写真を撮った場所：ウランバートル市内

ウランバートル滞在中、私たちはノミンデパートを訪れた。ノミンデパートは、モンゴルの人々にとって生活に欠かせない大型デパートで、食料品、衣類、日用品、家電、文房具に至るまで、まさに「あらゆるものがそろう」場所である。店内は非常に整然としており、ウランバートルの中でもとりわけ近代的で洗練された空間が広がっていた。

私たちも、授業で使用する教材や日本へのお土産を購入するために立ち寄ったが、品ぞろえの豊富さには驚かされた。特に印象的だったのは書店コーナーで、日本語や英語の教科書や参考書、児童書などが充実しており、モンゴルの人々の学習や教育への関心の高さを感じることができた。ノミンデパートは、単なる買い物の場所というだけでなく、現代のモンゴルの暮らしや価値観を映し出す象徴的な空間でもあると感じた。

氏名：菅井 誠

学校名：札幌市立北野中学校



氏名 山田 翔子
 学校名 札幌市立元町中学校
 学年 第3学年(37人)
 実施教科(領域) 国語科・
 総合的な学習の時間

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名)： 合意形成に向けて話し合おうーモンゴルの社会課題解決のために会議を開く
2. 単元の目標：
 - ・国際社会の一員として開発途上国(モンゴル)への理解を多角的多面的に深める。
 - ・多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	(2) 情報と情報との関係について理解を深めることができる。
	②思考力、判断力、表現力	(1) 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら、話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりできる。 (2) 互いの考えを生かしながら議論や討論ができる。 (3) モンゴルの現地の人たちの事例を読み取り、モンゴルが抱える社会課題について考え、課題を明らかにできる。
	③主体的に学習に取り組む態度	モンゴルの社会課題の解決に向け、多様な立場を理解したうえで、主体的に考えることができる。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>研修を通して、モンゴル・ウランバートル市では急激な都市化による弊害(大気汚染・交通渋滞・インフラ整備等)をたくさん目にする事ができた。それと同時に、日本の先人たちが都市を形成していくうえで、全国規模で物事を捉え、実行に移してきたからこそ、現在の日本の「当たり前」が成り立っていることを知った。特に生活・社会インフラ(上下水道・電気・ガス・通信・交通機関・医療機関・教育施設・行政サービス等)に関しては全国どこへ行っても共通して安心・安全を確保しており、その点は日本の誇りだと考える。</p> <p>今回はモンゴル・ウランバートル市をケーススタディとして、社会課題に向き合う話し合い活動を行う。開発途上国のモンゴルと先進国の日本の状況は同じではない。しかし、日本で上記のような「当たり前」の生活をしてきた中学生にとって、モンゴルが直面する社会課題に対する解決策は、メリット・デメリットを考慮したうえで、既存の物事を組み合わせることによって生み出せると仮定した。また、今後、未知の課題解決に取り組むことになった際、今回の話し合いの経験をその手立てにしてほしいと考えた。</p>	

山田翔子
教諭

【単元の意義】

本授業は国語科と総合的な学習の時間との教科横断的な取り組みである。

1 時間目に「建設的な話し合いの作法」を使った話し合いの練習を行う(国語)。2 時間目は「フォトランゲージ」等、用いたモンゴルについての学習(総合)。3 時間目に、モンゴルの現地の人 6 名が置かれている状況を考慮しながら、その人物になりきり、政府への要望を考える。一人ひとりが当事者意識をもって話し合い、政府への要望を一つにまとめていく。要望を 1 つにまとめることが大きな目的ではなく、異国の人々である当事者の立場や状況を感じ取ること、その上で要望を一つにまとめていくことの困難さを知ることが目的である(国語)。4 時間目は、別のグループに編成し直したうえで政府の立場になり、6 名の要望に対して、一つ実現するものを選択する学習である。

【児童／生徒観】

本学級は明るく活発な雰囲気強い一方で、冷静に物事を考えられる生徒も多い。日々の学習に対しては、興味のある分野、得意だと感じたものに一生懸命に取り組む反面、難易度が高いと感じたものに関しては粘り強く取り組む姿勢がやや乏しい。普段から担任の話に関心をもつ生徒も多いので、夏休み明けからモンゴルでの経験を積極的に提供し、わくわく感をもたせるよう心掛けた。今回行う話し合いの授業は、3 年間通して国語科の中での実践は少なかったため、何度か練習を行い、「建設的な話し合いの作法」を身に付けたうえで授業を行うことにした。

また、本生徒たちは、国際理解教育の経験はほぼないものの、ALT(アメリカ圏)との交流を活発に行っていることから、海外への関心は比較的高い。今回は開発途上国(モンゴル)について学ぶ初めての機会なので、日本やアメリカなどの先進国との違いも感じられる内容を意識した。夏休み明けに学年通信でモンゴルでの経験談を伝えた際には、意欲的に様々な質問をする子どもおり、興味の高さを感じた。

【指導観】

指導の工夫にあたって、以下二点を留意したい。

一つ目は、モンゴルの学習を行う際、結果的に日本との比較になると想定されるが、「日本の方が優れていて素晴らしい」という思考に留めない工夫をすることだ。インフラだけに目を向けると日本の快適さが際立つのは仕方がないことではあるが、モンゴルの人々がもつ言語習得や海外就職を意識した学習意欲等の向上心や、他人をいい意味で気にし過ぎない大らかさが見えるよう、また感じられるように、資料提供の仕方を工夫したい。日本の「当たり前」が世界共通ではないことも気付かせたい。

二つ目は、モンゴルの現地の人々になる際、自分事として深く捉えられるよう、登場人物の情報提供を多面的多角的に行うことだ。本研修で得た資料を提供するだけでなく、自ら HP 等で調べる工夫をさせたい。一面的に状況を見ると、人物理解が浅くなってしまい、政府への提案内容も薄いものになると想定される。そのため、その人物の過去・現在・未来の立場・思考について中学生が理解できるよう意識したい。

5. 単元計画 (全4時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1 (国語)	多様な考えを認め、互いの考えを生かしながら話し合う「建設的な話し合いの作法」を身に付ける。	合意形成に向けて話し合おう 課題：もうすぐ卒業する私たちが、学校のためにできること ・教科書の例を用いて合意形成の難しさを体感する。	・練習用課題 ・付箋 ・ループリック ・ワークシート
2 学習の時間 (総合的な)	モンゴルについて、多角的多面的に理解を深める。	・モンゴル紹介 ・人物決定(6名) (MON - SHEP の農家さん、新モンゴル学園の学生、トルゴイト地区の NGO の方、日本モンゴル教育病院のお医者さん、玉ねぎ農家さん、遊牧民)	・ワークシート ・スライド
3 (国語)	モンゴルの人々の暮らしや置かれた立場に触れ、社会課題が解決する手立てを考える。	課題：モンゴル政府に要望したいこと(要望書の作成) ・各自人物になりきって、要望書作成のための話し合いを行う。 ※同じ人物グループで何を要望するか話し合い	
4 の時間 (総合的な学習) 本時	それぞれの要望のメリット・デメリットを考慮したうえで、社会課題を解決する困難さを意識することができる。	課題：モンゴル政府になり、どの要望を1つ選択するか考える。 ・モンゴル政府を6つ作り、どの要望を受け入れるかの話し合いを行う。 ※3時間目とは別のグループで話し合い	

6. 本時の展開 (4/4)			
本時のねらい： モンゴルの社会課題解決のため、政府の立場に立って実現可能な要望を選択し、その理由を説明する。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入① (7分)	●前時の確認 「前回の授業では、モンゴルの現地の人6名になりきり、各グループで要望を1つにまとめました。」 「要望を発表する前に、内容をもう一度確認してもらおうと思います。5分間打ち合わせ時間を取りますが、今何か質問はありますか。」	・既習事項の確認	・スライド(要望書)
導入② (8分)	●6つのモンゴル政府に分かれる 「では、先に荷物を持って政府のグループに分かれます。事前に伝えた1～6のグループへ移動してください。」 ●移動完了後… 「では、現地の人たちの要望を発表してもらいます。」		

	<p>〈要望例〉</p> <p>A : MON - SHEP 農家 ホランさん…生産する野菜の種類を増やすために環境整備</p> <p>B : 新モンゴル小中高一貫校高校生 ナランさん…都市部の交通渋滞の解消</p> <p>C : トルゴイト地区開発センターNGO ゲレルさん…地区のインフラ整備</p> <p>D : モンゴル日本教育病院 ガナさん…保険料改定の制度を動かすこと</p> <p>E : 玉ねぎ農家 バスカさん…人手不足解消のため ICT を使った農業用ドローンの導入</p> <p>F : 遊牧民 15 歳少年 チヌルさん…移動手段を増やし、道路整備等のインフラ充実</p>	
	<p>「ありがとうございました。」 「では、モンゴル政府 1～6 になり、A～F のどの要望が実現可能かを、メリット・デメリットを考えて、1つ選択してもらいます。」</p>	<p>・役割の確認</p> <p>Pros・Cons 分析</p>
	<p>【課題】 モンゴルの社会課題解決のため、政府の立場に立って実現可能な要望を選択し、その理由を説明する。</p>	
<p>展開① (5分)</p>	<p>「役割を 5 人(4 人)で分担して、モンゴル政府として話し合いを行ってもらいます。」 「まずは、役割分担をしてください。」</p>	<p>・役割を意識して話し合いを進めているか。</p>
	<p>〈役割〉</p> <p>①発表者 ②司会者 ③メリット&デメリット記入者 ④発表用紙記入者 (⑤タイムキーパー)</p>	
<p>展開② (17分)</p>	<p>●話し合い活動開始</p> <p>●モンゴル政府として、どの要望を選択したかを発表</p>	
<p>展開③ (10分)</p>	<p>〈選択例とその理由〉</p> <p>1 : C…貧困層のインフラ整備を行うことで貧富の差を少なくしたいから。上下水道の設置に多額の費用はかかるが、長期的に考えると、国全体が発展するから。</p> <p>2 : D…保険料改定を行うことで、より国民全体が病院に行きやすくなり、結果として病気等にかからず生活が豊かになると考えたから。国民の税金負担等は増えるだろうが、健康で寿命も長くなるから。</p> <p>3 : E…未来の機械化に合っているから。地方の人手不足に役立てると思うが、ドローンの初期投資やメンテナンス費用はかかる。</p> <p>4 : C…インフラ整備を行うことで、国全体の衛生面が向上し、発展が期待できるから。費用がかかることがデメリットではあるが、経済面・観光業の発展でカバーできるはず。</p> <p>5 : A…地産地消を実現することで、国民の健康面のサポートもできると思ったから。機械の導入には資金が必要だが、野菜の収穫量が増えることによって国民の健康を守ることができるから。</p> <p>6 : B…渋滞を解消することによって国民全体の時間的余裕ができ、何かを発明することができるかもしれないから。高速道路や地下鉄を作るにはお金がかかるが、国民の要望が強いなら、税金をあげても許されると思ったから。</p>	

まとめ (3分)	<p>●モンゴルのみならず、日本においても様々な社会課題があることを確認 (メリット・デメリットを考えた時に解決は一筋縄ではいかないことに気付く)</p> <p>●ワークシートに話し合いを通して、わかったことや気付いたことを記入</p>		ワークシート
<p>7.評価規準に基づく本時の評価 (評価方法) (主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>①:モンゴルの社会課題を解決するために、現地の人に対する当事者意識をもったり、モンゴル政府の立場に立ったりして、理由を含めて考えることができたか。(振り返りワークシート)</p> <p>②:モンゴルの社会課題を解決するために、現地の人に対する当事者意識をもったり、モンゴル政府の立場に立ったりして、考えることができたか。(振り返りワークシート)</p>			

【参考資料】

資料および外部との連携

- ・地球の歩き方 D14 モンゴル 2024～2025年版 株式会社地球の歩き方 2024年 p144～151

【自己評価】

苦勞した点	<p>国語で授業実践を行いたかったため、国際理解教育と結びつけるまでが大変だった。中学3年生の担当であり、生徒の感覚として高校受験に関係のないことはしたくなかったため、教科書の範囲で単元を見つけることを心がけた。話し合いの授業はいつも評価が難しいものの、モンゴルという斬新なテーマを扱うことによって生徒の意欲は増したように感じた。</p>
改善点	<p>準備期間約1か月と短かったため、事前の仕込みがやや足りなかった。1学期中に話し合いの授業を1時間でも行っていたら、もう少し生徒が向き合いやすい環境だったのではないかと思う。</p>
成果が出た点	<p>生徒の振り返りを読むと、モンゴルという国を一面的ではなく多角的多面的に見て理解しようという気持ちで授業に取り組んだ子が多いことが分かった。これは、昨年度の社会科の授業で繰り返し指導を行った成果であると考えられる。国語科としては、話し合いをするときに常に肯定的に相手の意見を聞く良さを感じた子が多かった。その後の学校生活においても、ポジティブな影響があった。</p>
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルは最初開発途上国に見えなかったけど、細かい部分が追い付いていないことに気づき、大きな進歩(発展)の影の大きさと影に隠された穴があることを知った。 ・何かを決める時には、まずそのこと(今回だとモンゴルのこと)について様々な視点から理解し、知ろうとしなければならないと

	<p>ということが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を知るだけではなく、「どうしたらより良くなるか」を考 えることが国の理解を深める鍵になると感じた。 ・モンゴルのことを主体的に考えることによって、日本の課題も 見えたように感じた。
授業者による自由記述	<p>現地の人の要望を選択する活動で、どのような意見が出てくる か見通しが持てなかったが、最初に授業をした学級でドローンや AI など次世代に繋がる様々なアイデアが出た。中学生の頭の柔 らかさを実感した。また、政府として案を一つに決める際には、 生徒のプレゼン力が人の心を動かすことを目の当たりにし、勉強 になった。</p>
次年度以降の取組予定	<p>話し合いの授業において、自分以外の誰かの立場になって考え る練習を、引き続き行いたい。</p>

【ループリック】

合意形成に向けて話し合う 目標と振り返り 3年 組 番

目標	1. 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。 2. 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。 3. 自分の目標（1つ選択し、○をつける。） A 肯定的な受け答えを意識する。 B 主体的に国際社会について知る。 C 国際社会の一員として発展途上国への理解を深める。 D その他（ ）
----	---

1 ループリック

主体的に学習に取り組む態度…本ワークシートで評価する。

レベル	内容	目標点
0	以下のレベルの説明に記されたいずれの基準にも達していない。	/6
1～2	自ら学習の目標をもち、振り返ろうとしている。	
3～4	自ら学習の目標をもち、その過程を評価して改善しようとしている。	
5～6	自ら学習の目標をもち、その過程を評価して目標を立てようとしている。	

2 ____月 ____日（ ）の振り返り ←できた できなかった→


1. 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。	4・3・2・1
2. 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。	4・3・2・1
3. 自分の目標（ A・B・C・D ※選んだものに○をつける）	4・3・2・1

3 ____月 ____日（ ）の振り返り ←できた できなかった→

1. 複数の発言の共通点を見いだすなど、具体的な事例を抽象化して整理する。	4・3・2・1
2. 多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。	4・3・2・1
3. 自分の目標（ A・B・C・D ※選んだものに○をつける）	4・3・2・1


指導者による評価 /6

[前時スライド] — 本時でも振り返りに使用 —



MONGOLIA

3年国語 合意形成に向けて話し合おう




MONGOLIA?

どんな 場所ですか? イメージしてみよう!

WHY MONGOLIA?

- モンゴルを題材にする意味…?
- モンゴルの社会課題の検討を踏まえ、話し合いや合意形成の難しさを知るため。
- 将来、確実に考えなければならぬ「日本の社会課題」。そのケーススタディをして取り扱う。
- 日本とモンゴル、条件は違えど、日本人の先輩方が乗り越えてきた課題なので元町中3年生ならば頭フル回転したら挑戦できる!



平均標高は**1,580m**。
→日本と比べるとかなり高地
・首都ウランバートルの標高**1,350m**。
・成田空港→チンギスハーン国際空港まで**4,131,000km**。
飛行機でおよそ5時間半。

WHAT KIND OF PLACE IS MONGOLIA?

- 首都：ウランバートル ※全人口の約半分が在住
- 言語：モンゴル（国家公用語）・カザフ語
- 民族：モンゴル人（全体の95%）及びカザフ人等
- 面積：156万4100平方キロメートル（日本の約4倍）
- 人口：350.5万人（2023年、モンゴル国家統計局）
- 通貨：トウグルグ ※1トウグルグ=0.042円（2024年平均）

WHAT KIND OF PLACE IS MONGOLIA?

- 主要産業：鉱業・牧畜業・流通業・軽工業
- 国土：80%が草原。南部はゴビ砂漠、北部はタイガとよばれる針葉樹林帯が広がっている。
- 気候：年間を通じて乾燥。夏は過ごしやすいが時に30℃を超える。念のため、雨具や防寒具を持っておいの方がよい。

宿泊先ホテルームツァー 動画



ウランバートル ホテルアメニティ



ウランバートル ホテルアメニティ




ウランバートル ホテル周辺





地方都市 観光地 2

地方都市 観光地 1

[前時ワークシート]

2025 年度 3 学年 合意形成に向けて話し合おう

3 年 組 番 名 前:

▶ モンゴルの現地の人々の人物像

▶ モンゴルの写真を見ての質問事項 (5 つ以上)

MEMO

▶ モンゴルのイメージは?

▶ モンゴルの写真を見ての質問事項 (5 つ以上)

【本時ワークシート】

展開①

課題: モンゴル政府に要望したいこと

提案する意義 (大)

提案する意義 (小)

2025 年度 3 年国語 合意形成に向けて話し合おう【モンゴル編】

現地の人の要望書

メンバー:

私の要望は、_____です。

理由は…

① _____

② _____

③ _____

私は、_____

暮らしたいです。

よろしくお願いたします。

〈役割分担〉
①発表者 ②司会 ③付箋整理 ④スライド用紙記入 ⑤要望書記入・タイマー

展開②③

2025 年度 3 年国語 合意形成に向けて話し合おう【モンゴル編】

モンゴル政府の発表

メンバー:

モンゴル政府 1・2・3・4・5・6 は、
要望書 A・B・C・D・E・F を採用します!

理由は…

考えられるメリット

デメリット

(デメリットもある…) BUT しかし、

私たちは _____ 案を進めていけるように努力します。

〈役割分担〉
①発表者 ②司会 ③メリット・デメリット記入 ④用紙記入 ※⑤タイマー

【進行スライド】



A: MON-SHEP 農家のホランさん



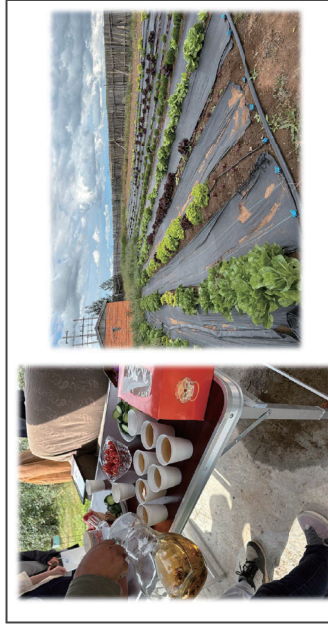
- MON-SHEP 市場志向型農場振興プロジェクト【ねらい】
 - ・市場を把握してから野菜を作ろう！
 - ・野菜の自給率を上げよう！
- 【内容】
- ・規模は小さいが様々な野菜を生産。
 - ・近年、葉物が中心。
 - ・元々はにんじん・じゃがいも・かぶ・玉ねぎ・にんにくの生産が多い。

ホランさんの紹介

- ・20年前から野菜作りを始め、10年前から営業用野菜の生産を開始。
- ・現在も小さなスーパーに出荷している。
- ・以前のモンゴルは中国の輸入品ばかりだった。
- ・MON-SHEPに入ってからよかったことは、市場をよく調べて、計画生産、価格設定できているようになったこと。消費者のニーズを理解することが必要だと分かった。
- ・1回目の販売ではキュウリを売ったが安くなくなってしまい失敗。2回目は試食してもらい適正価格で売ることができた。
- ・収入とコストの管理が身に付いた。
- ・今後もモンゴルの子どもたちに無農薬や国産野菜を食べてもらいたい。

ホランさんの紹介+α

- ・この農園は、姉妹（それぞれ家庭有）が中心となって経営。
- ・夫は農業とは全く別の仕事をしている。
- ・軌道に乗る前までは、夫は反対気味だったが、最近は力仕事を中心に積極的に手伝いをしてくれる。
- ・野菜作りに従事して以降、健康診断では肥満以外の診断はなし。
- ・農業を仕事にしてから身に付いた力は、努力・自然と調和すること・忍耐力だと思う。
- ・近年、じゃがいもの生産は増えており、他国へ輸出している。
- ・農業に新親参入する際、土地、水（地下水をひくこと）・家畜の糞が必要。土地は国が貸してくれる（1回の契約で30年）。



周辺の様子
家の中
動画

B: 新モンゴル小中高一貫校 高校生のナランさん



- 新モンゴル小中高一貫校
- 2000年に日本型教育をモンゴルにし、「世界に通用するモンゴル人の育成」をモットーに設立。2008年に12年制小中高一貫校へ。「夢」をもつことを大切にしている。
- 【日本の学校との違い】
- ・掃除、給食当番等はなし。
- ・部活動を取り入れ、一人一つ入部。



授業の様子 動画



C:トルゴイト地区開発センター-NGOゲレルさん

- トルゴイト地区開発センター 地方からウランバートル市内に出て来た人たちの支援のため、**2005年**設立。
- 政府が「ウランバートル市(都会)に出ておいで」と言いつつ、衣食住(インフラ整備含む)は整っておらず、無秩序に街が広がった結果、水がない、学校がない、病院がない...等の課題が...
- カナダ大使館の支援を受けて「みんなの集いの場」としてスタート!



ゲレルさんは設立者の一人。

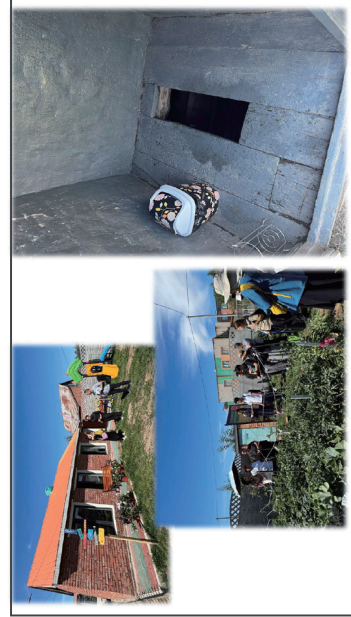
ナランさんから聞いたこと①α

- この学費は日本円で年間40万(月額約5万)、モンゴルの公立学校の先生の給料が月額10万だから、この学園の**学費は高い**。
- 公立学校だと、2人座席のところは3人で座って授業を受ける。
- モンゴルでは家庭科や保健のような科目がない。**健康=何かを摂取することで、バランスを考えようという観点がない**。
- ウランバートル市は交通渋滞がすごいので、大気汚染が社会問題。
- 政治家が選挙の時に「地下鉄を作ります!渋滞を解消します!」と公約を述べるけど、**当選したら何もしない**。
- 日本語で何かを調べると、色々な検索結果が出てくる。モンゴル語ではあまり詳しいことを知ることができない。

ナランさんから聞いたこと

- 10年間札幌に在住。東区の中学校に中3の2学期まで通った。
- 将来、日本の大学に進学しようと考えている。日本の方が好き。
- エンジンニア志望。
- 両国を過ごして思うことは、日本人は他人を気にするけど、モンゴルの人はあまりその点を考えていないようなので、話し合いのときに意見が活発に出る。
- モンゴル人はルールを守らない。生徒がたばこを吸っていても先生が強く指導することははない。交通ルールも守らない。
- **日本は村社会、モンゴルは遊牧民**で自分たちのことだけ考えればいい社会だったから、このような雰囲気になっているのではと**推測する**。

子どもたちの様子 (遊び&ダンス) 動画



ゲレルさんから聞いたこと

- 2005年当時、子どもの人数に対し、学校の数が足りず、午前・午後・夕方方の3回に分けてそれぞれが登校していた。
※現在は4校立てられたので解消済み!
- 地区センターは非公式の教育の場としての位置付けもあった。
- この地区で障がい児教育は出来ていないので、地区センターがサポートに当たっている。
- 生ごみはコンポストをして地区センター内の野菜作りに生かしている。
- ここで生まれた子どもたちは、ここで生活しか知らないのので、**サマーキャンプ**として「遊牧民の生活1泊2日」を実施。
- **伝統舞踊**に関しても、この地区の高齢者がボランティアとして指導。

地区開発センターで印象に残ったこと

- **水は地下水のみ**、上下水道がない。
- 汲み上げた水が出る場所は、敷地内に1か所。
- 子どもたちは、たらいで水浴び(=お風呂)。
- 大人は週2程度、公衆浴場(簡易シャワー)へ。
- スマホを所持している子どもたち。
→ TikTok、インスタ、YouTube等がk-pop情報を取得。ダンスでできる♪
- **流暢な英語を話せる小学生**が数名。
- モンゴルが民主制になった時に、日本が一番最初に支援してくれた。
- トルゴイト地区開発センターは**正しい開発モデル**になりたい!

ガナさんから聞いたこと

- 九州大、北大の先生方が指導をしに来るときがある。
- **日本の病院へ留学経験**がある。(大阪・名古屋)
く感じはいいと思う。
- モンゴルでは、お店の店員さんがモノを売る気がなさ過ぎて、喧嘩したことがある。**CU(韓国系コンビニ・2018年〜)が参入してからは、お客様に対するサービスという意識が少し根付いてきた**ように感じる。
- 現在、モンゴルでは保険料改革が動き出そうとしていて、しかし、日本というはよくあること。
- 病院もマネジメントカが大切だと思う。

ガナさんから聞いたこと+α

- モンゴルの人は、お腹がポーンとした人が多い。(国の傾向)
- 結果、糖尿病、血圧が高い、肝臓がんがものすごく多い。
- 運動をあまりしない。お肉をよく食べる。
- 病気が治って退院しても、自己管理ができていない人が多い。
- 一次医療(地域住民が最初に受診する身近な医療のことで、かかりつけ医による一般的な疾病の治療や健康診断、予防医療などが中心)の受診率が低く、質もあまりよくない。
- 国民全体的に、**医療に関する知識が低い**。
- **〇〇を食べたらよくなる**、**〇〇をするとよい**、という感じで、「**パラスよく**」という**観点**が**多い**。

D:モンゴル日本教育病院 ガナさん

- 2019年に開院。
- …日本が無償資金で支援
- 2019→2024で患者さんが10倍
- …年間17万人利用。
既にキャパオーバー状態。
- 医療サービスの範囲が広く、他病院に比べて行っているシステムを広げる活動をしている。
- JICA海外協力隊派遣が毎年4名。



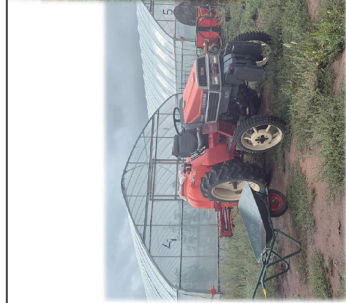
E:玉ねぎ農家バスカさん

- 玉ねぎ農家
(草の根技術協力事業)
北海道滝川市が支援・サポート
- バスカさんと高齢男性の2名で、畑を耕している。
- 農業は天候に左右されるため、収入確保の保証がない。今年は8月の2回しか雨が降っていない。
- 日本と違い、インフラ整備が整っていないので、田舎の人口が少ない。



バスカさんの自己紹介

- ウランバートル市出身。38歳
- 玉ねぎ農家以前は、ダイナマイトに関する仕事をしていた。
- 転職理由は、姉にこの仕事を紹介され、**ウランバートル市で働くのも嫌になった(交通渋滞・大気汚染等)**。
- アメリカに10年(25~35歳くらい)まで生活し、そこで「どういふことが幸せか?」を勉強してきた。出世する方法や考え方も学び、私を人生を諦めていない。
- 農家になってから乗り越えられない程の苦労はしていない。
- 夏はこちから農業をしながら過ごし、冬はウランバートル市内にある家で生活している(2拠点生活)。



バスカさんの自己紹介+α

- あと2～3年は農家を予定。それ以降は分らない。
- モンゴルは**日本のように20～30年後を考えると**はないから。
- 農業は天気に左右されるため、収入の確保の保証がない。
- 年々降水量も減っており、2025年は8月の2回しか雨が降っていない。
- 日本と違い、インフラ整備も整っていないため、特に田舎の人口は少ない。
- 私のように都会での生活に慣れて、田舎に移住する人もいる。
- JICAの草の根技術協力事業(滝川)により、村に農機具が譲渡され玉ねぎ農家たちが農繁期に活用している。

F: 遊牧民・15歳の少年チヌルさん



- トウブ県ジャルガランド群
- 馬・羊等飼育をしている地区。
- ウランバートル市から約3時間。
- 馬乳酒(カルピスに強い酸味を加えた味のお酒)が有名。
- …飲むとお腹を壊す人も…。
- 8月時点15℃程度で気温も低く、日中でも春のアウターは必須。
- 風がものすごく強い。



チヌルさんの紹介

- ゲルに住んでいる。**
- 自転車と馬だったら馬の方が簡単に乗れる。
- 羊のライフサイクルを考えて生きている。
- かくれんぼが好き。
- モンゴルは内陸で海がないけど、**海を見たい。**
- ゲルのしきたりを大事にし、自然に合わせる精神で生活している。
- 夏は乳酸品をたくさん作る。乾燥チーズのアーロール、滋養としての馬乳酒等生乳で飲まずに、加工をする。
- 子どもたちは長期休みのため、**家の手伝いとして馬の世話**をしている。

馬の搾乳の様子 動画

【特別収録】元中戦隊 チョコレンジャー

元町のほっとステーション 3の4



札幌市立元町中学校
3年4組 学級通信 No.20
令和7年8月26日(火)
担任：山田翔子

ショコレンジャー

♪モンゴル体験記♪

宣言通り、夏休み8月2日～10日までモンゴルに行ってきました。元々「海外大好き♪」ではない私が体験したモンゴル。日本と似ているところもありながら、「ここは韓国か?」というくらいハングルがあふれていたたり、現地で使われる文字はロシアと同じキリル文字だったり…。一言で表すならば、「勢いのある国」でした。まずは、モンゴルで感じたことを紹介します。

1、日本の当たり前は、世界の当たり前ではない!

毎日「日本の当たり前は世界の当たり前ではない。」と感じていました。まず、水道水は絶対に飲めません。車間距離はほぼ0!モンゴルでお茶と言えば、「塩入りのミルクティ」を指すので、ホテルの部屋の牛井であって、ミルクティと一緒に飲みます。ホテルの部屋のシャワーへへ壊れていてスタッフの方に伝えても、1週間直りません。若年層が多く(平均寿命60歳程度)、杖をついて歩く人がほぼいません。代わりに、街には仕事をバリバリしているような(やや気の強そうな)女性が多く、颯爽と歩く姿が目立ちます。多言語習得(日本語・韓国語・英語等)への意欲が物凄く高く、世界各国へ就労しようとしている人々。良くも悪くも日本にはない「勢い」を感じる毎日でした。

2、日本人の当たり前は、世界に誇れるものかもしれない…!

モンゴルでは「日本の経営」を学ぶビジネスマンがとても多いそうです。日本の経営の中でも最も有名なものが「5S」。これは職場環境を改善するための活動で、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「清深」「しつけ」の5つの要素を指します。それぞれの頭文字が「S」で始まることから、「5S」と呼ばれ、英語においても「Sort」「Set」「Shine」「Standardize」「Sustain」と「S」で始まる5つの単語で表されています。

【5Sの内容】

- ・整理 (せいり, Seiri): 不要なものを排除し、必要なものを残すこと。
- ・整頓 (せいとん, Seiton): 必要なものを決められた場所に置き、誰でもすぐに取り出せるようにすること。
- ・清掃 (せいそう, Seisou): 職場を常に清潔に保ち、点検も行うこと。
- ・清潔 (せいけつ, Seiketsu): 整理・整頓・清掃を維持し、常にきれいな状態を保つこと。
- ・しつけ (しつけ, Shitsuke): 決められたルールを守り、習慣化すること。

…これって、日本では学校教育の中で自然と身に付けていくものでは?と思ってしまうかもしれません。日本の学校で取り組んでいる教育課程以外の学びは、どうやら世界に通用するようです。



元町のほっとステーション 3の4



札幌市立元町中学校
3年4組 学級通信 No.21
令和7年8月27日(水)
担任：山田翔子

ショコレンジャー

モンゴルでの意外な発見!

1、国内にStarbucksとマクドナルドがない!

KFC(ケンタッキーフライドチキン)とPizza hut、BUGER KING、YOSHINOYA(吉野家)はチェーン店として様々なところにあります。韓国系コンビニCUとGS25も至る所に点在。しかし、日系のセブロン、ローソンは全く進出していません。物流の関係で、日本から商品を運ぶのはとても大変らしく、イオンも進出計画を立てた後、採算が取れないということで断念したそうです。



2、公共交通機関はバスのみ…

JRも地下鉄もなければ、タクシーも見かけませんでした。モノレールも電もありません。その分、日本車がたくさん走っています!特にトヨタのプリウス(の中古車らしい)。道路は日本と逆の右車線ですが、運転席は左右半々くらい。チャイルドシートはないので、子どもが窓から顔を出しています。車間距離はZEROで渋滞が激しいので、みんなスマホを片手に運転席に座っています…。

3、TWICE(かわいい)よりBLACKPINK(カッコいい)派が多いよう。

街中で颯爽と歩く女性性は韓国系ファッションが多く、どちらかというとカッコいい雰囲気をもっています。モンゴル日本人材開発センター(習い事)でボランティアとして学生と話しをする事になり、思っていたTWICEとBLACKPINKはどちらが好き?と日本語で聞いてみました。結果、BLACKPINK派が多く、メンバーは誰が好きか?と聞かれる状態。やっぱりカッコいい感じが好きなのね、モンゴルは…。

4、低年齢でピアスをしている子、多数!

同じくモンゴル日本人材開発センターでの発見です。小学校5年生以上の子でピアスをしている子が多いので、宗教的なこともあるかと思う「いつ穴を開けたの?」と聞くと、「3歳」「13歳」…と家外バラバラ。モンゴル人の通訳さん曰く、宗教的なことで女の子は低年齢でピアスを開けるようです。「日本は学生の時にピアスの穴を開けていたら、学校で指導されるんだよ～」と伝えたと、とても驚いていました。

5、家畜は丸ごと食べて食べます!

家畜、特に羊は丸ごと食べます。捨てる場所は一つもありません。料理名は忘れましたが、お店に「羊の頭」をそのまま焼いたものがあります。私は勇気がなくて注文しませんでした。一緒に行った人たちが一度挑戦していました。日本人は見ただけでほほえみます…。通訳さん曰く、羊は小さい時から見るから大丈夫だけど、日本で見ただけで、羊の目の方が怖いです、とのこと。なるほど、そういう見方もあるか。

6、民主化にすればいいけどもでもないよう이다…

モンゴルは1924年に世界でロシアに次ぐ二番目の社会主義国になった後、1990年に民主化へと舵を切りました。つまり、本格的に民主化になってまだ30年程度しか経っていません。私は今まで民主化になれば何となく国民みんなHAPPYだと思っていました。しかし事情はやがて違ってくるので、民主主義について深く理解できていない若者たちが中心となって国造りをした結果、あらゆる分野で混乱が生じたようです。社会主義時にされていたごみ分別は、現在も何もなされていません。衣料品・農作物の作り方を知らない者はみんな「古い」と左遷されてしまったので、一時期ほぼ全て輸入(主に中国)に頼らざるを得なくなりました…など、様々な弊害があったようです。今は、それぞれの分野における社会課題を乗り越えるために、一つ一つ前向きに取り組んでいるようです。



元町のほっとステーション 3の4
元中研修
シヨコレンジャー

札幌市立元町中学校
3年4組 学級通信 No.26
令和7年10月9日(木)
担任：山田翔子

合意形成に向けて話し合おう【モンゴル編】

今回の学習課題は①国際社会の一員として発展途上国への理解を深める。(国際理解教育)②多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指す。(国語)でした。振り返りの中で、それぞれ感じたこと、考えたことを書いていたのですが、素敵な気持ちをいっしょに紹介しています。今後、みんなが社会に出た時に必要となる力だと思えます！

- ・モンゴルは意外に都市化が進んでいないことが、(学習を進めていく)設備や細かい点の違いが、いていないことに気が付いた。大きな進歩・発展の影の大きさとそれに追いついていない影に隠れた穴に気が付いた。
- ・何も無い草原が広がっている国だと思っていたが、思いがけず都会だし日本や韓国の物も多く売っていた。政府への提案を考えると、いいところだけでなく課題も知ることができ、国への理解が深まった。
- ・日本との違いを明確にする上で、モンゴルは発展途上国なのだと感じた、日本にもモンゴルに比べて足りない点があるのではないかと感じた。
- ・日本以外の国の現状を知ることができた。現状を知るだけではなく、「どうしたら良くなるか?」を考えると、発展途上国への理解を深める鍵になると感じた。
- ・モンゴルのことを理解するのはあまり意味がないかと思っていたが、主体的にやってみると、日本人として今まで見えなかったことが見えてきた。
- ・モンゴルの人の立場になって考えると、気持ちや想像できて物事の重要性も分かるけれど、政府の立場になると「国」が基準になって、重要性がなくなってしまうところが難しいと感じた。
- ・発展していきなそうだと感じたモンゴルは、日本と変わらなところが見られマイナスイメージがなくなった。
- ・日本について聞く、調べるのが大切なのだと感じた。
- ・日本の普通は普通じゃないことを学んだ。文化や制度の違いも知れた(例えばルールに対する意識)。色々な解決策が出る中で、順番を間違えたら難しいことになることに気が付き、優先順位を考えることも大切だと思った。
- ・(発展途上国である)モンゴルの社会問題が徐々に解決に進んでいるが、多くは他国や日本の支援があることを知った。

- ・話し合いをしていくと、色々な視点の意見があった「それ無理そうじゃない?」と言わずに、「これとこれを組み合わせたらいい感じになるよね?」とポジティブに考えながら話し合った。
- ・意見を出しやすい環境をつくることも話し合いで大切だと思った。多面的多角的に見ることで、様々な案が出るのが分かった。何かを決めるときには、その内容について知らなければならぬと知った。
- ・物事を決める時には、それぞれのメリット・デメリットを挙げて、どの部分を優先するかを考えると、納得する意見や考えに辿り着くことに気が付いた。
- ・話し合いをする中で、相手の意見は理由などを含めて最後までしっかりと聞くこと、自分の意見も理由をつけて伝えることが大切だと思った。人の意見を否定することは簡単だけれど、肯定するのは難しいと感じた。班全体で絶対否定しないを実行したところ、良くも悪くも多くの意見が出た。
- ・自分が想像していたイメージで決められるのではなく、そのことについて調べたり、色んな立場から物事を捉えたりすることが大切だと思った。自分の役割が全員にまんべんなく考え聞き出すことが重要だと感じた。
- ・「イヤネ」を言うことを大切にしたら、話し合いの雰囲気がよくなら、案が出しやすくなった。色んな人の発表を聞いて、否定から入るのではなく「そんな考えもあるのだ。確かにその案良いかも。」などお互いに認め合いながら発表を聞いた。

他国を知ると日本のことをもっと知りたくなります。きっとそれが日本を変えていく活力になるのではないかと感じています！話し合いも肯定的に行うことで人間関係も円滑になると信じています！

みんな、たくさんの協力ありがとうございました!!!



元町のほっとステーション 3の4
元中研修
シヨコレンジャー

札幌市立元町中学校
3年4組 学級通信 No.22
令和7年8月28日(木)★
担任：山田翔子

教師海外研修を終えて…

今回私は、JICA 北海道が企画・運営する「教師海外研修—モンゴル編」に参加しました。「北川先生がカナダ留学したことだし、私もどこか海外に行ってみようかなあ」という動機で応募した研修でしたが、得るものがたくさんありました。「海外大好き!」ではない私も、それなりに適応できた…はです。モンゴルは地図帳で調べても説明が少なく、「砂漠…?」くらいイメージでしたが、そこで生活する人々と接する中で感じることも多く、日本を出てみるこの大切さを実感しました。皆さんも機会があれば、もしくは機会を作って、若さと自由と勢いがあるうちに海外、特に発展途上国に行ってみてほしいです。



現地の子供にも折り紙講習!

日本にいると気が付かない、日本や日本人の良さを発見できます。あと、気持ちが大らかになります。なぜなら、発展途上国には「日本にはあるけどここにはないもの」が多く、何事も細かく丁寧に行きたくないので、自然と心も所作も大らかになります。海外に行くことが外国人なので、他人からの優しさも身に沁みます。私も札幌で迷っている外国人に出会ったから、声をかけてみよう!親切にしたい!という気持ちになりました。モンゴルではつたらない英語と韓国語を使って会話を頑張りました。一人でファーストフードに入ってから、利用者が自分で操作して情報取得やサービス利用ができる自立型の情報端末(注文・決済まで完了。時間が足りず、イートインからテイクアウトに変更したくて、片言英語を店員さんに話したら案内されました。

一緒に研修に参加した高校の先生が馬乳酒(馬の乳を乳酸菌と酵母で発酵させて作る、モンゴルを中心とした中央アジアの遊牧民の伝統的な飲み物)を購入したくて、スーパーでウロウロしましたが全く見つからず…。もう現地の方に聞いてみよう!と決め、チラチラこちらを見ていた主婦に話しかけたら、日本語バリエバリの方でした。私たちが「あーだ、こーだ」話していた言葉はほぼ聞こえていたそう…。日本に10年間くらい住んでいて、今は日本の商品を輸入してモンゴルで売っているお店を営んでいるそうです。「日本語全然使っていないから上手じゃなくって～」と言っています。私が、私たちがちやくちやく聞き取れず、隣に座っていたミラー系外国人と機内食のウランバートル→仁川国際空港の飛行機で、隣に座っていたミラー系外国人と機内食について目を見て話したら、アランの方には海外協力隊に参加経験があり、2年間も実際に見たことがない熊本の写真は匂いが苦手だよ!君は?という面白い会話)。その後、頑張った、同行されたJICA北海道の方は海外協力隊に参加経験があり、2年間も実際に見たことがない熊本の写真は匂いが苦手だよ!君は?という面白い会話)。その後、頑張った、同行されたJICA北海道の方は海外協力隊に参加経験があり、2年間も実際に見たことがない熊本の写真は匂いが苦手だよ!君は?という面白い会話)。

また、同行されたJICA北海道の方は海外協力隊に参加経験があり、2年間も実際に見たことがない熊本の写真は匂いが苦手だよ!君は?という面白い会話)。



百聞は一見に如かず。いつか海外へ行って、自分だけの新しい世界を見つけてみてください!



馬乳酒、カルピスみたいだけど…

わたしの一枚



異国の地でのBURGERKING

写真を撮った場所：ウランバートル市内

一人で夜のウランバートル市内を散策した時に見つけたBURGERKING!普段はあまり食べないのですが、無性に食べたくなって意を決して購入しに行きました笑。一人だったので、かなり緊張しました。キオスクの英語を読みながらメニューを把握…。海外では氷を入れてもらわない方がいいって聞いたな。でも英語読めない、分からない(笑)。…きっとNOを選べば大丈夫!なんて考えながら無事に購入完了。店員さんに笑顔で話しかけられながら商品を受け取りました。こんな小さな経験ですが、一回り人間が大きくなったように感じました!

氏名: 山田 翔子

学校名: 札幌市立元町中学校

総合的な
探求の時間



社会を変える!? 高校生のソリューション



氏名 荒井 清貴
 学校名 北海道中標津高等学校
 学年 第3学年(59人)
 実施教科(領域) 総合的な探求の時間

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名) :

社会を変える!? 高校生のソリューション

2. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) :

国際的な視野を持つ中標津町民(標津民)を育成するために、一つの国について詳しく知る、国際社会で活躍する人、そして中標津町民として視点を変えながら、目標に向かい自分事として考える。

総合的な探究として社会を感じさせる。社会で働くうえで「ニーズ→ニーズに合う課題を考える→課題を分散させる→課題を解決する」ことが重要である。総合的な探究の時間で行ってきた、課題発見→整理・まとめが社会でも役に立つということを感じさせる。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> “人”を焦点にしたモンゴルの話を聞き、人の願望を知る 人の願望から、モンゴルの課題を考える
	②思考力、判断力、表現力	<ul style="list-style-type: none"> 課題を整理・分析し、課題を解決する案を出すゲームを行うことで、課題解決法を幅広く考える 課題解決法を評価し、自分に取り入れ、最適な解決方法を考え出す
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 知る・考える活動を踏まえたうえで中標津の地域特性を考え、国際人を増やす方法を考えることができる 将来地域を支える個人であることを理解し、課題に対する解決策を考えることができる
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>1 中標津は岩谷学園日本語学校、IT専門学校があり、外国人が歩いている、店員として働いているなど、実は外国と身近な都市である。ただし、外国人とのつながりがあるわけではなく、関心も薄い。身近な教員が体験をもとに伝え、モンゴルやそこで過ごす人々の生活を知り、考えることで、海外(中標津にも多いアジア圏)について関心を持つことを期待する。</p> <p>2 開発途上国であるモンゴルについて、知識がなく、自分とは関係ないと思いがちである生徒が多いが、実際の写真を見せたり、クイズをしたりする中で追体験するとともに、人ごとの願望から課題を発見する。</p> <p>3 総合的な探究の時間で行ってきたことを振り返り、課題の発見・整理、分析し、解決策を考えまとめることが、自分の社会だけでなく、ほかの人の社会のためにも役に立つことを知る。</p> <p>【単元の意義】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際人を育てるために何が出来るかを、視点を変えながら疑似体験や、話し合いをし、それを町に還元することを考える中で、将来地域を支えようとする態度を養う。 アジア圏の国での体験を共有することで、これから高校を卒業する生徒たちの世界を広げる。 総合的な探究の時間の総復習として、自分だけではなく他の社会を支える個人としての人間性を高める。 	

	<p>【児童／生徒観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門学校を志望している生徒が多く、将来の職業選択を海外まで広げようとする意識は少ない。外国人が歩いている、店員として働いているなど、実は外国と身近な都市であるが、つながりやアジア圏を含めた海外への関心があまりない。 ・ 生徒たちの開発教育歴はなし。 <p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元では、国際理解を促すことを目標とする。1時間目では1つの国をよく知り課題を発見する活動を行い、本時である2時間目では、国際協力を行う者として1国のための課題解決を考える。何をもって国際協力とするかは人ごとに違うこと、その理由を共有する。3時間目の最終時では、中標津に住む高校生として中標津の国際理解を深めるためには何ができるかを検討する。 ・ WANTS→NEEDS→SOLUTION/INVENT を意識した、今後の社会につながるようなものを、総合的な探究の時間の総復習として行うことで、生徒の知識、考え方が役に立つことを気づかせたい。また、高校生として、地域のためになることを考えさせたい。
--	--

5. 単元計画 (全3時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ WARM UP-中標津在住の外国人はどこから来ているかを考え、アジア圏の国の多さを再度認識する ・ モンゴルについてのスライドを見ることでモンゴルでの体験を追体験する【知・技】 ・ モンゴルで多くの人に会ったことを教え、個人ごとに‘ABCD’のスライドを見せるとともにクイズを行う【知・技】 <p>A…都市に住む高校生 B…郊外でNGOを営む女性 C…別の町で野菜を作る男性/農業従事者 D…別の町で遊牧民の高校生/遊牧民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習として、個人の願望を紙に書く活動を行い、願望から課題を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国、ロシア、ネパール、スリランカ、ミャンマー、トルコ、ウズベキスタン、バングラデシュ、ベトナム、インドネシア、タイ、モンゴル、アメリカ… ・ モンゴルの概要（歴史・地理など）から見たもの、体験したこと・その中で交流があった人についてスライドで紹介するとともに、クイズを出しながら知識を深める。 ・ 個人のスライドを見せる中で、それぞれの人の願望は何かを考える <p>→市民：交通渋滞の緩和 ゲル地区の貧困層：貧困層を救う 農家：安定した農業 遊牧民：遊牧民の数の安定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライド (wayground) <p>https://wayground.com/admin/presentation/68c940c5abd22dd93de8ea70?source=lesson_share</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート① 願望カード 1 モンゴルの紹介、イラスト 2 「～したい」「～なってほしい」 3 キーワード ③と②を合わせて、願望を考えさせる
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間目で行った課題を4つ共有する ・ Шийдэл (シーデル) ゲームを行い課題解決方法を考える ・ ワールドカフェ形式 自分と同じ課題を考えた班に行き、解決策を評価する。 ・ 元の席に戻る ・ 自分が評価したアイデアを班で共有する 	<p>カードを使い、選んだ人物カードになりきり、人物カード・アイテムカードを何枚か使い、解決策を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルール説明用スライド ・ 説明用 課題カード ・ ワークシート② グループカード カード置き場・文章作成

	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有 ・5つの課題にたいし、班員と協力し、カードを3枚使い、最善の課題解決方法を考える ・発表して共有 		アイテムカード 人物カード <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③ 個人カード
3	<ul style="list-style-type: none"> ・中標津に住む高校生として、今の自分たちが「中標津×国際」の課題に対して何ができるのかを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中標津」「国際」という言葉を使い、課題を考える ・その予想をもとに、中標津に住む外国人にインタビューをして本当に困っている物について知る ・その課題の解決策を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート④ プロジェクトシート

6. 本時の展開 (2/3)

本時のねらい：個人の為の課題を考える、課題を整理・分析する、社会をよりよくするため課題の重要度を考え、協働する

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目で行った個人の願望を共有する A…都市に住む人 課題：交通渋滞を緩和してほしい B…郊外でNGOを営む女性 課題：より多くの困っている人を救いたい C…別の町での農家 課題：安定した農業ができるように D…別の町で遊牧民の高校生 課題：遊牧民の増加 		
展開 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・活動指示 「これからゲームを行います。目標は最良の課題解決方法を考えます」 「モンゴルの課題を解決していくゲーム Шийдэл (シーデル) ゲームです。」 「これから、青いカード (人物カード) 3枚・赤いカード (アイテムカード) 4枚を手札としてとります。」 「人物カードから1枚選び、その人になりきって、アイテムを2つ以上使い、解決方法を考えてください。」 	0 机上に 説明用課題シート・ アイテムカードの束・ 人物カードの束をおく 1 各生徒3枚ずつ人物カード・4枚ずつアイテムカードを持つ 2 課題を提示 3 生徒が順番に人物カード・アイテムカードのうち3枚以上を使って課題解決案を出す	<ul style="list-style-type: none"> ・課題カード 人物カード アイテムカード

<p>展開 ① (17分)</p>	<p>例えば、「交通渋滞の緩和が課題」とでたら、モンゴル政府カード・最新技術・CMのカードを使い、『モンゴル政府は、最新テクノロジーである車を一定にする反自動運転システムのある車をCMで流し流通させ、皆が安心して運転できるようにする』『政府がアイドルに無茶な運転をやめるようにいうCMを出す』などという解決案を出します。 残りのメンバーは各自のカードを使い、解決案を出します。</p> <p>最良の案は、書記係がカードを残し、班共有プリントに記入してください。これを4課題分行います。」 「このゲームのポイントは、絶対にアイデアを否定しないことです。」</p> <p>生徒記入例</p> <table border="1" data-bbox="293 833 885 1448"> <tr> <td>交通</td> <td>モンゴル政府</td> <td>教育 渋滞学、急がば回れなどの教育</td> <td>本 本で子どもたちに依頼</td> </tr> <tr> <td>貧困</td> <td>私たち</td> <td>SNS KPOP アイドルに憧れる子ども</td> <td>クラウドファンディング 夢の実現までのお金を集める</td> </tr> <tr> <td>安定した農業</td> <td>海外企業</td> <td>優しさ 無農薬の優しい商品だ</td> <td>ブランド化 ブランド化して販路拡大</td> </tr> <tr> <td>遊牧</td> <td>国際協力/JICA</td> <td>最新機器 GPSなどで</td> <td>家畜 の数の管理</td> </tr> </table>	交通	モンゴル政府	教育 渋滞学、急がば回れなどの教育	本 本で子どもたちに依頼	貧困	私たち	SNS KPOP アイドルに憧れる子ども	クラウドファンディング 夢の実現までのお金を集める	安定した農業	海外企業	優しさ 無農薬の優しい商品だ	ブランド化 ブランド化して販路拡大	遊牧	国際協力/JICA	最新機器 GPSなどで	家畜 の数の管理		<p>・ワークシート②グループカード</p> <p>・課題カード</p> <p>・人物カード・アイテムカードを持つ 人物カード28枚：モンゴル人③・モンゴル人留学生③・モンゴル政府③・観光客③・国際協力隊③・日本政府③・北海道/中標津町③・私たち③・インフルエンサー/アイドル②・海外企業② アイテムカード34枚：家畜②・野菜②・伝統工芸②・SNS②・テレビCM②・愛/優しさ②・法律②・教育②・頼み②・最新技術②・クラウドファンディング②・募金/寄付②・本②・ブランド②・フェアトレード②・補助金②・就労②</p>
交通	モンゴル政府	教育 渋滞学、急がば回れなどの教育	本 本で子どもたちに依頼																
貧困	私たち	SNS KPOP アイドルに憧れる子ども	クラウドファンディング 夢の実現までのお金を集める																
安定した農業	海外企業	優しさ 無農薬の優しい商品だ	ブランド化 ブランド化して販路拡大																
遊牧	国際協力/JICA	最新機器 GPSなどで	家畜 の数の管理																
<p>展開 ② (10分)</p>	<p>・ワールドカフェによる交流</p> <p>「次に別の班の意見を見ていきます。ワールドカフェという活動を行っていきます。」 「移動する動きはこうなります。→スライド移動が完了したら、3分間で、隣の班の人の案についてみていきます。 良い案に対して、シールで評価します。評価する項目は、幸福度・環境値・バランスです。どの案のどの点が良かったかを示しましょう。」</p> <p>-指示後移動をさせて書かせる。終了後最初の席に戻ってもらう。 「3分間、集めた意見の共有をしてください。」</p>	<p>・移動指示</p>	<p>・ワークシート②グループカードの隣に、評価シート（ワークシート②の2枚目）を置く</p> <p>・ワークシート個人カード③</p>																

展開 ③ (10分)	・グループにて、すべてのカードを用いて、1個の課題に対して、どう解決するかを考えよう。		
まとめ (5分)	・共有 机間指導の中で目についたものを指名し読んでもらい共有する <u>*留学生に来てもらえた場合、留学生にも選んでもらう</u> ・まとめの活動の指示 自分たちの考え、その理由を記入 本日の感想を記入		
7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法） スライドを元に課題を探し、課題解決を様々な視点で作ることができる…活動の観察【知・技】 課題についての実現可能性がある課題解決策とその理由を考えることができる【思・判・表現】			

【参考資料】

資料および外部との連携

- 文部科学省. (2023). 「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」（高等学校編）
→P21 課題のあり方について
総合的な学習の時間…課題を（教員が）設定し、解決していくことで、自己の生き方を考えていく
総合的な探究の時間…自己のあり方生き方と一体的で不可分な課題を発見し、解決していく
→探究の充実や課題作成、まとめ、表現の方法がより詳しく書かれる
- 後藤芳文・伊藤史織・登本洋子. (2017). 「学びの技 14 歳からの探究・論文・プレゼンテーション」（玉川大学出版部）
- 島村 一平 (2021). 「ヒップホップ・モンゴリア」（青土社）
- サステナブル・ゲーム ネクスファ
<https://readyfor.jp/projects/nextphcardgame/announcements> 2025/10/14

【外部との連携】

岩谷学園ひがし北海道日本語学校・IT 専門学校のモンゴル人生徒

【自己評価】



苦勞した点	<p>参加型の授業や海外研修で学んだことを生かし、生徒に教えるだけでなく、考えさせることを意識して授業を構想した。総合的な探究の時間での実践に向け、授業のアイデアを何度も練り直し、実際に6パターンの授業案を作成した。忙しい中、何度もチェックをしてくださったアドバイザーの方には、申し訳なさ感謝の気持ちを強く感じた。</p> <p>総合的な探究の時間について調べる中で、SDGs を学べるカードゲームにも関心を持ち、そこから「サステナブルゲーム」へとつながった。「サステナブルゲーム」の内容を調べながら、どのようにモンゴルと結びつけるかを考え、カードの作成に取り組んだ。カードの内容を考える際には生成 AI を活用し、「モンゴルの課題として、遊牧民の人数増加または維持がある。支援としてできるアイデアを 10 個考えてください」と問いかけ、そこからアイテムや人物など、カードに使える要素を抽出した。</p> <p>多くのカードを作成し、実際に切りそろえる作業は手間がかかったが、試行錯誤を重ねる中で学びも多かった。</p>
-------	--

<p>改善点</p>	<p>カードについては、「世界中の人」や「モンゴル人」など大きなカテゴリーで示されたものは、生徒たちにとって扱いにくかったようである。そのため、「モンゴルの〇〇」という形式にし、〇〇に入る言葉を考えさせることで、生徒がより自分ごととして捉えられるようになった。</p> <p>また、ゲーム性と記述して残す活動のバランス、さらにワールドカフェ形式での進行方法についても改善の余地があると感じた。特に、ワールドカフェ形式で移動を伴う場合には、動き方の指示を明確に示す必要があった。</p> <p>加えて、モンゴルの生徒を招いたが、時間配分の関係で交流の時間が十分に確保できなかったことは反省点である</p>															
<p>成果が出た点</p>	<p>「国際的な問題に対して、誰がやるかを変えながら、自分ごととして課題解決方法を考えよう」という意識を持って取り組んでいたことはとても良かった。生徒の感想からもうかがえるため、以下にまとめた。</p>															
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<p>①生徒の解決策案</p> <table border="1" data-bbox="576 642 1429 1503"> <thead> <tr> <th></th> <th>交流前</th> <th>交流後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交通</td> <td>・海外企業が高校生の意見を聞いてテレビのCMでクラウドファンディングをし、お金を集める</td> <td>・世界から補助金をもらい、モンゴル政府が最新技術を使って交通状況をSNSで伝え、新しい交通ルーツを作り、教え整える ・旅行者は家畜(ラクダや馬)で移動</td> </tr> <tr> <td>貧困</td> <td>・高校生や私たちがSNSでモンゴルの伝統工芸品を広めて売ってそれを補助金にする</td> <td>・日本政府が補助金をだし、モンゴル政府が減税や補助金を出し、貧困層に育成・研修をし、最新技術の就労につかせる ・モンゴル政府による人材育成・就労支援</td> </tr> <tr> <td>農業</td> <td>・モンゴルの作物をブランド化する。それを北海道と協力し最新技術を使い安定させる ・日本政府が野菜ブランドを立ち上げてインフルエンサーに広めてもらう。</td> <td>・モンゴル政府が寄付金を集めて、冬でも安定して農業ができるような施設を作る ・政府の補助金を使い、海外に研修や働きに行ける制度を作る</td> </tr> <tr> <td>遊牧</td> <td>・海外企業が伝統工芸品のブランドを作る ・モンゴル政府がクラウドファンディングでお金を集めてTVやCMで流して広める</td> <td>・モンゴル政府が海外企業と協力してゲル体験ができるようにして、それをインフルエンサーにSNSで拡散してもらう</td> </tr> </tbody> </table> <p>②生徒の感想用紙</p> <p>【学び・気づきに関する共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの課題を知る良い機会になった。 <ul style="list-style-type: none"> → 「モンゴルのことを知る良い経験ができた。」 → 「モンゴルは遊牧のイメージしかなく、大気汚染のイメージが全くなかったので今日の授業で知り、とても驚いた。」 ・世界には多様な課題があることに気づいた。 <ul style="list-style-type: none"> → 「日本ではほぼない遊牧民の問題など、身近にあまりない問題の解決策を考えるのが難しかった。」 ・「自分には関係ない」と思っていた国の問題にも関心が持てた。 <ul style="list-style-type: none"> → 「自分たちにとって一見関係のないことでも考えることが大切だと改めて感じた。」 → 「授業の初めはあまり関心の薄かったモンゴルの問題への興味を深めることができました。」 		交流前	交流後	交通	・海外企業が高校生の意見を聞いてテレビのCMでクラウドファンディングをし、お金を集める	・世界から補助金をもらい、モンゴル政府が最新技術を使って交通状況をSNSで伝え、新しい交通ルーツを作り、教え整える ・旅行者は家畜(ラクダや馬)で移動	貧困	・高校生や私たちがSNSでモンゴルの伝統工芸品を広めて売ってそれを補助金にする	・日本政府が補助金をだし、モンゴル政府が減税や補助金を出し、貧困層に育成・研修をし、最新技術の就労につかせる ・モンゴル政府による人材育成・就労支援	農業	・モンゴルの作物をブランド化する。それを北海道と協力し最新技術を使い安定させる ・日本政府が野菜ブランドを立ち上げてインフルエンサーに広めてもらう。	・モンゴル政府が寄付金を集めて、冬でも安定して農業ができるような施設を作る ・政府の補助金を使い、海外に研修や働きに行ける制度を作る	遊牧	・海外企業が伝統工芸品のブランドを作る ・モンゴル政府がクラウドファンディングでお金を集めてTVやCMで流して広める	・モンゴル政府が海外企業と協力してゲル体験ができるようにして、それをインフルエンサーにSNSで拡散してもらう
	交流前	交流後														
交通	・海外企業が高校生の意見を聞いてテレビのCMでクラウドファンディングをし、お金を集める	・世界から補助金をもらい、モンゴル政府が最新技術を使って交通状況をSNSで伝え、新しい交通ルーツを作り、教え整える ・旅行者は家畜(ラクダや馬)で移動														
貧困	・高校生や私たちがSNSでモンゴルの伝統工芸品を広めて売ってそれを補助金にする	・日本政府が補助金をだし、モンゴル政府が減税や補助金を出し、貧困層に育成・研修をし、最新技術の就労につかせる ・モンゴル政府による人材育成・就労支援														
農業	・モンゴルの作物をブランド化する。それを北海道と協力し最新技術を使い安定させる ・日本政府が野菜ブランドを立ち上げてインフルエンサーに広めてもらう。	・モンゴル政府が寄付金を集めて、冬でも安定して農業ができるような施設を作る ・政府の補助金を使い、海外に研修や働きに行ける制度を作る														
遊牧	・海外企業が伝統工芸品のブランドを作る ・モンゴル政府がクラウドファンディングでお金を集めてTVやCMで流して広める	・モンゴル政府が海外企業と協力してゲル体験ができるようにして、それをインフルエンサーにSNSで拡散してもらう														

	<p>【考え方・視点の広がり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の立場」以外の視点で考えることの大切さを実感。 → 「その国の課題や問題を解決するために自分とは違う人の立場になって考えた上で、自分では何が出来るか考える事も大事だと思った。」 → 「前は政府などの政策が重要だと思っていたが、今回は公的機関以外にもインフルエンサーや世界の人々など、様々な立場から考えることができた。」 ・多角的に物事を捉えられるようになった。 → 「普段あまり目を向けられないことについてじっくり考え、メリット・デメリットを考えた上で策を立てられた。」 ・新しい発想や他者の意見に刺激を受けた。 → 「寄付でどうにかなると思っていたけど、いろいろな人の柔軟な発想を聞いて多くのことに配慮した対策が立てられると感じた。」 → 「他の人と意見を交流することで自分が思いも寄らない解決策を発見することができた。」 <p>【協働・対話の良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で協力して意見を出し合うことができた。 → 「班の人と協力して解決策を考え、意見を交換し合うことができた。」 ・他の人の考えを聞いて自分の考えを深められた。 → 「他のグループで自分たちにはない意見を見つけれれて有意義な時間となった。」 <p>【行動・意識の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にもできることがあると感じた。 → 「国際問題を政府や最新技術で解決するだけでなく、自分が行動できることがあると知った。」 ・今後も他国の課題や社会問題に関心を持ち続けたい。 → 「これをきっかけに他の国の課題にも少し関心がわきました。」 <p>【活動方法への感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使った活動が楽しく、考えやすかった。 → 「カードを使って解決策を考えるのが楽しかったし、カードを見て『これできそう』『あれできそう』と考えられた。」 ・ゲーム的な要素が学びを深めるきっかけになった。 → 「他の国でもこのようなシールドゲームをしてみたいと思った。」 ・難しかった → 「ゲーム自体が難しかった」「予想がつかない物（遊牧民）を考えるのが難しかった。」
<p>授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修を通して、参加型授業についての理解が深まった。事前・事後研修の授業では、「教えること」に意識が向きすぎたため、生徒が考える時間を十分に確保できず、結果として消化不良の授業になってしまった。</p> <p>しかし、今回の参加型学習を意識した授業では、生徒自身が考え、表現する機会を重視した授業形態を実践することができた。生徒アンケートでも「興味がもてた」「学びが深まった」「自分で考えることができた」などの声が多く見られ、生徒を信じて主体的に考えさせることの大切さを改めて実感した。</p> <p>今回の経験を通して、今後も生徒が自ら学びを深められるような体験型・参加型の学習を積極的に展開していきたいと強く感じた。</p>
<p>次年度以降の取組予定</p>	<p>今後は、この研修で得た学びを生かし、英語の授業においても国際理解につながる授業案を作成・実践していきたいと考えている。</p> <p>また、岩谷学園ひがし北海道日本語学校とのつながりができたので、これを強くしていく活動もしていきたい。</p>

[課題カード]

35.

ウランバートルに住む高校生の課題

交通渋滞…車が多すぎる、冬は時速8キロくらいしか出ない
バスは通っているが、同じ道路を使うので、バスも渋滞がすごい

44.

代表のサランさんにインタビュー

Q. 将来の目標は？
→将来的にグリーン島（コンポストを使った野菜の栽培など）を大きくしたい、高齢者のデイケアなどさらに広げて、地域モデルになりたい。
なによりも多くの困っている人、特に貧困層を助けたい。



郊外のトルゴイトセンターでは子供たちが楽しみながらも過ごしていましたね。
KPOP を楽しむ子供たちもいましたね。コンポストを利用して生ゴミの回収や野菜の栽培、子ども食堂・コミュニティキッチン、障害児の支援、カウンセリング、伝統文化の指導なども行いました。

54.



バスカさんへのインタビュー

Q. 将来は？
→5年後は分からないが、3年がいるつもり。農業の場合は天気によって左右されるため、収入の保証がないから将来が読めない。
できるなら安定して農業を行いたい。





元々は都会で働いていたけど、大気汚染と交通渋滞、あとタイムカード（時間に縛られること）が、いやで田舎で働いている。冬は、農業ができないから都会の家で暮らしている。



モンゴル人は遊牧民をどうしていきたい？

〈中標津在中のモンゴル人トゥッさんに聞いてみた〉
若い世代のみならず、40代以上の世代においても遊牧文化や伝統的な生活を十分に知らない方が多くなっております。そのため、それらを復活・発展させ、将来的には観光の大きな柱とすることを、政府も国民も、考えているように感じられます。

クイズを思い出しながら彼・彼女たちの願望・課題を考えよう

<p>ウランバートルに住む Narangerel(ナランゲレル)さん・高校2年生</p>  <p>彼女の願望・課題</p>	<p>郊外にて NGO センター代表サランさん</p>  <p>彼女の願望・課題</p>
<p>別の県で農業を営むバスカさん・38歳</p>  <p>彼の願望・課題</p>	<p>遊牧民のチヌルさん・高校2年生</p>  <p>彼または遊牧民に対する願望・課題</p>

[進行スライド]



Шийдэлゲーム
(シールドル)

教師海外研修 授業案法

※シールドルとは、モンゴル語で「解決」という意味です。

- 目次
- 01 Шийдэлゲーム
 - 01-1 ゲームの概要
 - 01-2 役割の説明
 - 01-3 ゲームのルール説明
 - 02 ワールドカフェ
 - 03 グループワーク



01 Шийдэлゲーム



01 シールドルゲーム

みんなのアイデアで
モンゴルの課題を解決しよう



まずは、自由なアイデアで課題解決方法を考えよう



00 おさらい～モンゴルの課題とは？～

- 都市部
- 郊外 (貧困層)
- 農家
- 酪農



00 おさらい～モンゴルの課題とは？～

- 都市部
- 郊外 (貧困層)
- 農家
- 酪農

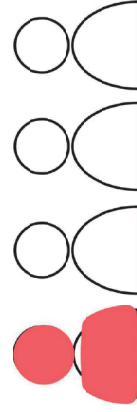


これらの課題を解決しよう

01-2 役割の説明



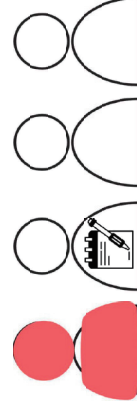

01-2 役割の説明



4人の中で1人 ファシリテーターと書記を決めてください。
ファシリテーターと書記は少し忙しい...



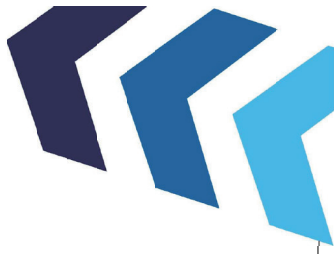
01-2 役割の説明



4人の中で1人 ファシリテーターと書記を決めてください。
ファシリテーターと書記は少し忙しい...



01-3 ゲームのルール説明



荒井 清貴

01 -2 ゲームルールの説明

席の確認

ファシリテーターは前方窓側・その隣に書記が座ってください
机の上にある物…カードの束(赤・青・白)/シール

黒板 (前)



01 -3 ゲームルールの説明

最初の用意

ファシリテーターはカードを赤いカード・青いカードをよく切って、赤いカードを4枚、青いカードを3枚を配布

黒板 (前)



01 -3 ゲームルールの説明

カードの説明

カードはそれぞれ、人物カード・アイテムカードとなっている



01 -3 ゲームルールの説明

ゲームスタート

ファシリテーターは白いカード(課題カード)を読み上げる

黒板 (前)



01 -3 ゲームルールの説明

THINK!

手持ちの3枚以上のカード(人物カードを必ず1枚使い)を使い、全員が幸せになる課題解決方法をシンキングタイム内に考えよう



01 -3 ゲームルールの説明

3枚を使って解決策を考えよう

【ルール説明動画】

作った案を1人ずつ机にカードを出しながら発表
(1ターン目はファシリテーターからスタート)



01 -3 ゲームルールの説明

JUDGEMENT

全員が読み上げたら、一番良いと思ったものを「せーの」で指さす。1番投票されたアイデアを選択



01 -3 ゲームルールの説明

JUDGEMENT

自分のアイデアを指してもOK!
2対2または1対1対1ではファシリテーターが指したものを



01-3 ゲームルールの説明

これで1ターン最後は…



書記が一番いいアイデアのカードを回収
班用ワークシートに書いてください



01-3 ゲームルールの説明

次のターンの準備へ



使用したカードは捨て、人物3・アイテム3となるよう
に、全員が新しくカードを引き直す



次のターンの準備へ



Helpカードがある場合もある
自分のターンでだして使う



01-3 ゲームルールの説明

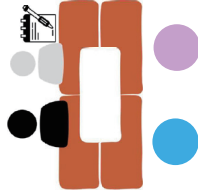
Do you have any Questions?



Let's Try!



02 ワールドカフェ



ワールドカフェ…ファシリテーター・書記以外の生徒は
別の班に行き、評価し、良い案を持ち帰ってこよう



02 ワールドカフェ



02 ワールドカフェ



移動した生徒は、アイデアに対して、シールで評価
その後、アイデアと理由をワークシートに記入



03 グループ共有へ







03 グループ共有へ

班での共有	移動した生徒は BEST SOLUTIONとその理由を共有しよう
グループワーク	幸運/悪境/ハラス のどれかを意識して1つの項目についてのBEST SOLUTIONSを決めよう
全体共有	全体共有しよう



[ワークシート② グループカード]


課題	カード置き	解決策	評価① 楽しさ	評価② 環境/SDGS	評価③ バランス
都市交通 					
貧困 					
農業 					
観光 					

[ワークシート③ 個人カード]

____年 ____組 ____番 名前_____

国際理解教育 Шийдэл (シーデル) ゲーム個人ワークシート

Q1 World Café にて別の班のベストソリューションは？ 移動する人たちはメモに使おう！

移動先	カテゴリー	解決策
班		
幸福値	SDGs	独自性

Q2 グループ活動② 班で考えたモンゴルをより良くする為のベストな解決策を記入しよう

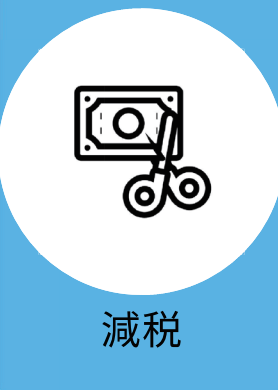
課題	解決策
都市交通 	
貧困 	
農業 	
遊牧民 	
《全体を通して気をつけたところ》	

Q3 本日の授業の感想、考えの変遷を書いてください。

[人物カード]

 <p>日本政府</p>	 <p>モンゴル政府</p>	 <p>中標津町 Nakashibetsu Town 北海道/中標津</p>	 <p>海外企業</p>
 <p>高校生/私たち</p>	 <p>観光客</p>	 <p>国際協力/JICA JICAの活動は“制度作り” や“指導”・“教育”など</p>	 <p>モンゴルの〇〇 高校生・農家・遊牧民 大人・子供... 解決をしてくれそうな 人を考えてみよう</p>
 <p>アイドル</p>	 <p>インフルエンサー</p>	 <p>モンゴルの〇〇 高校生・農家・遊牧民 大人・子供... 解決をしてくれそうな 人を考えてみよう</p>	 <p>モンゴルの〇〇 高校生・農家・遊牧民 大人・子供... 解決をしてくれそうな 人を考えてみよう</p>


[アイテムカード]



減税



育成・研修



家畜



伝統工芸
フェルト製品や織物があります。




伝統芸能



SNS



野菜



T V / C M



愛/やさしさ



法律



教育



頼み/依頼



最新技術
具体例を必ず言おう！



クラウド
ファンディング



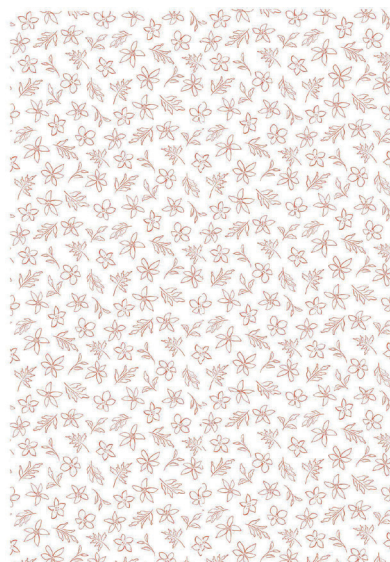
寄付/募金



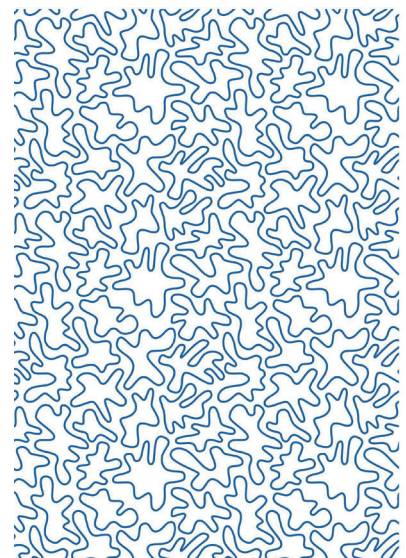
本



アイテムカード裏面



人物カード裏面



[ワークシート④ プロジェクトカード]

_____班

名前_____

- ① 『 中標津 』 と 『 国際 』 という言葉を使って中標津の課題を考えよう

- ②その達成の為に「私たち高校生」ができることを考えよう

わたしの一枚



モンゴルで見つけた”日本”

写真を撮った場所：MON-SHEP訪問後の農家さんの家庭

MON-SHEPの来訪後に立ち寄った一軒の家で、印象的な一場面に会った。部屋の壁や棚には、『ナルト』や『鬼滅の刃』をはじめとする日本のアニメキャラクターが飾られていた。正直なところ、モンゴルと日本との文化的なつながりはそれほど強くないだろう、ましてや日本のアニメが一般の人々の生活の中にまで浸透しているとは思っていなかった私にとって、その光景は大きな驚きだった。

同時に、日本のアニメが国境を越えて世界中に広がっていること、そしてモンゴルの子もたちもその魅力をしっかりと感じ取り、楽しんでいるのだという事実に気づかされた瞬間でもあった。遠く離れた国同士であっても、アニメを通して確かな「つながり」が生まれているのだと実感した。

氏名：荒井 清貴

学校名：北海道中標津高等学校



氏名 小野 瑞貴
 学校名 旭川藤星高等学校
 学年 第1学年(94人)
 実施教科(領域) 地理総合

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名)：モンゴル人の水の悩みは降水量だけなのか？

2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）

モンゴルの水の課題は降水量だけでなく、場所によって水に対する課題が違うことに気づくことができる。またロールプレイを通して、現地の人の困りごとに寄り添うことで、水に対する課題を自分ごととして考えることができる。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥帯の気候やモンゴルの生活文化について基本的な知識を理解している。 都市部、郊外、遊牧地域それぞれの水の入手方法を説明できる。
	②思考力、判断力、表現力	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件や資料から、各地域の水課題を読み取り、比較できる。 ロールプレイの役になりきり、立場に応じた困りごとを考え発言できる。 都市部、郊外、遊牧地域の課題の違いを整理し、自分の言葉で表現できる。
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイに積極的に参加し、他者の立場を尊重して考えようとしている。 モンゴルの課題を自分の生活や水の「当たり前」と対比して考えようとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> モンゴルと言えば「乾燥している」というイメージが強く、水の課題は降水量の少なさに集約されがちである。しかし実際には、モンゴル国内でも都市・地方・遊牧といった場所によって、水の入手方法や人々の困りごとは異なっていた。 研修を通して、ウランバートル市内、トルゴイト地区、遊牧地域などの人々から直接話を聞き、場所によって水の課題や抱えている困りごとが大きく異なることを実感した。本単元では、まず乾燥帯に関する基礎的知識を理解した上で、モンゴルの三つの地域（都市部・郊外・遊牧地域）における水資源の状況と生活の違いに着目し、ロールプレイを通して現地の人々の生活を追体験することをねらいとした。特に、水資源の課題を「量」の問題としてのみ捉えるのではなく、地域によって水質・距離・利用方法・インフラ整備状況など課題の性質が大きく異なることに気付かせることを重視した。また、立場の異なる人物になりきって考える活動を通して、各地域の人々が抱える困りごとや価値観の相違に理解を深め、自らの当たり前を相対化して捉える視点を育成することを目指した。 <p>【単元の意義】</p> <ul style="list-style-type: none"> この単元では、乾燥帯の気候やモンゴルの生活文化を学ぶことで、自然環境と人々の暮らしの関わりを理解する。また、モンゴルの水問題を都市部、郊外、遊牧地域という場所から比較することで、水の課題を「量」だけでなく「質」や「アクセス」「安全性」「安定性」といった多面的に捉える力を育てる。さらに、ロールプレイを通して現地の人々の困りごとに寄り添い、自分の生活の「当たり前」を問い直すことで、他者理解やグローバルな視野を広げる。 	

	<p>【児童／生徒観】</p> <p>・本授業は特進コース（19名）・ULコース（15名）・進学コース（72名）の1年生を対象とした授業である。ULコースは、海外留学や英語による実践的な学習を通して、国際社会で活躍できる力を育てることを目指すコースである。どのコースの生徒もモンゴルに対して「乾燥していて水が少ない」という固定的なイメージを持っているが、水の課題を「降水量の少なさ」だけで理解しがちである。また、他者の立場を想像する力はまだ十分ではないが、ロールプレイを通じて役になりきることで共感的に考えることができる。したがって本単元では、ロールプレイを通じて水課題を自分ごととして捉え、場所によって課題が違うだけでなく、それぞれの立場によって抱えている困りごとにも違いがあることを学びの中で理解できるよう支援する必要がある。なお生徒たちはこれまで開発教育や国際理解教育を受けた経験はない。</p> <p>【指導観】</p> <p>・本単元の指導にあたっては、モンゴルの水問題を「降水量の少なさ」だけで理解するのではなく、都市部、郊外、遊牧地域といった生活の違いに根ざした多様な困りごとに焦点を当てる。生徒がロールプレイを通して他者の立場を想像し、自分の言葉で課題を語る経験を重視することで、知識の定着に加えて、世界の課題を多面的・主体的に捉える力を育成することを目指す。</p>
--	--

5. 単元計画（全 2 時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1	<p>・気候と文化からモンゴルについて知り、現地の人の生活スタイルについて都市部、郊外、遊牧地域の三つの観点から学ぶ</p>	<p>・イメージマッピングで乾燥帯のイメージを振り返る。</p> <p>・モンゴルの気候について学ぶ。</p> <p>・年間の降水量が極端に少ない地域であることを知る。</p> <p>・モンゴルの文化（ゲル・デール）に触れる。</p> <p>・遊牧の写真を通して、遊牧民の生活を学ぶ。</p> <p>・こういう暮らしの中で、欠かせないものは何だろう？</p> <p>生徒：雨が少ない地域だから水。 家畜を育てる必要があるから餌。 でも餌（ステップの草原）も雨が少ないと枯れてしまうから、やっぱり水が必要か？</p> <p>・「水はどう確保しているのか？」を次時の課題として設定する。</p>	<p>スライド ワークシート</p> <p>ゲル デール</p>
2 (本時)	<p>モンゴルの水の課題は降水量だけでなく、モンゴル国内でも場所によって課題が違うことに気づく。また3地域の人々の立場によって抱えている困りごとにも差があることに気づく。</p>	<p>3つの地域（遊牧・都市・郊外）のロールプレイを通じて、場所によって水の課題が違うことに気づく。</p> <p>・プロフィールカードをもとに、担当の人物になりきり、現地の人々の困りごとを体験する。</p>	<p>スライド ロールプレイカード</p>

6. 本時の展開 (2 / 2)
 本時のねらい：モンゴルの水課題が「量」だけでは説明できず、地域によって課題の内容や深刻さが異なること、さらに生活背景の違いから生まれる困りごとや価値観の差異に気づく。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 5分	<p>○前時までの確認</p> <p>前回、モンゴルの人々の生活を振り返って、生活を送る上で欠かせないものは「水」という予想になりましたね。実際にモンゴルの人はどうやって生活する上で必要な水を手に入れているのでしょうか？</p> <p>○本時の課題</p> <p>モンゴルの3地域では、具体的にどのように水を手に入れ、どのような困りごとを抱えているのかを比較する</p>		スライド
展開① 20分	<p>○ロールプレイの説明</p> <p>発問：実際にモンゴルの人生活する上でどうやって必要な水を手に入れているか。</p> <p>※ロールプレイを通して役割に感情移入をしてなりきる。</p> <p>①各役割のプロフィールを確認する。</p> <p>②プロフィールカードをもとに自分の言葉に噛み砕いて、同じ班の人に自己紹介をしてください。</p>	<p>生徒に自身の役割を確認させる。</p> <p>ただカードを読み上げるのではなく、自分の言葉で読み上げるようにする。</p>	<p>ロールプレイカード</p> <p>プロフィールカード</p>

【 プロフィールカード 】

チンギス (ウランバートル市)	ゲレルトヤー (郊外)	ナラン (遊牧地域)
年齢：18歳 (高校3年生)	年齢：15歳 (中学3年生)	年齢：17歳 (高校2年生)
性別：男	性別：女	性別：女
住んでいる場所：ウランバートル中心部のアパート	住んでいる場所：ウランバートル郊外 (トルゴイト地区のゲル)	住んでいる場所：草原地帯の遊牧地域
家族構成：父・母・妹の4人家族	家族構成：父・母・弟の4人家族	家族構成：父・母の3人家族

<p>③それぞれの役割の出来事カード(朝・昼・夜)の朝カードを表にして、朝に起きた出来事を確認する。</p> <p>活動1：朝の出来事カードを見て、グループの人に朝に起こったこと or 朝にしたことを説明する。(3分)</p> <p>活動2：昼の出来事カードを見て、グループの人に昼に起こったこと or 昼にしたことを説明する。(3分)</p>	<p>カードをただ読むのではなく、自分の言葉で噛み砕いて説明する。</p>
--	---------------------------------------

	<p>活動3：夜の出来事カードを見て、グループの人に夜に起こったこと or 夜にしたことを説明する。(3分)</p> <p>④ロールプレイをもとにグループ内で3つの地域の水の入手方法をワークシートに整理する。</p> <p>⑤ロールプレイを通して感じたことをグループで議論する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナラン(遊牧)の暮らしが大変そう。 ・チンギスの暮らしが想定より日本と変わらない。水を使いたい時に使える生活。 ・ゲレルトヤーの地域で地下水の汲み上げの有料給水所を使用しているが、水が濁っていて安全面で心配だった。 <p>○発表</p> <p>①3つの地域の水の入手方法 遊牧：雨・家畜人用の井戸 郊外：給水所 都市：蛇口</p> <p>②現地の人困りごと・不安感 遊牧：水までの距離が遠い。家畜と同じ水を使用しているので安全性が不安。すぐに水を利用できる環境ではない。 郊外：水を汲んで家まで持ってくるのは大変。 都会：あまり水への困りごとを感じなかった。将来的に水がなくなる可能性がありそう。</p>	水の入手方法と感じたことをワークシートに整理させる。	ワークシート
展開② 15分	<p>○今日の授業を通して気づいたことの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じモンゴル・同じ年代でも場所によって住む場所、生活スタイルや生活レベルが違った。 ・都会(ウランバートル)の高校生と日本の高校生の生活は違うと思っていたが生活の仕方が日本に近かった。 ・遊牧地域と郊外・都市で人々の水への関わり方が全然違った。 ・量だけでなく安全性や距離にも課題があることがわかった。3箇所に住む人々がそれぞれ水の課題を抱えていることがわかった。 		ワークシート
まとめ 5分	<p>○まとめ</p> <p>都市部・郊外・遊牧地域のそれぞれの地域で水へのアクセス方法や現地の人々が抱える困りごとが異なり、水課題は一概に「量」だけでは捉えられず地域の生活条件に根ざした多</p>		スライド

	様な困りごとが存在することがわかった。	
7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ・知識・技能：乾燥帯やモンゴルの自然環境・文化を理解し、都市・地方・遊牧の水利用の特徴を説明できたか。 ・思考・判断・表現：資料や条件を基に各地域の課題を比較し、水課題の多様性を自分の言葉で説明できたか。 ・態度：役割演技や対話に積極的に参加し、他者の立場を尊重しながら水課題を自分ごととして捉えようとしているか。		

【参考資料】

資料および外部との連携

- ・東京書籍株式会社（2025）『地理総合』令和8年度版、東京書籍、pp.82-83
- ・Ministry of Environment and Green Development, Government of Mongolia. *Tuul River Basin Integrated Water Management Plan*. Developed within the framework of the “Strengthening Integrated Water Resources Management in Mongolia” project, funded by the Government of the Kingdom of the Netherlands. Ulaanbaatar, 2012.
- ・独立行政法人 国際協力機構 JICA 『モンゴル国 ウランバートル市給水事業に関する調査報告書』2010年、モンゴル国道路運輸建設都市開発省ウランバートル市上下水道公社
- ・chatGPTでのプロフィールカード作成時のプロンプト

「モンゴルの遊牧地域に住む10代の子どもをイメージしたイラストを作成してください。実写写真をもとに、人物の表情や服装の特徴は活かしつつ、イラスト調で柔らかい雰囲気にしてください。教材として使用するため、3人とも共通した親しみやすいタッチで、背景はシンプルにしてください。」

【自己評価】

苦勞した点	本単元では、モンゴル国内における水資源の課題の地域差を、生徒が知識の羅列としてではなく、立場に応じた困りごとの違いとして理解できるようにすることを重視した。都市部・郊外・遊牧地域では、水量・水質・距離・インフラなど課題の種類が大きく異なり、それが生活の切実さに直結する構造であるということを生徒が整理するのは容易ではなかった。特に、生徒が「モンゴル＝水が少ない国」という一般的イメージに捉われており、地域内の多様性に目を向けさせるためには、教材の扱い方や発問の内容に工夫が必要であったと感じている。
改善点	ロールプレイ用の人物カードを用いて背景理解と感情移入を促すことをねらったが、生徒がカードに書かれた情報のみを手がかりに演じてしまい、各人物が置かれている状況や価値観への理解が十分に深まらないまま活動が進む場面があった。そのため、「立場の違いから生じる水課題に関するジレンマ」や「価値観の衝突」がグループ内で明確に表れなかった。今後は、人物カードに生活条件・優先順位・価値観などの背景情報をより具体的に盛り込み、活動の中で自然に対立や葛藤が浮かび上がるよう、教材の精緻化を図る必要がある。
成果が出た点	どのクラスにおいても共通教材を用いたが、発問の言い回しを調整したことで、生徒の思考の深まりが見られた。特に、ロールプレイ後のワークシートにおいて「距離」「安全性」「アクセス」の3軸で課題を整理できる生徒が増え、課題を単に水が少ないという視点から多面的に捉える姿勢が育まれた。また、都市地域の生活が日本と似ていることに気づき、固定的イメージに揺さぶり

	がかかる学習となった点は、本単元の成果である。
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	<p>【授業を通して感じたこと（生徒記述）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じモンゴル・同じ年代でも場所によって住む場所、生活スタイルや生活レベルが違った。 ・都会（ウランバートル）の高校生と日本の高校生の生活はもっと違うと思っていたが生活の仕方が似ていた。 ・遊牧地域と郊外・都市で人々の水への関わり方が全然違った。 ・水が足りない地域だと思っていたが、量だけでなく安全性や距離にも課題があることがわかった。
授業者による自由記述	<p>現地研修で感じた「都市部と農村部での暮らしの違いの大きさ」は、生徒にモンゴルを一つのイメージで捉えきれないことを伝える上でとても大事な視点だった。本単元では、現地で得たその気づきを授業の中に取り入れ、生徒が自分の当たり前を見直せるような構成を意識した。今後は、研修で見た人々の生活の様子をより生かせるよう、ロールプレイ用の人物カードにもう少し背景を加えるなどして、活動がさらに深まるよう工夫していきたい。</p>
次年度以降の取組予定	<p>次年度は、モンゴルにおける課題理解に留まらず、日本の水問題との関連を明確に位置づけた単元構成へ改善したい。日本にもバーチャルウォーターや水道インフラの老朽化などの課題が存在し、さらに日本はモンゴルへの水道技術支援を通じて国際的な相互補完的な関係を形成している。これらの視点を扱うことで、生徒がモンゴルの課題を遠い国の出来事ではなく、自らの生活とつながる問題として捉え、自分ごととして考える契機をつくることができると思う。また、人物カードやロールプレイについては、背景情報や価値観の設定をより精緻化し、立場の違いから生じる対立やジレンマが自然に浮かび上がるよう改良を加えることで、学習の深まりを一層促進したい。これらの改善を通して、単元目標である「当たりの相対化」と「他者理解の深化」をより確実に実現していきたい。</p>


【ロールプレイカード】

ウランバートル(都市)



チンギス

- 年齢: 18歳(高校3年生)
- 性別: 男
- 住んでいる場所: ウランバートル中心部のアパート
- 家族構成: 父・母・妹の4人家族
- 学校生活: 私立高校に通っていて、政治家を目指して勉強中。



ウランバートル(郊外)



ゲレルトヤー

- 年齢: 15歳(中学3年生)
- 性別: 女
- 住んでいる場所: ウランバートル郊外トルゴイト地区のグル
- 家族構成: 父・母・弟の4人家族
- 学校生活: 近くの中学校に通っている。朝はお母さんと水くみをしてから登校。



遊牧地域



ナラン

- 年齢: 17歳(高校2年生)
- 性別: 女
- 住んでいる場所: 草原地帯の遊牧地域
- 家族構成: 父・母の3人家族
- 学校生活: 放牧を手伝いながらオンラインで勉強している。



<p>ウランバートル(都市)</p>  <p>洗面所、日本と違いはない。</p> <p>【チンギスの朝】 朝起きて毎日の習慣であるシャワーを浴びて体がサッパリした。今日も1日勉強頑張るぞ！</p>	<p>ウランバートル(都市)</p> <p>うちの地区、下水道がなくトイレが困る</p> <p>ウランバートルの水道普及率: 約70% 下水道普及率: 約30%</p> <p>【チンギスの昼】 別の学校の友だちが「うちの地区、下水道がなくトイレが困る」と話していた。郊外ではまだ上水道や下水道がつながっていない地区もあるみたい。</p>	<p>ウランバートル(都市)</p>  <p>【チンギスの夜】 夜のニュースで「川や地下水が汚れてきている」と言っていた。小さい頃はモンゴルの水は綺麗で豊富で聞いていたけれど、将来的にはどうなんだろう。</p>
<p>ウランバートル(郊外)</p>  <p>地下水を汲み上げて市民に配布する有料供給所</p> <p>【ゲレルトヤーの朝】 朝6時、ポリタンクを持って給水所に行った。タンクが重くて風も冷たくて手が痛い。</p>	<p>ウランバートル(郊外)</p>  <p>ポットトイレ (ただし、地面に穴を開けただけ)</p> <p>【ゲレルトヤーの昼】 私の地区は上水道も下水道もないから、街みたいに気軽に手も洗えない。だけど今日は3日に1回のシャワーだ！公衆シャワーでサッパリしたいな！</p>	<p>ウランバートル(郊外)</p>  <p>【ゲレルトヤーの夜】 夜、お母さんが夕食を作りながら言った。「今日は水が少ないから、洗濯は明日にしようね。」茶色い水を鍋の中に入れて煮沸し、少しずつ大切に使った。</p>
<p>遊牧地域</p>  <p>【ナランの朝】 朝、雨が降りました。久しぶりの雨です。ずっと空は青く澄んでいたけど地面にはひびが入っていたので心配していました。最後に雨が降ったのはいつだったか？と父に聞いたら、「1ヶ月前に一回振ったから、これが今年2回目の雨になるね」と言われました。</p>	<p>遊牧地域</p>  <p>【ナランの昼】 家畜に水を飲ませるために5キロ離れた家畜兼人間の井戸に来た。家族用にも水を汲むと地下水はずこし茶色に濁っていた。なぜだろう？</p>	<p>遊牧地域</p>  <p>ポットトイレ (ただし、地面に穴を開けたら地中の汚物を回収することはしない)</p> <p>【ナランの夜】 夜中、トイレに行きたくなり起きてしまった。少し寒いので、上着を羽織って外に出た。星空が綺麗だった。明日は久しぶりに川に行つて体を綺麗にしようと思う。</p>

地理総合

20. 乾燥帯の人々の暮らし②

Q：モンゴルの人はどうやって生活する上で必要な水を手に入れているか？

では、実際に現地の人になりきって考えてみましょう！

ロールプレイ

- Q：モンゴルの人はどうやって生活する上で必要な水を手に入れているか？
- I：三人グループになり、一人一役演じてもらいます。
 ➡では実際に演じてもらおう人物を見てみましょう。



配置図 (机)



ロールプレイ

- 2：プロフィールカードを1枚引いて自分の役を確認してください。(30秒)
- 役のなりきり開始 —
- 3：プロフィールカードを元に班の人に自己紹介しましょう。(1分30秒)

ロールプレイ

- 4：一つの役に3枚出来事カード(朝・昼・夜)があります。出来事カードを朝から順番に引いてもらい、それを見ながらスライドの質問に答えてもらいます。

ロールプレイ

- 朝の出来事カードを見て、グループの人に
 ・朝に起こったこと or 朝にしたこと を説明 (3分)

ロールプレイ

- 昼の出来事カードを表にしてください。
- 昼の出来事カードを見て、グループの人に
 ・昼に起こったこと or 昼にしたこと を説明 (3分)

ロールプレイ

夜の出来事カードを表にしてください。

夜の出来事カードを見て、グループの人に

・夜に起こったこと or 夜にしたこと を説明

(3分)

ロールプレイを思い出しながらグループ内で、三つの地域を比較しまとめよう。

① 3つの地域の水の入手方法

② 現地の人々の困りごと・不安感

[ワークシート](本時で使用)

モンゴル【ロールプレイ】

私の役割【
】

友達の役割【
】

友達の役割【
】

○ 今日の授業を通して感じたこと・気づいたこと

○ まとめ

わたしの一枚



乳製品と歓迎の心

写真を撮った場所：農家さんの家庭で撮影

農地見学後に訪問した農家さんで、料理を振る舞っていただいたときの一枚である。モンゴルには、訪れた人を料理でもてなし歓迎する文化があり、私たちが訪問した際にも、伝統的な乳製品を中心とした料理を用意して下さった。

モンゴルの乳製品には多くの種類があり、このときは「アーロール」や「エーズキー」など、日本ではあまり口にする事のないチーズをいただいた。写真右中央に写っている「ボールツォグ」は、ドーナツのような素朴な甘さのおやつである。

後日訪れた別の家庭でも同様にもてなしを受け、特に印象に残っているのが、塩を入れたミルクティー「スーテーツァイ」である。甘い飲み物という先入観を覆す味わいに、異国の食文化を強く感じた。こうした乳製品文化と、惜しみなく料理を分け与えるもてなしの姿勢、そして困っていると自然に声をかけてくれる人々の温かさに触れ、モンゴルの民族性の豊かさを改めて実感した一枚である。

氏名：小野 瑞貴

学校名：旭川藤星高等学校

IV. 參考資料



2025年度JICA北海道 教師海外研修 募集要項

MONGOLIA モンゴル



～ 遊牧の民と大自然を体感！
世界一贅沢な授業づくり～

JICA北海道（札幌・帯広）開催



募集人数

北海道教員 8名



モンゴル国 研修内容(案)

1. 学校訪問、児童/生徒/教員との交流・インタビュー
2. 地域住民との交流・インタビュー
3. JICAプロジェクト現場視察、JICA海外協力隊現場視察
NGO活動現場視察



応募方法



エントリーフォーム

2ステップ申込にて受付します。

- ①エントリーフォームにて、氏名・学校名・連絡先・提出方法(メール、郵送、持込み)を入力。
- ②所定の用紙に必要事項を記入の上、『4.申し込み・問い合わせ先』宛にエントリーフォームで選択した提出方法でお申し込みください。

申し込み締切→2025年5月19日(月)17:00必着

2025年6月2日(月)までに選考結果を通知する予定です。

※申込の未達等の連絡は①に記載いただいた連絡先に差し上げますので、必ず①の入力を済ませた上で、②へお申し込みください。



主
担 当 機
後

催：独立行政法人国際協力機構(JICA)
関：JICA北海道（札幌・帯広）
援：外務省、文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会



訪問国モンゴル国の基本情報

国名：モンゴル国

首都：ウランバートル（人口約173.5万人）（2023年、モンゴル国家統計局）

言語：モンゴル語（国家公用語）、カザフ語

宗教：チベット仏教等（社会主義時代は衰退していたが民主化（1990年前半）以降に復活。

1992年2月の新憲法は信教の自由を保障）

民族：モンゴル人（全体の95%）及びカザフ人等

面積：156万4,100平方キロメートル（日本の約4倍）

人口：約350.5万人（2023年、モンゴル国家統計局）

外交：隣国である中国とロシアとのバランスの取れた外交関係を展開しながら、両隣国に過度に依存することなく「第三の隣国」との関係を発展させることである。中でも日本との関係は特に重視されており、様々なレベルでの交流を通じて、二国間関係を強化している。



※データは外務省HPを参照し、記載(2025/4/10現在)

1：研修のねらい

- ①本研修は、実際に開発途上国を訪問し、開発途上国の現状・課題、日本との関係、国際協力の現場を体験することで開発途上国と北海道の繋がりやSDGsについて理解を深め、『参加型・対話型』の授業づくりを行うことをねらいとしています。
- ②研修参加者同士の意見交換や知見の共有を通して、研修後も継続してJICA北海道(札幌/帯広)と協力し、教育現場においてさらなる①の推進を図っていただくことも目的としています。
- ③参加者は、事前・事後の国内研修と、開発途上国への海外研修を通じて、現地で得られる情報・素材を活用した『参加型・対話型』の授業案の作成とその実践を行っていただきます。
- ④広く教育関係者へ開発教育/国際理解教育の重要性を発信するために、授業や指導案を紹介する「成果報告会」を実施します。


2：参加資格



- ① 北海道内の国立/私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援学校に勤務する教員で(ア)授業もしくはクラブ活動等で国際理解教育を実践中であり、今後も学校内外において継続的に実践する意思がある方、または(イ)現在実践はしていないが、今後JICAと連携・協力しながら開発教育/国際理解教育の普及促進に貢献する意欲がある方。 ※今後、長く教育現場で実践できる方が望ましい
- ② 所属する学校長からの推薦がある方
- ③ 開発途上国での海外研修に耐えうる健康状態の方
- ④ 本研修の趣旨・目的を十分理解し、海外現地研修及び国内で実施される事前・事後研修、成果報告会の全日程【3.研修日程(予定)参照】に参加可能、かつ積極的に取り組める方
- ⑤ 帰国後、2025年11月下旬までに本研修で作成した指導案に基づき、勤務校等にて『参加型・対話型』の授業実践ができる方
- ⑥ 必要提出物をJICAが設定する期限までに提出できる方
- ⑦ 研修報告書及び授業実践報告、研修中(事前・事後を含む)や、勤務校等での実践授業の様子を撮影した写真/映像をJICA事業広報のために使用することに同意できる方
- ⑧ 原則として、過去にJICA教師海外研修、JICA海外協力隊、JICA専門家、ODA民間モニター、国際協力レポーター等、外務省やJICAから海外に派遣された経験のない方 ※教師国内研修参加者については応募可
- ⑨ 将来的にJICAが実施する国際理解教育支援事業での講義等の協力が可能な方
- ⑩ 連絡可能なメールアドレスを所有し(携帯メール不可)、JICAが管理するSNSやメーリングリストに登録可能な方 ※研修に係る情報共有や帰国後のネットワーク等に活用



3：研修日程(予定)

研修事項	場所	日程	内容
全国合同 募集説明会	オンライン	2025年 4月23日(水) 17:30～18:30	◆JICA本部が行う募集説明会 詳しくはこちらのQRコードから→ 
第一次事前研修	JICA北海道 (帯広)	2025年 6月21日(土)、 6月22日(日)	◆オリエンテーション ◆教師海外研修参加者チームビルディング ◆訪問国事情 ◆モンゴルの概要、研修日程についての説明 ◆海外研修を踏まえた指導案作成・授業実践について
第二次事前研修	JICA北海道 (札幌)	2025年 7月19日(土)、 20日(日)	◆旅程確認、現地での活動準備、渡航手続き等 ◆国際理解教育セミナー【実践編】 ◆『参加型授業』のつくりかたについて
海外研修	モンゴル	2025年8月1日(金)～ 8月11日(月)のうち 1週間程度	◆学校訪問、児童/生徒/教員・地域住民との交流や インタビュー、JICA海外協力隊活動視察、 JICAプロジェクト現場視察、NGO活動現場視察等
事後研修	JICA北海道 (帯広)	2025年 9月13日(土)、 14日(日)	◆指導案検討会 ◆研修参加者は指導案を作成、他の研修参加者 および関係者と指導案を共有、意見交換
授業実践	各所属校	2025年9月中旬～ 11月下旬	◆各所属校にて授業実践 ◆アドバイザー、JICA職員による授業モニタリング
成果報告会	JICA北海道 (札幌)	2025年 11月29日(土)、 30日(日)	◆成果報告会を一般公開し、研修参加者の研修報告 および授業実践報告を行う ◆国際理解教育セミナー【共有編】
成果品の作成		2026年3月末	◆研修参加者の海外研修報告書および指導案を基に成 果品として実践報告集を作成し、関係者に配布 (電子版および簡易製本版)

4：申し込み・問い合わせ先

〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25 JICA北海道(札幌)内
公益社団法人 青年海外協力協会 教師海外研修担当 (JICA業務委託先)
TEL：011-866-1515 FAX：011-866-1516 Email：hokkaido@joca.or.jp





5：参加費用

区分	個人負担経費	JICA負担経費
国内	<ul style="list-style-type: none"> ◆パスポート取得にかかる費用 ◆事前・事後研修、成果報告会参加における食費等 ◆予防接種費用(黄熱病等) ◆その他、個人的な費用 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事前・事後研修、成果報告会参加のための国内移動(自宅から研修場所)にかかる旅費 ◆事前・事後研修、成果報告会にかかる宿泊費(超過分は個人負担) ※研修当日、居住地の都合により、早朝深夜の移動となる方のみ対象 ◆海外研修への国内移動(自宅～羽田もしくは成田空港)にかかる旅費、空港使用税 ※交通費、宿泊費はJICA規定に基づきお支払いします。(経済経路)
海外	<ul style="list-style-type: none"> ◆海外研修中の食費および宿泊費(全旅程で12万円程度。為替相場により変動する場合があります。) ◆追加保険の加入費用 ◆その他個人的な費用 	<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問国(モンゴルを予定)への入国に必要な査証申請のための費用 ◆往復航空運賃および燃油サーチャージ ◆羽田もしくは成田空港および海外での空港使用税 ◆往復航空券手配にかかる手数料 ◆海外旅行損害保険加入費 ◆現地視察に必要な費用(車両備上等)

6：その他、注意事項

- ◆本研修には、ツアーコーディネーターは同行しないことから、ご自身で情報収集をしていただく必要があります。
- ◆参加者の研修中の扱い(年休/研修等)については、所属先の判断によりますので、ご自身でご確認をお願いします。
- ◆本研修では、JICAにおける労災保険等の適応はありません。所属先の業務出張扱いで参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の公務上災害に対する補償処置を行ってください。
- ◆研修の参加者として選考された後においても、JICAの指示に従わない方、他の参加者へ迷惑をかける方、研修プログラムに参加できない方、期日までに提出物の提出ができない方については、国内外での研修期間を問わず、研修参加者としての資格を失うことがあります。特に海外研修中に研修対象者としての資格を失った場合、旅費・滞在費等にかかるキャンセル料等は、全額自己負担となります。また、帰路の旅費も自己負担となりますので、ご了承ください。
- ◆海外研修中に事故が起こった場合、海外旅行保険の範囲内において補償します(国内での研修は除く)。
- ◆研修実施国の諸事情により、予定していた研修プログラムが変更になる可能性があります。
- ◆本研修を通じて作成・提出いただくレポートや写真等の資料一式は研修参加者間の相互の学びのため、全研修参加者に共有いたします。また、広く他の教員の方々にもご参照・ご活用いただけるよう、JICAのHP、メールマガジン、その他各種広報誌等を通じてご紹介させていただく場合がございますので、可能な範囲でご協力をお願いいたします。
- ◆応募時にいただいた個人情報、利用の可否を確認のうえ、本研修以外のJICAの研修やイベントの情報提供に使わせていただく場合があります。いただいた個人情報は、JICAの内部規程(個人情報保護に関する実施細則)に基づき、適切に管理いたします。
- ◆JICAの開発教育/国際理解教育及び研修のさらなる充実、改善に生かすため、参加者の研修後の開発教育/国際理解教育への取組について、後日アンケートを実施しますので、回答へのご協力をお願いいたします。



教師海外研修って？

開発教育や国際協力に関わる講義、ワークショップ、フィールドワークを中心とした研修プログラムです。国際協力の現場を訪問し、様々な「人」と出会い、帰国後はその経験をもとに「生徒が主体的に考え学べる」授業づくりを行い、自身の学校で実践までを行います。

学ぶ！



海外研修に向けた準備

開発教育とは？『参加型』授業づくりとは？ そんな疑問にお答えするために、本研修では「基礎」の部分から講座を実施します。また、過去参加者との交流を通して、授業づくりのコツや海外研修でどのように取材を行うか等、授業づくりの不安にもお応えします！

体験する！



海外研修

海外研修では「開発途上国」を知るために現地を視察し、JICAやNGOがどのような取り組みをしているか学びます。また、現地の方との交流や学校訪問もあり、五感をフルに使って沢山の気づきを得ます！

実践め



授業実践に向けた準備

帰国後研修では、訪問国で得た体験や資料をもとに授業づくりを行います。

先生自身の伝えたいことを見極め、児童・生徒が主体的に考え学ぶにはどのような指導案が良いのか、参加者やアドバイザーと相談しながら進めていきます！



授業実践

国内外での研修を通じて作成した指導案に基づき、各所属校において授業実践を行い、指導案の更なる改善を図ります。



成果報告会

国内外での研修、授業実践を行った成果を教育関係者や一般の市民を対象に報告会を行います。



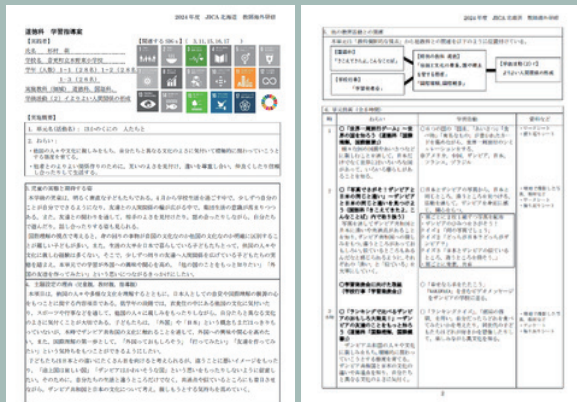


～こんな人におすすめ～



- ・地球市民への視点を広げて授業づくりをしていきたい方
- ・地域の特性や強みについて、生徒たちと一緒に考えていきたい方
- ・探究学習を向上させたい方
- ・参加型授業づくりについて学びたい、実践したい方
- ・地域、教科、校種を超えた仲間づくりをしたい方

～研修のゴール～



海外研修で体感したことをもとに、生徒に伝えたいことを教材化します。

- ・参加型／対話型の手法を使った授業をつくりまします。
- ・指導案を作成します。
- ・自身の学校にて実践をしていただきます。

※過去の参加者による指導案はQRコードよりご参照ください。



Think Globally, Act Locally

2024年度
参加者の
感想



水・ゴミ問題は日本も含め
全世界の課題だと痛感した！

現地で活躍する協力隊員とお話を
して、自分の人生を見つめなおす機会
になりました。

参加者同士がお互いにアイデアを出し
合うことで、自分の指導に対する考
えを深めることができました。

一生の思い出に残る贅
な研修になりました！



関連イベント

5/11
SUN

国際理解教育セミナー 開催！

入門編

JICA北海道
主催イベント

「世界がもし100人の村だったら」をワークショップで体感
経験豊富なアドバイザーと一緒に、国際理解
の基礎となる「多様性」や「貧富の差」を
ワークショップで学びます。参加型授業を学
びたい方や一般の方も大歓迎！



お申し込みは
こちら！



<https://x.gd/mtynt>

※本研修は「DEAR」教材を使用しています

日時：2025年5月11日(日)

14：00～16：40

場所：JICA北海道センター（札幌）

定員：30名

5月8日(木)締切

★「教師海外研修」体験談も聞ける！



JICA北海道 2025年度教師海外研修 応募用紙

ふりがな			生年月日	年齢
氏名			年 月 日	2025年5月19日時点の満年齢 歳
自宅住所	〒			
電話番号 (固定)		電話番号 (携帯)		
E-mailアドレス (携帯メール不可)				
ふりがな			職 階	教諭 ・ 主幹教諭 その他 ()
所属学校名 (正式名称)			担当教科 学年	
学校住所	〒			
電話番号		FAX番号		
趣味・特技				
Q. 以下の設問について□に✓チェックしてください。				
1. 研修全日程への参加について健康上の問題はないでしょうか。			□ はい □ いいえ	
2. フィールドワーク及び対面・オンラインで実施される研修の全日程に参加できますか。			□ はい □ いいえ	
3. 本研修で作成した指導案を基にした授業を2025年11月までに所属校で実践できますか。			□ はい □ いいえ	
4. 指導案及び研修報告書をJICAが設定する期日までに提出できますか。			□ はい □ いいえ	
5. 研修後に、JICAが実施する国際理解教育支援事業での講義等の協力が可能ですか。			□ はい □ いいえ	
JICAの国際理解教育支援プログラムを活用されたことがある方は以下の□に✓チェックしてください。				
<input type="checkbox"/> ①ほっかいどう地球ひろば訪問 <input type="checkbox"/> ②国際協力出前講座 <input type="checkbox"/> ③中・高生エッセイコンテスト <input type="checkbox"/> ④研修員・道内在住の外国人による学校訪問 <input type="checkbox"/> ⑤ 国際理解教育指導者研修 <input type="checkbox"/> ⑥その他()				
現在治療している傷病、 もしくは日常的に服用している薬がある	過去教師海外研修の参加経験		<p style="text-align: center;">写真</p> <p style="text-align: center;">(4cm×3cm)</p> <p style="text-align: center;">左のラインに合わせて貼付</p> <p style="text-align: center;">写真裏面に氏名を記入</p>	
<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない あると答えた方は詳しくお書きください。	<input type="checkbox"/> ある 平成 _____ 年 <input type="checkbox"/> ない			
私は研修の概要、募集要項記載事項をすべて承諾し、この研修への参加を申し込みます。				
2025年 月 日 署名			④	

応募書類において入手しました個人情報、本研修の選考および派遣業務のみに使用します。また、当該情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。ただし、当機構との間で機密保持契約を締結した第三者に対し、本研修に関する業務を委託する場合を除きます。



多様性 貧富の差
国際理解教育を体感する
ワークショップ

“100人村”からはじめよう!

2025年度JICA北海道 国際理解教育セミナー【入門編】

5/11
SUN
14時スタート!

「世界の問題を身近に感じてもらうには?」「授業を参加型にしたい!」
そんな方にお勧めの入門教材が「世界がもし100人の村だったら」(DEAR)です。
経験豊富なファシリテーターが、実践ポイントなどを解説。ワークショップ初心者でも安心して学べるので、教員だけでなく、開発教育/国際理解教育に興味のある一般の方の参加も大歓迎です!

「教師海外研修」参加者の体験談も聞けます!

定員 30名

場所 JICA北海道センター(札幌)
札幌市白石区本通16丁目4-25
2階ブリーフィングルーム

申込方法

右のQRコードから
必要事項をご入力ください
5月8日(木)締切



当日の流れ	
13:30	受付開始
14:00	アイスブレイク 【ホビーライン】
14:15	ワークショップ 【世界がもし100人の村だったら】
15:15	振り返り
15:35	「参加型手法」のポイント
16:00	「教師海外研修」体験談
16:30	アンケート

後援：北海道教育委員会(予定)、札幌市教育委員会(予定)

お問い合わせ

公益社団法人 青年海外協力協会 (JICA業務委託先)
☎: 011-866-1515 MAIL: hokkaido@joca.or.jp



(2025年度 JICA北海道 国際理解教育セミナー 実践編)



JICA北海道(札幌)主催



2025年度
国際理解
教育セミナー
【実践編】

ワークショップ

ちがいのちがい

7月19日(土)
開催!

定員
30名



これってブツ？

常識を疑うことから始めよう!



教材：財団法人大阪府人権協会/大阪府府民文化部人権室



D-netの先生が実践ポイントをレクチャー!

Let's think!

このちがいは
おい? なし?



① A社では体の不自由な人を雇用しているが、B社ではしていない。

② 女性のお医者さんには女医さんと言うが、男性のお医者さんは男医さんとは言わない。

日本や世界にある違いや差について「あっていいちがい」か「あってはいけないちがい」かを考えるワークショップ。
【入門編】に続き今回もD-net(北海道開発教育ネットワーク)の先生をお迎えし、明日から使える実践方法を伝授します!
何気なく見過ごしている区別や差別を、ジェンダー・障がい・文化や歴史的背景をふまえて深掘りできる貴重な機会、教員だけでなく一般参加もお待ちしております。

当日のながれ	
14:00	開始(13:45より受付開始)
14:05	アイスブレイク
14:15	カードワーク 「ちがいのちがい」
15:15	休憩
15:20	振り返り
15:50	集合写真 アンケート
16:00	終了



対象:
教員、大学生以上で開発教育/
国際理解教育に関心のある方



会場:
かでの2・7 10F 1030会議室
(札幌市中央区北2条西7丁目
道民活動センタービル)



公益社団法人 青年海外協力協会
(JICA業務委託先)
☎:011-866-1515
MAIL:hokkaido@joca.or.jp

お申込み



7月16日(水)
17時締切



要予約 参加無料

11/29 (土)

13:00~17:40 途中入退室
(受付 12:30~) 自由

会場：JICA北海道(札幌)
〒003-0026 札幌市白石区
本通16丁目南4-25

Mongolia

北海道の教員8名が、
モンゴルで体験した
ことを素材に授業づ
くりを行いました！



2025

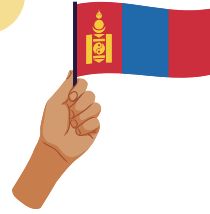
JICA北海道主催

教師海外研修inモンゴル

成果報告会

国際理解教育セミナー | 共有編

世界の課題を児童・生徒がデジタルとして
考える授業づくりの
アイデアが満載！



オンライン参加
OK! (ZOOM)



対面
定員40名



お申込みは
こちら！



11/24
締切

開発教育ってなんだろう？

教師海外研修に興味がある！

どなたでも参加OK！
お気軽にご参加ください

後援：外務省／文部科学省／北海道教育委員会／札幌市教育委員会

(2025年度 JICA北海道 国際理解教育セミナー 共有編 ウラ面)



気になる授業を **選** んで👉 体験!

当日のプログラム



13:00～13:25	本研修の概要(授業づくりの視点から)	利尻富士町立鴛泊小学校 藤森菜月教諭
13:25～14:25	模擬授業体験①	総合音楽社会 「文化が消える? 未来をつくるのは、私たち」 釧路市立鳥取小学校 本間千尋教諭
14:30～15:30	模擬授業体験②	国語 「合意形成に向けて話し合おうー課題解決のために 会議を開く」 札幌市立元町中学校 山田翔子教諭
15:35～17:15	★教材紹介セッション①～③	
17:15～17:40	参加者の方々からの感想/アドバイザーからのコメント	



セッションごとに
好きな授業を選択!

★教材紹介 セッション



【社会(地理)】
「近くて知らない国モンゴルのお話」
札幌市立北野中学校 菅井誠教諭

セッション①15:35～16:05

【総合的な学習の時間】
「モンゴルの暮らし、その背景を探る旅」
幕別町立札内北小学校 小野竜大教諭

【生活・国語・道徳】
「せかいと なかよし
～こんにちはモンゴル!」
利尻富士町立鴛泊小学校 藤森菜月教諭

セッション②16:10～16:40

【総合的な探究の時間】
「社会を変える?!
高校生のソリューション」
北海道中標津高等学校 荒井清貴教諭

【総合的な探究の時間】
「違いがあって、イーネ!!」
北海道室蘭養護学校 山西真理教諭

セッション③16:45～17:15

【地理総合】
「モンゴルの水と見えない水」
旭川藤星高等学校 小野瑞貴教諭



お問い合わせ

公益社団法人
青年海外協力協会

☎011-866-1515

✉hokkaido@joca.or.jp

JICA 北海道教師海外研修



JICA 北海道教師海外研修
実践報告集



M.YAMANISHI
R.ONO
N.FUJIMORI
C.HONMA
M.SUGAI
S.YAMADA
K.ARAI
M.ONO
Y.MIZUTANI
H.TOUMINE
A.KIRIYAMA
M.NONOGAKI
N.YAMADA



Discover

Mongolia

Learn from

Mongolia

Think
Globally,

Act

Locally.

